





TITANS
TEST TEAM
ティターンズ・テスト・チーム(T3)

TITANS
TEST
TEAM
MEMBER



CARL
MATSUBARA

カール・マツバラ

エリアルドと同期にティターンズに入ったライバルであり、よき友人。明るい変わり者で思い立ったら直線に突き進む。小隊のムードメーカー。日系のハーフで、本当は黒髪だが、気分によって染めている。マーフィー小隊の後衛である3番機を駆る。24歳(U.C.0084年時)。

AUDREY APRIL

オードリー・エイプリル

マーフィー小隊の紅一点で、エリアルドやカールの憧れの女性。MSパイロットではあるが、テスト・チームでは基本的にオペレーターを務めていることが多い。情報通でゴシップ好き。才色兼備だが、実は動物が苦手という欠点を持っている。25歳(U.C.0084年時)。

WES MURPHY

ウェス・マーフィ

マーフィー隊の1番機を駆る。冷静沈着な小隊長。一年戦争のソロモン攻略戦で初陣を飾り、「デラース紛争」などでも活躍した歴戦の勇者。小隊のメンバーに対しては厳しいが、反面よき兄貴分でもある。ウサギ好きという意外な一面を持っている。30歳(U.C.0084年時)。

ELIARD HUNTER

エリアルド・ハンター

本編の主人公。理想に燃えてティターンズに志願した青年士官。やる気に満ち溢れており、時折そのやる気が空回りすることもあるが、決して軽率なタイプではない。本人には自覚がないが、優秀なパイロットである。マーフィー隊では2番機を駆る。23歳(U.C.0084年時)。

ディターンスの旗のもとに

CONTENTS



ADVANCE OF Z

Vo 1

多少あります、ご了承ください。

七創通一「ジェンダ」・サマライズ



フレックス・フォーラ

エウゴ

反地球政府連動 (A.E.U.G. = Anti Earth United Government) を導く。ティターンズによる宇宙移民の強圧・移民に反対するべく、フレックス・フォーラ率いる手によって組織された。主に月に本社を持つアナハイム・エレクトロニクス (以下A.E.) 社より出資を受けており、連邦軍内部にも同盟者は多い。地上の反政府組織カラバとは協力関係にある。



メラニー・ヒュー・カーバイン

アナハイム・エレクトロニクス

一年戦争後、旧ジオン系のジオニック社などを吸収して大きくなった巨大企業。エウゴのメインスポンサーであるが、もしもの場合を考えたティターンズに対する支障も行う2面性を持っている。

ハーマン・カーン



アクシズ

一年戦争直前、共和国体制への移行と停戦条約の締結を深しとしなかったジオン軍内の勢力は、ドスル・ザビの孤児形であるミカバ・ラオ・ザビを擁し、資源小惑星アクシズと配給を争い、アステロイドベルト帯へと逃げ延びた。やがてアクシズ勢力は、ティターンズとエウゴの対立からくる混乱を見限り、地球圏へと接近を始める。実質的な指導権を掌握しているのは強力なニュータイプでもあるハーマン・カーン。

U.C.0087~88年の勢力

ADVANCE OF Z の時代は、様々な勢力が正義や利権をかけて争っている。ここでは、主な4つの勢力の成立理由などを解説する。

ティターンズ 「I」 ANE

U.C.0083年、ジャミトフ・ハイマン准将 (当時) によって設立された連邦軍の精鋭部隊。ジオン軍の戦況悪化を主任務として設立されたが、やがて軍機の特権化を認めさせるなど、連邦軍内の独立した勢力として台頭するに至った。彼らは地上に主眼を据けて宇宙移民の弾圧を行った。その代表的な例が、反連邦を掲げたデモ活動に弾圧するため、コロニーに毒ガスを注入して一般人ごと消滅した「30V (パンチ場内)」である。その非人道的な行為は、多くの宇宙移民の感情に反響を招くこととなった。

バスク・オム



ジャミトフ・ハイマン



30Vパンチ場内

U.C.0085年7月31日、連邦軍内におけるティターンズの勢力を一気に拡大させることになった「30Vパンチ場内」が完了した。

その日、サイド1の30Vパンチ場で、反地球連動政府運動の発表行われていた。それに伴い、30Vパンチコロニー内部でデモやササテラジュが実施されたため、対応に苦慮した連邦軍の駐留部隊は、大規模な弾圧に発展することとなった。ティターンズは連邦軍の弾圧のための指令を、ジャミトフ准将の部下、バスク・オム大佐は、この指揮行動がジオン軍連邦軍に弾圧され、身体制式と判別、住所に何の重要も持たずことなく破壊である。G.O.システムをコロニー内部に注入したのである。コロニー内の住民三十万人は全滅した。ティターンズの強硬へと行われてきたこの作戦の真相は、隠蔽されて隠れてきた。

この事件以降、ティターンズの目的のために、はみ出しを過ぎない者は、連邦の軍と政府内部に異議を唱える者も受け付けず、そして、ティターンズの権限はさらに拡大され、その任務には拘束されなくなった。

「反地球主義者の弾圧」が加えられた。しかし、この様な弾圧活動は多くのスペースノイドの生命を奪い、結果としてスペースノイドの指導者を目指した反地球連動政府、エウゴの組織化へとつながっている。

反地球連動政府

U.C.0087年3月2日、サイド7・パンチ・グリッド・ノアでテストフライトを行っていたティターンズの機体「MS-06R-178 ガンダム・モビルスーツ」が、暴走したエウゴのMS部隊によって奪取された。それまで年々活動を行っていたエウゴが、初めて直接的な軍事行動に出たのである。

エウゴは組織の根拠地として連邦軍の「レックス・フォーラ」を襲撃した。彼はティターンズの軍を倒し、エウゴへと進軍した。だが、将軍であるラフレックスを倒したエウゴは、連邦軍内部にもエウゴの組織の存在は深く浸透しており、組織化された戦力を保有したエウゴは、ティターンズに対して無敵でない存在に成長していたのである。

アクシズ連動

ティターンズ対エウゴの戦いが進行する中、沈黙を破ったのは第三の勢力、アクシズ。が地球へと接近した。

アクシズはアステロイドベルトに浮遊する資源採掘用の小惑星であったが、ジオン公国が軍事基地に改造された。そして一年戦争後、逃げ延びたミカバ・ラオ・ザビを擁し、ジオン公国に継承された。戦後予備した、ミカバの孤児であるミカバ・ラオ・ザビを、アクシズで実質的な指導者として、地球へと接近させた。

第三勢力がアクシズの勢力は、ティターンズとエウゴのミラリティーバランスを大きく変え、グリブス戦役は連邦軍を政治的に弱体化させた。

U.C.0087年3月2日

U.C.0088

宇宙は戦乱の渦に巻き込まれていた…

人々が、増えすぎた人口を宇宙に移住させるようになってから半世紀過ぎた宇宙世紀（U.C.）0078。

地球からもっとも離れたスペースコロニー・サイド3がジオン公軍を名乗り、

地球連邦に対して独立戦争を仕掛けた。

真に一年戦争と呼ばれるこの戦いは、地球連邦の勝利に終わった。

しかし、ジオン軍の残党は各所に潜み連邦に対する抵抗運動を行ったのである。

U.C.0088、これらのジオン残党の討伐を目的とする特殊部隊・ティターンズが設立された。

だが、ティターンズは地球至上主義を掲げ、スペースノイドの粛清に走るようになる。

U.C.0087、ティターンズに対抗する反地球連邦組織・エゥーゴはついに軍事行動を起こす。

同時に、小惑星アウクスに集ってジオン再興を目指すジオン残党も活動を開始。

戦いは三つ巴となり、進化したままU.C.0088となった…

STAFF

原作：富野由悠季・矢立肇

ストーリー：今野 真

メカデザイン：森岡建機

キャラクターデザイン：森岡建機

マーキングデザイン：森岡建機&ベッパージュッポ

設定協力：片岡大輔

企画：電撃ホビーマガジン編集部

企画協力・設定：サンライズ

電撃ホビーマガジン & サンライズ 共同プロジェクト

ADVANCE OF Ζ

ティターンズの旗のもとに

アドバンス・オブ・ゼム

「A.O.Z」は『機動戦士Ζガンダム』の世界から
スピンオフしたオリジナルストーリーである
電撃ホビーマガジン&サンライズ
共同プロジェクトがついにスタート!

「この空域にシャア・アズナブルがいるらしい。 おまえ、金色のモビルスーツを見なかったか？」

U.C.0088年2月。

エウゴの「メー・シュトローム作戦」によって切り裂かれたコロニー・レーザーを奪われたティターンズは、

その奪回のためエウゴへの総攻撃を仕掛けていた。

地球圏最大の軍艦力を保持していたティターンズだが、

シャア・アズナブルの演劇によってこれまでの戦争を倒されたために戦力損失、バブテマス・シロッコによる艦隊ジャミトフ・ハイマンの離脱で内崩れも発生したため、

その力はかなり弱っていた。

しかも、やはりコロニー・レーザーの支配権を奪うアクシズが戦場に現れたため、

戦いは三つ巴となり、いつまでもとなく闘っていた。



EPIISODE 5. & 10

機動戦艦Ζガンダム 第5・10話

「くそっ。ジェネレータの出力も落ちてきたか！」

モニターに映し出されたゲージを見て、エリアルド・ハンター一尉は、思わず歯を噛みしめていた。

乗組のギヤブランは強弁し、アクティブスラスト・ユニットのついた艦も失っていた。もはや戦える状態ではない。モニターもところどころ映らなくなっている。エリアルドは、そのモニターを息を吐いていた。

「状況はこうなっているんだ……」

ミクス・ドゥ・ザ・グランドが断続的に報告されているため、味方艦との連絡は途絶えてしまった。完全に頼るしかなかった。ビームが弾き、炎の球が膨らんで消えていく。やられたのが、敵艦の映像方なのかも知れない。

エウゴがグリプス2のコロニー・レーザーを閉居したのが二十日前のこと。今、この空域では、エリアルドたちタイターンズ・エウゴ、そしてアクシズの三つどもえの艦隊戦が繰り広げられている。月が地平に見えている。地球ははるか彼方に青く光っていた。

突如、背後では強い光の球が膨らみ、エリアルドは振り返った。モニターに映し出されたのは、サラムス攻撃の宇宙艦隊が突進してくる姿だった。熱核ロケットエンジンの噴射だ。それは間違いない。エリアルドたちマフイー小隊の母艦であるイズミールだった。

エリアルドは信じられない思いでその音響を見つめていた。母艦どころかなくなった。モビルスーツのパイロットにとって、それは最大の恐怖だった。ギヤブランの生命維持装置があつたとしても、分からない。艦隊がひびく、音声が不可解なもの。推進剤も残りわずか。エリアルドは、モビルスーツの中で生まれて初めて絶望を感じた。母艦のいないモビルスーツは捨てた。索敵機からは離れていく。破壊してこまで後退していった。だが、いつ組織がこちらに移動してくるかわからない。エリアルドはかたがたと震えている唇に気づいた。

機体は動かない。何が後進したように、背後のモニターにギヤブランが大笑したように、小隊長のウェス・マフイー大尉の機体だっ

た。機体が離れ合うことで、運命がミノフスキー粒子の中を通り抜けた。

「エリアルド、生きてるか？」

「小隊長……。イズミールが沈みました」

「あなたもさうな、いいか、後方にいるアスランが僕たちを助けてくれる。艦が見えるか？」

「はい、見えます」

「あそこまで後退するぞ」

「カールとオドリは……」

エリアルドは、マフイー小隊の仲間であるカール・マツバと中尉とオドリ・エイリル中尉のことを思った。

「やつらは戻っていき、あるいは、どこかに逃げ込んだかもしれない。心配するな、あの二入ったって船乗り入りのタイターンズなんだ。そりゃ船にやられるはない。おまえはその機体で持ちこたえなさい。行くぞ」

マフイー小隊長のギヤフランが、スラスターから高温のガスを噴き出してアスランに声をかけた。エリアルドも同様、その姿を返した。

再び、マフイー小隊長の機が壁をこえた。

「この空間にシヤアアズナルがいるらしい。おまえ、さあちのモビルスーツを見なかつたか？」

「いいえ、それにシヤアが……」

「一瞬でやめたかったな……」

つぶやきような小隊長の声だった。

「よく生きてたし良かった」

アスランのデジキ教官がギヤフランのコクピットを強制脱出して、エリアルドに言った。「撃滅したギヤフランは返すぞ。設備の熱れがある」

「仕方ないとエリアルドは思った。

「マフイー小隊長は？」

「あつちだ」

エリアルドは銃をがねしずめた方向を見た。血まみれのマフイー中尉が倒れていく。ひどい負傷をしていたのだ。

「小隊長」

エリアルドが巧こうなると、マフイーは笑みを浮かべて船首を立てて見せた。

「生きてたし良かった」

「小隊長の指揮は距離に任せろ。あんたも快く、んた、いつまた出来事が出るかわかんぞ」

言われたとおりにするしかあかつた。ヘルメットを脱いだエリアルドは、初めてくたくたに疲れているのを意識した。





タイタンスの顔と

■0088年5月

エリアルド・ハタール中尉は、覚悟から飛び出され、数少ない部屋に連れて行かれた。壁の一部が大きな穴になっていた。おそろしくそれはマジックミラーだ。

連戦軍の制服を見たこのない男がティアルに向かてすわっていた。壁の椅子に背が立てかけられない、反が悪いのかもしれない。階段を見と、少佐だった。

「二人きりにしてくれ」

その男はエリアルドをこの部屋まで連れてきて

U.C.0088



た部屋に置いた。そして、そのマジックミラー越しの監視をした」

エリアルドは戸惑った。兵衛が出ている、二人きりになる、少佐は言った。

「さあ、かけろんだ。ゆつくりと話を聞かなければならぬ」

エリアルドは、用心深く椅子に腰かけた。

「彼は、いつかの昔で軍法に無かった。これに気づいている。私は、彼の知識を引き出した連戦軍の流儀だ。君から詳しく話を聞く必要がある。願わくば」

その少佐の眼には、知性の光があった。明らかに

な使いし態度だった。エリアルドはこたえた。

「ここからお話しすはよろしいのですか」

「最初から、君がタイタンスに所属されたときから、最悪の作戦です……」

少佐の言葉にエリアルドはうなずいた。

「お話しします。君は戦いを待ってタイタンスの旗のもとで戦います。軍人として戦ったことはしてないという自信があります」

少佐はうなずいた。

「けつこく、私はその言葉を聞きたかった。さ、始めよう」

U.C.0084



「進んでく……」

中尉になつたばかりのエリアルド・ハンターは、命を懸けて戦ひ死ななかつたやうに思っている。

その命令書を受け取つたのは、地球の周囲を軌道上に回るサラミス改の中だった。モビルスーツ訓練の真ん中だ。命令書には、ティターンズに入隊とあつた。ジャミトフ・ハイマンの指揮でティターンズが組織されたとき、エリアルドは入隊希望を提出していた。

ティターンズは、エリートが集まりであり、通常の連隊士よりも一階級上の機體が与えられると聞いていた。腕に自信があり、軍人としての将来を見据える者は、こゝで入隊を望んだのだ。エリアルドもその一人だった。

士官学校では、軍事に専門的にとつかれ、卒業しての戦士となつた。それからは、モビルスーツのパイロットとして戦いを闘っていた。ジオン軍の「クラスZ」では、地球衛星軌道上の哨戒任務についた。それが初陣だった。

「アーク・ザンギ」は、連隊長の若い兵士や士官たちと、ジオン軍が危険な仕事であることを強くアピールする結果となつた。ジオン軍特務隊は、連隊軍の正装かつ重要な任務であるという説明があまりつあり、エリアルドもそのことになつた。疑問を抱いてはいなかった。

だが、本場にティターンズに入隊できるとは思つていなかった。エリアルドは、実力をよくわきまえていたつもりだった。自分より優秀なパイロットはいくらもいると思つていたのである。

艦を降りると、すぐに北米の基地に出頭するように言われた。北の基地でアーク・ザンギの試験を与えられたとき、初めて思ひがわいてきた。

彼は選ばれたパイロットだ。

名譽と光栄を手にした気分だ。ティターンズの士気は高かつた。一本銃が終戦し、デラーズ戦争が終結した。だが、それはジオン軍の機密保持を意味していた。

エリアルド・ハンターは、ティターンズの中のMS連隊小隊に配属された。ブリーフ・バングに駐いたエリアルドたちに、小隊長のウェー・マープイー大尉は言った。

「一本銃が終結した。ジオン機密は、過去からのテロリストに与えない。ティターンズは、未来のための軍隊だ。地球の未来を抱へて戦ひを持つてほしい。」



「ウェス・マリー・ファイア」は、動き大りのマシン。一年戦争初期に開発を断り、「ブレイズ」では大活躍をしたという。

マリー・ファイア小隊は、旧連戦小隊に配属されたメンバーを次々と紹介していた。カール・マツバラ中尉は、エリアルよりも二つ年上だった。オードリー・エリールは、エリアルとの二つ年上。ショートカットの髪型が女性隊員か、ブリーディングが終わる。カールが話しかけてきた。「おい、この小隊はちよつとやばいらしいぜ」「どういふことだ？」

「俺みたいな素人兵とのハーフがチャタリンズに入隊できたのはラッキーだと思っていたんだ。けど、ここは風をされて動揺した。この小隊の主な任務は、モビルスーツのテストだ。危険な任務なんだよ」

「いいじゃないか、腕が鍛える」

カールは、にっこりと笑った。

「おまえとはうまくやつていけそうだ。オードリーを、どう思う？」

「オペレーター要員だ。テストのデータなんかを取るんだろう。同じ小隊のメンバーだ。仲良くしたいね」

「美人じゃないか、ホント、仲良くしたいよな」

エリアルが笑ったジムの主ニターには、カールのジム・スナイパーとマリー・ファイア小隊長の機が映し出されている。小隊長の機体にはガンダムヘッドが塗装されていた。ジオン機体にはガンダムの姿がこれほどの全体的影響をよめるかテストする目的で作られた機体だ。中井はジム・タウエルだった。ガンダムマシーと元はむいて、

「来るぞ、雷雲艦隊、二時の方角」

ヘッドセットからマリー・ファイア小隊長の機が飛び込んでくる。エリアルは驚愕した。サウ用のマシンガンを持ったクルダグが三機だ。間違いない。ジオンの機体だった。再びマリー・ファイアの機が響く。「カール、長距離砲だ。撃て」

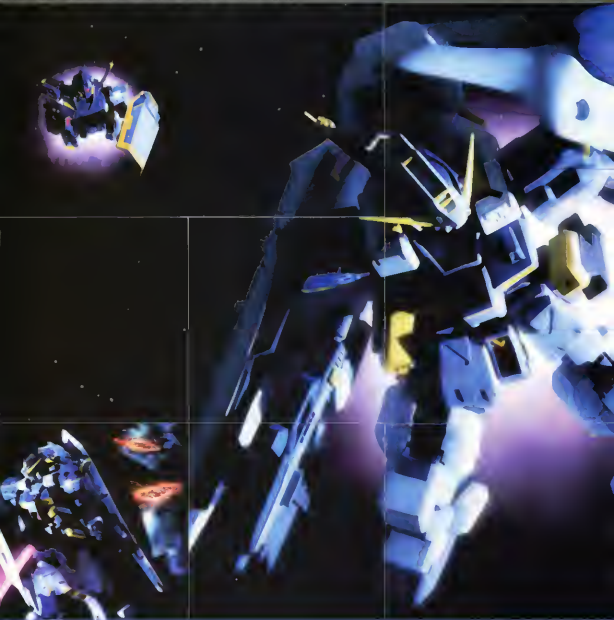
カールが乗るスナイパーのロングレンジライフルからビームが発射される。

次の瞬間、ドラッグファイトに突入した。

テストパイロットだつて

エリアルは、ジムの機体ながら、心の中で奮闘している。いきなり、凄絶じゃないか。

目まぐるしく変化するほどに激戦がシエイクされ



るように感じる。内臓がひっくりかえりそうだ。
「後だ!」

「マリーフィの胸。エリアルドは、はつとして反
転する。ゲルググが迫ってきていた。」

「くそっ」

ライフルを連射する。当たらない。

胸のマシンガンに直撃される。そう思った瞬間、
ゲルググをビームが貫いた。音のない爆発。火の
球があれあがる。飛び散った破片が赤羽を叩く。音
だけが響いてきた。

「ライフルは、胸を撃つためにあるんだぜ」

「カールか? 助かったぜ」

「思ふよ、小僧の動き」

エリアルドは二ターキーを回し、ガンダムを
撃った。

二機のゲルググを袖手にしている。

「整理する」

カールが言った。様子を小僧並に手を見て
やれ」

「アホだ」

エリアルドは、スラスターを噴出した。ジムは
一気に加速する。

胸の動きも速い。エリアルドは、一機のゲルグ
グをターゲットスコープに捉えようとしていた。

モニターの中心までくると、ゲージが交差する。

だが、エリアルドの機体は必要ならつた。マ
ーフィのガンダムは、脱けなく胸を避けた。

ライフルで決めろ」

流るは一機。ガンダムはビーム・サーベルを抜
いた。胸に對する威嚇であることが、エリアルド
にもわかった。

最後のゲルググはライフルを連射しながらガン
ダムに迫る。マリーフィは、巧みにスラスターを
操って避けた。ビームサーベルが二機した。

ゲルググとガンダムがすれ違う。ガンダムが反転
したとき、ゲルググは炎の球に包まれていた。

「すこい……」

エリアルドは、思わずつぶやいていた。

「現場では後にも腹をけろ」

「マリーフィの胸が隠れた。でないと死ぬぞ」

「はい」

エリアルドはあわてて腹をけした。

◆ ◆ ◆

ガンダムTFR-1を駆るマリーフィ小僧はそれ
からちかちかところ限なしだった。エリアルドは、
陣りを胸に戦い勝っていた。

◆ ◆ ◆

◆ ◆ ◆

◆ ◆ ◆

◆ ◆ ◆

◆ ◆ ◆

◆ ◆ ◆

ガンダムTR-1[ヘイズル]



ガンダムTR-1はT3部隊のマーフィー小隊に配備された運用実験機である。パイロットは最終の兵にしてマーフィー小隊の隊長「ウェス・マーフィー大尉」が務める。実験機とはいっても実験機での運用実験を前提としているため、基本的な機体の可動システムは信頼性の高い従来通りのシム系MSシステムが採用されている。使用しているビーム・ライフルは、次世代機への装備を目的としたEバック方式の試作品である。

実験機としてさまざまな要素が盛り込まれたガンダムTR-1は、変形形態の他にチョバム・アーマーの増設装甲を装備したF.A.(フルアーマー)形態も存在する。



肩部の強化バックパックにジョイントされたブースター・ボルトは縦方向にある角度自由に可動し、ヘクトートスラスターとしてガンダムTR-1に高い運動性を与えている。



ガンダムTR-1の装備の中で最も特徴的なものがこの「シールド・ブースター」である。シールドでありながらスラスター兼プロペラント・タンクでもあるこの装置は、スラスターとプロペラント・タンクを統合させた「シールド・ブースター」をさらに発展させた複色用途の装備である。



ガンダムTR-1の発展形態は、シールド・ブースターを同時に装備しスラスター兼プロペラント・タンクを兼ねた状態を指す。2枚のシールド・ブースターから構成される大威力により、レンジ外から一気に目標に侵襲する強襲戦術をメインコンセプトとした形態である。



ガンダムTR-1は、いわゆるガンダムヘッドを装備することで、視覚的にジオン軍機と与える心理的影響をテストするために作られた機体である。頭部こそ“伝説の”ガンダムのそれであるが、RXタイプとして新造されたMSではなく、機体のパーツにはジム・クウエルのもので多く使用されている。ただし、基本フレームはジム・クウエルの流用であるが、背部の強化バックパックとそれに付属する可動式ブースター・ボット、そして関節の強化スラスターなど機体の各部が運用試験を兼ねた強化パーツに換装されており、その機体のポテンシャルはRXタイプに匹敵する。

機体：1

デュアルカメラと2本のアンテナ・プレートをもつ、いわゆるガンダムヘッド。最も重視された“ガンダム”を表現させるパーツである。両側センサー翼はジム・クウエルよりもワングランク上のものが換装されている。



ティターンズの部隊運用

通常、連邦宇宙軍のMS部隊の運用は“サラミス改級宇宙巡洋艦”のMS搭載能力を考え、MS3機からなる小隊が2個で1中隊を形成している。つまり、サラミス改級1隻ごとに5機のMSが1個中隊として配備・運用されている。これに対し、ティターンズが使用する一年戦争後初の本格的なMS母艦型の宇宙艦船“アレキサンドリア級宇宙巡洋艦”は、実際に2機ものMS搭載能力を有している。そのため、ティターンズのMS部隊はアレキサンドリア級1隻につき2個MS中隊(=4個MS小隊)で編成されており、1軍のみでも充分に作戦行動を行えるだけの戦力を保有しているのである。

ちなみに、アレキサンドリア級はティターンズの設立に合せて建造されたと言っても過言ではなく、設立当初からMS運用を戦術の一環として組み込んでいたティターンズにとって、この新艦船に本格的なMS搭載能力を持たせることは、すべからず当然の事であった。



ヘキサス級宇宙巡洋艦をしのぐ12機ものMS搭載能力をもつティターンズを象徴する宇宙艦船。

連邦軍の小隊運用

連邦軍は戦況のMS小隊編成において、通常3機で1個小隊を形成している。これは一年戦争中のジオン軍の編成をまねたものであるが、連邦軍のそれには独自の運用思想も盛り込まれている。それは小隊内に1機、近距離戦用MSもしくは長射程・大威力の火器を装備したMSを配備し後方支援をさせるというもので、これによりフォワード(前衛)2機、バックアップ(後衛)1機という小隊内での役割分担ができる。フォワードは敵機に接近して近距離戦を行う。バックアップは後方から威力大な火器でそれを支援する。これが、連邦軍でのMS小隊運用の基本戦術であり、ティターンズでも採用している戦術は多かった。ジム・クウエルなどの機用機を逐一配備していたティターンズでは、バックアップ戦に長けた、大威力の火器を装備させ、この戦術に対応させていた。

マフィア小隊

フォワード
RX-121
GUNDAM TR-1 [HAZE]
ガンダムTR-1 [ヘイズ]
パイロット：ウェス・マフィア



フォワード
RGM-79SR
GM TYPE-CR
ジム改高機動型
パイロット：エリアルド・ハンター



バックアップ
RGM-79SR
GM SNIPER
ジムスナイパーⅡ
パイロット：カール・マツバラ



ジム改高機動型 & ジムスナイパーⅢ

このジム改は、連邦軍が次世代主力MSとして“RGM-78RジムⅡ”の制式採用を決定したことから、ティターンズでもその採用を検討するための評価試験機として作られた機体である。RGM-78Cジム改をベースとしてRGM-78Rの仕様に合わせて、各種センサー、スラスターなどが強化されている。また、わずかなオプションの換装でスナイパータイプへの仕様変更が可能となった。

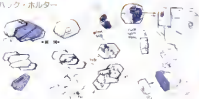
制式採用に待ったデータ収集のため、T3部隊では標準機としてこの機体を使用している。

頭部ユニット

フレームが同一のため外見上にはジム改と変わらないが、内装されているセンサー類は一機に強化されている。射撃型にはジム・スナイパーⅠで用いられていたバイザー・センサーの強化版が装備されている。

T3部隊兵士の装備。
機体各部のウェポン・ラッチに装備可能な、Eハングホルダーを運用することができる。

Eハング・ホルダー



RGM-78C
RGM
SNIPERⅢ



TITANS TEST TEAM MEMBER



カール・マウバラ

エリアルドと同期にティターンズに入ったライバルであり、よき友人。明るく活発で思い立ったら一瞬間に変身する。小隊のムードメーカー。白黒のハーフで、本当は黒髪だが、気分によって染めている。マーフィー小隊の後衛である3番機を駆る。24歳（U.C.0084年時）。



オードリー・エイブリル

マーフィー小隊の紅一点で、エリアルドやカールの憧れの女性。M6パイロットではあるが、テスト・チームでは基本的にオペレーターを務めていることが多い。性格通でゴシップ好き。才色兼備だが、実は動物が苦手という欠点を持っている。25歳（U.C.0084年時）。



ウェス・マーフィー

マーフィー小隊の1番機を駆る、冷静沈着な小隊長。一年戦争のソロモン戦艦戦で初陣を飾り、「テラース船争」などでも活躍した歴戦の勇士。小隊のメンバーに対しては優しいが、反面よき兄貴分でもある。ウサギ好きという意外な一面を持っている。30歳（U.C.0084年時）。



エリアルド・ハンター

本編の主人公。理想に燃えてティターンズを志願した青年士官。やる気に満ち溢れており、断然そのやる気が空回りすることもあるが、決して軽率なタイプではない。優秀なパイロットだが、本人にはその自覚がない。マーフィー隊では2番機を駆る。29歳（U.C.0084年時）。

小隊機のマーキング

マーフィー小隊は別名「ブラックオスター」とも呼ばれている。これはウサギ半の色の機體（黒に一部オレンジ）からきた名前で、ウサギ好きのマーフィー隊長が名付けたもの。それゆえ部隊旗やパーソナルマークもウサギにちなんだものが多い。



部隊旗。T1マークとともに全機体に付けられている。



「ハイズル」に付いているマーク。カールが自分の機体に付けているパーソナルマーク。



カールが自分の機体に付けているパーソナルマーク。

Logo Mark Design Fujiko Kuroki/PEPPER B-104

「サイド1は、反地球連邦政府運動の拠点だ。 反乱分子がジオン残党と手を結んでいるという 情報もある。心してかかれ」

人間が、数え不尽な人口を宇宙に移住させるようになってから半世紀過ぎた宇宙世紀(U.C.)0079

地球からもっとも離れたスペースコロニーサイド3がジオン公国を名乗り地球連邦に対して独立戦争を仕掛けた。後に一年戦争と呼ばれるこの戦いは、地球連邦の勝利に終わったが、ジオン残党は各所に潜み連邦に対する抵抗活動を行ったのである

U.C.0083、地球連邦軍はこれらのジオン残党討伐を目的とする特殊部隊ディターンズを設立。地球連邦の治安維持を図った――



EPISODE 2

STAFF

原作：富野由悠季・矢立肇
ストーリー：寺野 敏
メカデザイン：藤岡謙雄
キャラクターデザイン：富田卓也
マーキングデザイン：岡田健隆&ベッパーショップ
設定協力：片岡大輔
企画：電撃ホビーマガジン編集部
企画協力・設定：サンライズ

©新線エージェンシー・サンライズ

■月がサイド1への軌道上 0088年7月

「排他性は極力低く、生存維持装置もセーブモードだ」

コロヒット内に、マフイー小隊長の肩が響く。出撃前の最終チェックの最中だ。エリアルド・ハントターは、思わず苦笑していた。

手先の満足じゃないんだ。

小隊長は、まだエリアルドやカールのことを手放していない。こんな連中は戦艦内の他のクルーには聞かれない。それでも、マフイー小隊の「クサギマーク」は、誰の買ったクルーたちの笑いの種にされる。

全員のマフイー小隊の任務は、月の周囲軌道からサイド1に向かう輸送艦の護衛だった。エリアルドは、ブリーフィングでのオットー・ペデルセン大佐の言葉を思い出していた。

「サイド1は、反地球連邦政府運動の拠点だ。反乱分子がジオン残党と手を結んでいるという情報もある。心してかかれ」

オットー・ペデルセン大佐は、アスワンを中心とするコンバートの防衛部隊の司令官だ。

「十分な輸送艦が加算する。出るぞ」

マフイー小隊長の肩が響く。カタパルトから出撃する小隊長機ガンダム・マフイーの姿がモニターに映し出される。アーマーを完全に装着していた。小隊長は、「ドロー」のことで、「ヘイズル」と呼んでいる。今回はフルアーマー・クワフのヘイズルの機動性テストを兼ねていた。

ADVANCE OF
ディターンズの旗のもとに



二番手がエリアルルドの、高機動型のジム改しんがりがカールのジム・スナイパーだ。オールドリィは、今回はアスワンで留守だった。母艦から飛び立つと、三機はいつものフォーメーションを組んで輸送艦に向かった。

神かた。神は愛する。すでに十字架を経てサビド
ンへの軌道に突進している。小さな神は愛だ。何を
導くべきかは知らない。小隊長も知らないはず
だ。オットー・ペデルセン大佐は、ブリーフィン
グで荷物については一言も触れなかった。知る必要
もない。ソリアルドは黙っていた。何を導んでい
くという問題はない。神は愛を守るのが任務だ。

『愛の軌道』 十一 時の方面

「東京軌道」 十一時の方向

突然、カールの声が聞こえてきた。エリアルは、十一時の方角に目をこらした。何も見えない。さすがに、長距離砲を武器とするスナイパーには、モニターの性能が遠く及ばない。しばらくして、小さな光が見えた。と思った次の瞬間、ビームがやってきた。

「蛇葬だ」マーフイ、小股をな

へイスルが加速して輸送艇の前へ出る。エリアルドも遅れずに続いた。後方からカールのジムスナイパーが、ロングレンジのビーム・ライフルを撃ちはじめた。敵も撃つてくる。

「どうどう出たるもんじゃない」 マーフィー小僧
長の声が聞こえる。「びびるなよ、もうじき本翁が
来るぞ」

「機銃」エリアルドはモニターを見て言った。「それは軌道面の下から二機来ます」

「撃てよ」マーフィーの声。「ライフルは無しじゃない」

なかなかロツクオンしない。相手は速い。ザク
FZか……。ジョンの死党かもしれない。あるいは、
反地球連邦政府運動の連中か。やつらが手を
組むかもしれない。ペデルセン大佐が言っていた
いすれにせよ、反社会主義者は秩序の守護者タイタ
ーシズの敵だ。

ロケットオン。エリアルドはビーム・ライフルを
跳けざまにぶつ放す。ビームがサクフィエを貫き、
炎の球が膨れあがった。害のない光弾だけの爆発だ。
「くそっ」
マッファイ、小隊長の声が出た。
「どうしました？」

エリアルドは尋ねた。

「アイマ」が重い



「質量が大きくなった分、加速性能が落ちているというところだろう。エリアアルドは、兄さんのない機体が小隊長機に過ぎるのを見た。ドムのように見える。だが、ゲルダグ・Mのようでもある。その機体が小隊長機に急速接近しながらマシンガンで連射して、先鋒が中距離に曲線を描き出す。その機体が、ヘイセルの正面部を貫いた。」

「くそっ……」

エリアアルドは、ビーム・ライフルを連射する。連撃はできなかった。しかし、相手のシールド」とと左面を吹き飛ばしていた。

敵は返撃して退却した。

「助かった、エリアアルド、いい加減」

マリーファイ小隊長にそう言われて、エリアアルドは素直に喜んでいった。

■アロのシン・コバイトへ 0086年1月

エリアアルドたちは、アスワンに降り着き、オードリーのワインク特務の警戒で、クルーたちの奥声に迎えられた。剣を面鞘とし、任務を無事完了して帰ったのだ。マリーファイ小隊長は、機体庫をサイド1に送りつけた。

ブリッジに帰して、機体の報告をしたマリーファイ小隊長は、ベデルセン大佐から情け容れない命令を聞かされることになった。

「バスターたちがサイド1の30パンチで何か作戦行動を取らう。アスワンはその後方支援に当たろう。出撃してくれ」

マリーファイ小隊長が言った。

「ヘイセルは修理しています。修理が間に合いません」

「新機に配備されたハイザックという機体がある。アストを兼ねていくつで出ろ」

所々わけにはいかないのは、エリアアルドにもわかっていて、マリーファイ小隊長は言った。

「了解しました。すぐに準備にかかります」

ベデルセン大佐は、うなずいた。

「ここでバスターに手を売っておくのも悪くないさ」

マリーファイ小隊長は、ハイザックに乗り込んだ。

エリアアルドは、固ジョーンズの機体を見た。その姿があまり好きではなかった。

「さあ、出るぞ」

マリーファイ小隊長は、軍人らしく、機体も言わずに出撃していく。エリアアルドもその態度を学ばうと思った。



EPISODE 2.1

■サイバー・コンバット開始 1985年7月

コンバットと30パンチは、ほんの目と鼻の先だとはいえ、モビルスーツのペイロードで到達できる距離ではない。出撃したマフイー小隊の役割は、オットー・ペデルセン大佐が言ったとおり、隣バリエントを支援なのだ(エリアルド・ハントーは認識していたペデルセン大佐は言った、「バスターたちがサイードの30パンチで何が作動行動を取るらしい」)

それがどんな性能なのか、エリアルドは知らないが、地球連邦にとって重要な作戦に違いない。その機体までというには、重要な任務なのだ(エリアルドは思った、

「レゾナーに反応。カール・マツパツの音が聞こえた」)。他「暴発行動を取っている。北極星爆撃の方で0.45」

「調子で来るが」

隊長のウェス・マフイー大尉の声だ。

「サンジバルですな、サイードに近づいています」

「ジョン・渡辺」：反地球連邦運動の選手と手を組んでいるのかもしれない。マフイー隊長が言った、

「いずれにしても、行くぞ、やらの鼻先叩く」

マフイー隊長のバイラックが、高圧ガスの軌跡を残してサンジバルの方向に向って加速した。

エリアルド、カールの機にそれに続いた。

「機を地獄カールの、レゾナーに小さな反応、おぞまもビルスーツです」

「ここのレゾナーでも確認した」

マフイー隊長の音がする。エリアルド機レゾナーでもその機を察知していた。機もビルスーツの数は二機。

「射撃距離に入らなかつたぞ」マフイー隊長が言った。(足音必聴)

■アスワン 1985年7月

「逃げ、いつ出撃になるかわからんのだ」

ヘルダットの中にヘンドリック・ネスの声が響いた。

「じいさん、彼に張り切ってるじゃねえか」

ビット・シルトンは心の中でつぶやき言葉を浮かべていた。ヘンドリック・ネスはアスワンのメカニックチームのチーフだ。ビットには機体はともかく、いや、(たまたま)とじいさんだ。

「あーあ、せつなみのガンダムの機体……」

目の前には二体のガンダムが並んでいる 正確に言うと、そのうち一体は ガンダムヘッドを取り付けたジム・クウエルだ

U.C. (宇宙世紀) 005年7月、ティターンズのバスク・オム大佐はサイド1で作戦行動を取っていた。副隊長であるオットー・ペテルセン大佐のバスク大佐への抱負心から、輸送艇の護衛任務に振り出されたT1 (ティターンズ・テスト・チーム) は、ガンダム・ヘイズルを破壊されながらも無事任務を遂げた。…彼らは知らなかった。彼らが破壊した輸送艇に隠れていたのが秘密のG3ガエであり、それがサイド1・30バッチコロニーの住人300万人を脅かすにしているものであるということも。



ビートはガンダム・ヘイズルを見上げてつぶやいた。目の前は二体のガンダムが並んでいる。正確に言うと、そのうち一体はガンダムヘッドを取り付けたジム・クウエル。交換バースト提供所?」「設計のことを言っているんで、手を動かして、手を」「はいはい!」

すでにメガ・フラクランたちは、捕縛したヘイズルの足から下は取り外していた。ガンダムヘッドのジム・クウエルの脚部ももうとぎさり外す。関節は壊滅した。まだ、メインコンピュータの設定をし直さなければならぬ。…情報も必要だ。」「おい、マイファイ小隊が空襲しているらしいぞ!」誰かの声がヘルメット内蔵のシステムから流れ出てきた。ブリッジから送られてきた情報のようだ。」「言わんこっちゃない。ヘンドリクはいいさんの声が聞こえてくる。おい、ビート、ぐずぐずするな。脚をすげ替えたら、すぐに回線を接続して設定を済ませよ!」

「わかってますって!」

「わかってるんなら、しゃしゃり動け!」

空襲だつて。ビートは思った。まったく、メガ・フラクランの都合も考えてくれよな。

ようやくヘイズルの物理的検査が終了した。」「さあ、がみがあつたというらにさつさと済ませるか!」

ビートは頭を振り、ヘイズルのコアピットまで歩んだ。

■サイド1付近 0005年7月

カールのロングライフルが火を噴いた。ビームが半宙の間に届いてしまっている。その火線の方角から二機の影が姿を現した。

「さあ、もう一機は!」

「さあ、もう一機は!」

「さあ、もう一機は!」



エリアルドは言った。
「そう思いませんか？」

「ああ、やられた相手の特徴は忘れない。指りを
返さなくてもいい」

カールが再びヒムムイナルを撃つた。だが、
敵を倒すことはできなかった。

「アセ」マリーファイの聲が聞こえる。「マッ
グファイターだ。カールは左の方で操縦する」

「アセ」

カールの声が聞こえる。
敵が撃ってきた。両のスタスターを使って機体
を揺るがす。突然、聞き慣れない声が

「コクピット内」響いた。
「ザクはジオンの特りだ」

どうやら敵パイロットが再び超多数の機体を使
っているようだ。声はさらに響いた。

「ジオンの特りよ、そのような形で出すとは、
断じて許せん」

ハイザックのことを言っているのだ。ザクに委
ねられているが、タイクーンズ・カラーに遠慮さ
れている。それを察しているのだろう。

二つたつて、ハイザックのデザインが気に入
っているわけじゃない。

エリアルドが心の中でつぶやいたとき、ザクが
ハイザックに接近と交差していくのが見えた。ザ
クは機体に変えておけはい。

エリアルドはドムの姿を察して、モニターを見
回した。突然、下方からドムが現れた。エリアル

ドは進行を止まれ。低くて鋭利な取っ手をし
た。ドムがついスパイク付きのシールドを突き出し
てきた。

コクピットに衝撃が伝わった。おそろく、ジム
改の機体がどくへんてしまったに違いない。

「くせー」

エリアルドはバーニアを噴かせてドムから離れ
た。その瞬間、ドムもバーニアが止まった。カール
のロングライフルだった。ドムは、すばやく反応
してカールのジム・スナイパー機に向かってマシ
ンガンを開火した。90ミリ機銃だ。

エリアルドは、機体の滑走した90ミリの弾丸
がジム・スナイパー機の頭部を撃ち抜くのを見た。

カール

エリアルドは思わすおんていた。エンジンブロ
ックをやられた助かない。熱の波紋が弾
し、機体は揺れることになる。

コクピット内に警告音が鳴り続けた。エリアル
ドは反動的にリーダーを見た。マルススツが来
る。機体の方からだ。

エリアルドは驚いた。自然と大声を出している。
「リーダーに敵、敵の増援です。三機来す」

「つちもキツチしている」マリーファイの
声。「アセ、こいつはしついな」

マリーファイ機はまたザクを片づけられにい
る。ザクのパイロットもなかなかの腕だ。



「カール」
エリアルドは思わず叫んでいた
エンジンプロックを
やられたら助からない
熱核反応炉が誘爆し
機体は粉々になる

「おい、マインワイパーの音が聞こえた」「離れたりと止まるな、止まったら嫌だねさ」
「買れるまでもなくエリアルドは、目まぐるしく機体を動かしていた。シエカにかけられた気分」

「マインワイパーが誘爆する機体を察えた。味方の機体も出てきている。エリアルドは思わずつぶやいていた」

「マインワイパー、モビルアーマーか」
「やがて、モビラーがその姿を現した。やはり、モビルアーマーに見えた。だが、次の瞬間、その姿が変わった。彼はシールドを左右に開いたのだが、その変化は劇的に見えた。ガンダム・ヘイズルが姿を現したのだ」

「待たせたわ」

「マインワイパーの音だ。エリアルドは海軍の港から一気に飛び出した気分だ。ガンダムの姿はそれくらいに迫る。他に對しても迫力は大きかった。彼はガンダムの出現に明らかに動揺している。マインワイパー隊員がその隙を見計はすはずはない。エリアルドとマインワイパーがマインワイパーに、マインワイパーのガンダム・ヘイズルは高機動性を遺憾なく発揮した。ガンダムの出現が機動をかりりと察えた。その姿はそれだけ機動的な影響力が強いことを物語っている。エリアルドもこぞとばかりにマインワイパーを撃ちまくった」

「やがて機が遠退した。エリアルドは、急に機中の力が抜けるのを察した。また、生き残ることができた」

「おい、オードリー」マインワイパー隊員の声が聞こえた。「僕のウサギちゃんだ、やさしく扱ってくれよ」

すでにオードリーは、第3基のシールド・ブラスターをびたりと合わせて、アスワンに飛進する姿勢を取っていた」

EPISODE
END

YRMS-106 HI-ZACK

ハイザック [先行量産型]



ティターンズ制式採用時のカラーリング。あえて旧ジオン軍のザクを連想させる緑をベースとしたカラーリングにしたのは、ジオン軍機に対する心理的効果を期待したものと思われる。



ハイザック開発に開発されたビーム・ライフル。EパックはT3部隊で運用されているタイプに改造されている。格のT3部隊のMS同様、Eパック・ホルダーも装備している。



ハイザックは、アナハイム・エレクトロニクス社（以下、AE社）が世に送り出した量産型MSである。

旧ジオン軍の名称「ザクⅡ」を彷彿とさせる外観は、ジオン軍大手のMSメーカーであった「ジオン社」を吸収合併したAE社ならではのデザインといえる。そして、その開発ノウハウは外観だけでなく内部構造にも活かされており、ザクⅡと同様に生産性や稼働の信頼性が極めて高いMSとなっている。ビーム兵器の運用はもちろん、量産機としてははじめて「リニアシート」と「全天候モニター」を標準装備するなど意欲的な機体であった。

連邦軍ではほぼ制式採用が内定しており、ティターンズでも採用を検討するためにT3部隊にも評価試験機が納入された。あまりにもザクを連想させる外観から、ティターンズ陣営には不評であったが、組織の拡大に伴いティターンズでもMSの数の確保が必要となり、結果的には制式採用を余儀なくされる。



EPISODE 2.

STAFF

原作：富野由悠季・矢立肇
 ストーリー：今野 敏
 メカデザイン：森田雄輔
 キャラクターデザイン：斎藤卓也
 マーキングデザイン：森岡健嗣&ベッパーストップ
 設定協力：片岡大輔
 企画：電撃ホビーマガジン編集部
 企画協力・設定：サンライズ

©創通エージェンシー・サンライズ

■過去編アスワン内 0005年7月

「うへへ。本当はこれに勝てるのさ……」

モビルスーツデッキで、テスト用の新機體を見上げて、カール・マツバらがつぶやいた。エリアアルドとその周囲は、テスト用に用意されていた。

ハイザックのバリケード・システムには違いない。だが、機体よりも、調整されている系統のほうが目立ち、巨大なビーム・キャノンだ。さらにそのほかで、

いんターフェイスを取り囲むために、調整にはこれほど巨大なブースターが取り付けられている。

「これ、モビルスーツより、準備付きの機体じゃあか」

カールの声がヘルメット内の通信機から聞こえてくる。

「少つてききんどはヤないの」ヘルメット内、ビート・シエルトの声を聞いた。若いメカニックだ。

「テスト小隊だろう。威力ははつきりだぜ。へたな調整の正機以上の能力がある。レジオも最近だ」

「おがな、要はつけるベテランメカニック、ヘンドリック・メスの声だ。ビーム・キャノンの長さや重量がとんでもない性能を生み出す。自由自在に動き回るといふわけにはいかんぜ」

カールが不満げに言った。

「ドッグファイトになったらねらい勝ちかな」

「息こら」エリアアルドは言った。「三機命令だ。小隊のきく俺たちがカールじゃあよ」

ADVANCE OF

ティターンズの旗のもとに

宇宙の歴史は転換期を迎えていた…

人類が、開えすぎた人口を宇宙に分散させるようになってから半世紀過ぎた宇宙世紀(U.C.)0079。地球からもっとも離れたスペースコロニーサイド3がジオン公国を名乗り、地球連邦に對して独立戦争を仕掛けた。後一年戦争と呼ばれるこの戦いは、地球連邦の勝利に終わった。しかし、ジオン軍の残党は各所に闇み活動に對する新兵器開発を行ったのである。U.C.0080、地球連邦軍はこれらのジオン残党の討伐を目的とする特殊部隊ティターンズを設立。地球連邦の治安維持を擔った…。

■サブタイトル「コンバット・オブ・ザ・マスター」

0080年1月

エアルドたるマイン・オブ・ザ・マスターは、バスク・オム大佐の作戦の東方支援を遂げていた。戦いの中でカールのジム・スナイパーⅡが活躍していたため、カールは愛用のパイザックTR-1、ピグワイクに搭乗することになったのだ。

ジオン残党の戦艦がバスク大佐率いる連隊の封鎖を突破したという知らせがアスウィンに入り、マイン・オブ・ザ・マスターはその知らせを命じられていた。

「北緯座座標、我々戦艦隊が位置999」

カールの声がエアルドの乗るジム改のコックピットに響く。エアルドはレーザーを見たがまだ確認できなかった。カールのピグワイクは、艦隊の支援だ。レーザーやビーム・サード・ブレイクをカパーする。さらにカールの声が聞こえた。

「単独行動を取るが得です」

「マイン・オブ・ザ・マスターの音が響く」

「識別できるか」

「味方の識別情報は出していますが、サンジバルです」

「このあいだのやつかもしれん。だしたら、例のリック・ドムとサクも出てくるぞ」

彼らの動きはだにしかに艦隊のバイロッドであることを物語っていた。かつてのジオン軍の名バイロッドだったのだらう。

敵にとって不足はない。

エアルドは思った。艦隊であれば、叩く価値がある。艦隊の首魁こそティターンズにふさわしい戦艦だ。

「前を飛ばしてくれ」

カールが言った。エアルドは、思わず聞き返した。

「何だアツ」

「ロケットンした。ぶっぱなす」

エアルドは聞いた。ジム改のレーザーはまだ何も探えてはいない。おそらく隊長のヘイズルもそうだろう。

なのに、カールのピグワイクはもう艦をロケットンしているという。エアルドはあわてて別のスラスターを使って機体に移した。艦隊もエアルドと並んで機体移動するのを見えた。

次の瞬間、ピグワイクの巨大なロケットン・ビーム・キャノンが火を噴いた。艦隊の主砲から受けるような高威力のビームが甲冑の面を切り裂き、まっすぐに伸びていく。

「うひょー……カールの音が聞こえる。こいつ、

「化け物だぜ……」
「リアルドは、ビームが海を走つた星の海を見
つめていた。」

「さつたのか？」

「いや」カールの眼が返ってきた。「サイトに機
体なしがある」

「急いで調査しろ」マリーファイ艦長が言った。「小
隊は艦艇を走らしたとなれば、戦場ものだぞ」

「理解。今度はアタマです。おつと……」カール
は両手に抱いた機体だ。「おつこい機体が二つ
ある。モビルスーツです」

機との距離は急速に縮まりつつある。リアルド
と機とのレーダーも船艇機を捉えた。もしじき、視

認できるだろう。

「モビルスーツは出すタイミングが早い。マリーフ
アイ艦長が言った。」「ビーム・キャッチの術し
がいたようだ。艦艇はここに……」

やがて、ザンバルの姿が周囲でも確認できる
ようになった。「機体モビルスーツはやはりリク・
ドムとザクだつた」

リアルドは、ビーム・ライフルを撃ちながら
前進した。機体と船艇、機体と機体とを消耗させるた
めだ。作戦行動時間は推進に支えられて、行動
時間が経ればそれだけこちらが優位に立てる。

「機体モビルスーツ、さらに出てきます」カールの
声だ。「さうぞう」

「機体も叩け」マリーファイ艦長の声。「それでチ
ェックアウトだ」

「了解。チャージにもう少し時間がかかります」

「それで、俺たちが来たぞ」

リアルドは、ザクが迫るのを見た。機体モビル
スーツの数は五機。数では向うが勝つてゐる。

だが、リアルドには選ばれた兵士という誇りが
ある。

前回の戦いも圧倒的な不利の状況を作り出され
た。今回だつて……

「あれ……」カールの声。走つたままの音が聞こえた。

「あれから出た二機のモビルスーツは、逆方向に
進んでいます」

「逆方向……」マリーファイ艦長が言った。「何
かあるのか？」

「待つて下さい。ザンバルの機体に向かいま
す……」艦長のシヤトルのようです」

「両方のシヤトルだろ」

「その背後からさらに機体、味方機も偵察です。
ジムです」

どういふことだ？ エリアルドは困惑した。だが
機体のザクがすでに迫っている。迷っている時
間はない。考えることは戦場に任せて。リアル
ドはさらにビーム・ライフルを撃つた。

ザクが倒れ込む。リアルドは攻撃してザクの
背後を捉えろとした。強引な口かか





「カール、撃つな。マーフイー隊長の命が聞こえた。」

「何かおかし……」

ザンジバルが迫りつつある。たしかにザンジバルは民間用のシャトルを捉えていた。まるで捕獲しているように見える。

「今なら、ザンジバルを落とせます。カールの声だ。」

「いかに、相手は民間用のシャトルを捉えている。」

「人質かもしれないぞ。」

「ならばなさらな。手を出すぞ。」

「しかし……」

「ディティンズの機りを恐れるな。民間人を決して巻き込んではいけない。ジオン残党のテロリストと同じにしたいのだ。」

その直後、ザンジバルの背後にいたシャトルが爆発した。

エリアルドは驚いた。

敵のモデルスーツも敵いようにその光を見つめていた。

「何だ。マーフイー隊長の声。『誰が撃った?』」

「おそろしく……」カールが言った。「追撃してきたジムだと思われまう。」

ザクとリック・ドムは反転した。機体するすうらうら。

エリアルドは、どうしていいのかわからずマーフイーの指示を待った。だが、マーフイーも何も言わなかった。

目の前をザンジバルが通り過ぎていく。

いったい、何が起きたんだ。味方のジムは、なぜザンジバルではなく、民間用のシャトルを捕獲したのだ?

濃霧が星の海を支配している。戦闘はすでに終わっていた。

帰還したエリアルドたちは、オットー・オウルセン大佐から、バスク大佐の作戦が全面的に成功したと伝えられた。

「バスクに礼を言われたよ。よくやってくれた。」

ベテルサント大佐は上機嫌だった。だが、エリアルドは、シャトルが捕獲したときの現場での連絡をめぐり、いえることができなかった。

EPISODE
END

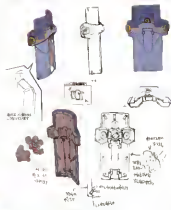


腕部 プスター

TR-2のスラスターユニット、プロペラントタンクと推進器が一体化したユニットで、機体固定用のウローや発射時のランディングギアなども内蔵されている。完全に独立したユニットとなっており、各ユニットへの接続も容易に行うことができる。



TR-2用に開発された専用シールド。防弾用の鉄板であるが放射線用のバーニアも内蔵されている。左右同一のものであるが、左側のシールドは前後方向に逆巻を逃すため中央部分が傾き殺されている。



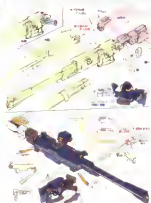
ハイザックTR-2 [ビグウィグ] の「TR」とは、試作機におけるトライアル・ナンバーを意味している。つまり、ガンダムTR-1 [ヘイズル] は試製1号機、ハイザックTR-2 [ビグウィグ] は2号機であることを意味している。トライアル機にはそれぞれ異なる実験コンセプトが課せられており、テストベントとなるMSには、その実験コンセプトに適したものが配備された。MSの発展形態であるT3 初期には、画期的な実用運用データ収集のため、試作されたトライアル機が次々と配備されているのだ。

ハイザックTR-2は、MSが携帯可能な長射程のビーム・キャノンとそれを輸送する推進器やオペレーションシステムなど、火器を運用するシステム全体の実用試験のために開発されたもので、そのベースマシンには新鋭機であるYRMS-100ハイザックが使用されている。この機体のベースマシンにハイザックが選ばれたにはそれなりの訳があった。ハイザックは、それまでの遊邦軍標準MSであるジム・シリーズに比べ、部品交換などの簡便化のため機体のユニット化が進んでいた。そのため機体の改造が非常に容易であり、さらに機体外部に露出している動力パイプをつなぎ替えることにより動力(エネルギー)を外周機関に出力することが可能であることなどがTR-2の設計コンセプトに適していたのだ。

バイザックTR-2
[ビッグウィグ]



TR-2に開発されている
ビーム・キャノンには、
連射機能をもつに開
発されたものである。
砲身を長くしてメガ
粒子の収束率を高め、威
力を高めることなく高
速度の射撃を行えるよ
うにしている。



パーフェクトグレードクオリティーで
「ハイエンド版ヘイズル」を作る。





ガンダムTFR-1「ヘイズル」

選者に高い人気を誇るガンダムTFR-1「ヘイズル」。

マーフィー小隊隊長機であるこのヘイズルを

2代目ガンプラ王こと今井兼博が1/80スケールで立体化。

その大きさを活かして、「ハイエント版」とでもいうべき最終決定機(画・藤岡建機)に描かれた
緻密なディテールの両側にも挑戦した。



いわゆるガンダムヘット。特に性能が高いというわけではなくガンダムタイプが他機方と与える効果を提供するという目的もあったようだ。最終形態時の進行方向である後頭部の視界を確保するための無数のカメラとして、センサープロポノク上面にもカメラユニットが設置されている。

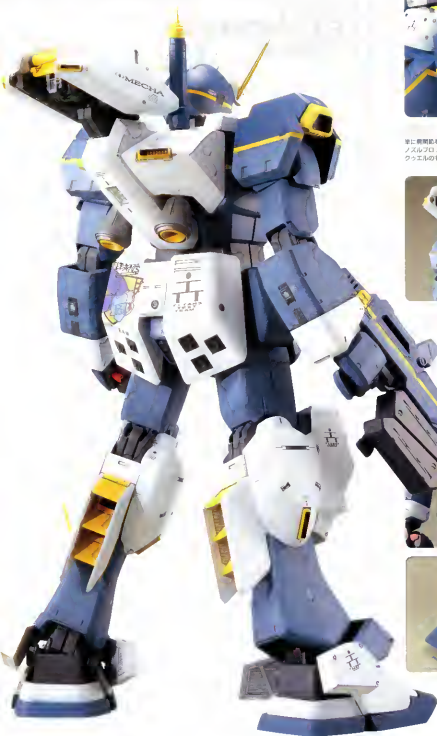


外観上はシム・ワークス風と大差のないものになっているが、試作運用機としての特性から、機体表面に数多くのセンサーが取り付けられ、戦闘時の向きをきめた様々なデータを常時収集している。



プロペラントと推進用スラスターを兼ねたプロポノク一気すると敵知覚機のようにも見えるが、通常の敵機に匹敵する性能を発揮するタイプではなく、専用の設備のもとでユニットごとに機能を行使しなければならぬもの。もちろん、この機体の組織であるアレキサンタリア軍アスロンには非常料を想定した予備パーツも用意されている。





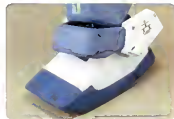
単に機関部を防護するだけのものではなく、上部にスラスターノズルブロックを装備したものの、ヘース機となっているジム・クウエルのものがそのまま使用されている。



頭部は実戦状態である強化バックパックに換装されている。さらに上面にショートされたブースター・ポッドはヘクタースラスターとして高い運動性を与えている。

脚

格闘戦前線を守る行動的の機ゾマーは事実上にはジム・クウエールと同様のものだが、リア・アーマーには推進力向上を目的としたガンダムN-1のリアアーマーを改良したものが装備されている。



足首はジム・クウエールのものだが関節部を防護するアングルサポートユニットはより大形化したものが装備された。また、ソール下底には宇宙での活動を利用したバーニアズンが搭載されている。

マーキングバリエーション



小豚マークであるウサギをモチーフにしたマーフィー編集のパーソナルマーク。飛行機を渡ったこの向ウサギ以外に、数カブトを揃って編を持った白ウサギも確認されている。

ヘイズルの左肩に記されたマークはウェス・マーフィー軍いる小隊の部隊章。マーフィー自身がウサギ好きであることに由来する。またイエローストライブは下3部隊のチームカラーになっている。

T3部隊を示す記号車「Titans Test Team」を示すもの。その上にある●は1号機(師団機)を示している。2号機は縦に2番、3号機は三角状に●が3番記される。

カラーリングデータ



①赤・白・黒・グレーッド 95%+59種・浅黄色 15%+
1種・ホワイイト 5%

②茶・黄・緑・青・紫 70%+172種・蛍光イエロー 20%+
1種・ホワイイト 10%

③カラー 40種・シャーマングレー 40%+37種・F.L
M各4種 40%+88種・モンザグリー 20%

④白・下白 25種・明灰白の 6種+1種・ホワイト
⑤同。【基本色】明灰白の 2%+ホワイト：100%、【ハ
イライト】明白白の 10%+ホワイト、52%

⑥赤⑦白⑧【基本色】 72種、ミディアムブルー-90%+桔
黄・モンザグリー 10%

⑨赤⑩白⑪【基本色】 5種、ブルー、50%+322種、フタ
ロシアンブルー 50%

⑫アゼンサー⑬172種・蛍光グリーン 70%+1種・ホイ
イト 3%



すべてGSI/クレオス「MFCカラー」を使用。



1. 宅内でのペースとは、自宅に
 いる中で平日の昼間は、ク
 ムにもっとも効果的だとい
 うに平日の夕方から、1時
 半までは行けるが、
 3時半以降はパシオンがホ
 ペースになっているため、1
 時30分には帰るために、早
 退きするが、全体的に手加
 えした際、売上は1.5キント
 の増え、コストは1割減となっ
 ていた。コスト削減と売り
 上げ増えは、
 2. 店舗にポイントカードにし
 ながら販売エリアを拡大。接
 続する13部売場をベースに
 2つと増やした。
 3. 前店パシオンをメインにダ
 クトやフットボールコート
 へ1.5キロ増。南館のホビー
 ディン、グリップはフット
 ボールのスクラッチ。この保
 持で順々の売り上げも増え
 続けているが、
 4. クラウドスポーツとに強化
 した。クラウドスポーツは、
 5. 1階、4階まではMGMの調
 理師がすべて管理で効果を
 上げている。

RX-121 ガンダム TR-1 “ヘイズル”

バンダイ 1/80スケールプラステックキット
“パーフェクトグレード” RX-78-2 ガンダム改造
製作・文 今井建博

■頭部

全身にPGガンダムよりもひとまわり小さく製作。ガンダムの頭部フレームにポリバテを盛って形状を出しています。補当はガンダムのものを加工。各部のダクトはプラ材から製作しました。マスクはガンダムのものをポリバテで複製。トサカはプラ板で製作し、カメラ部分は透明プラ板にしてみました。アンテナはガンダムのものの表を加工したものです。

■胴体

ヘイズルはガンダム。首を3ミリ延長し、エリはそのまま使用。両腕のホルディング・グリップ収納部は蓋部をプラ板で、グリップ自体をエバークリップ社のプラバテで製作。腕部は腕部との間で8ミリほど縮め、ポリバテで形状変更した上から5ミリプラ板を貼っています。ダクトとコックピットハッチはPGガンダムMk-II（以下Mk-II）から。ハッチの関節は省略し、ポリバテで形状変更して取り付けました。

■腰部

フロントアーマーはガンダムのものを延長。ヘリウムコアにモールドを追加しました。サイドアーマーはMk-IIのものをプラ板とポリバテで加工。リアアーマーはMGのNT-1を参考にプラ板で製作。各ノズルには市販パーツを使用しています。

■脚部

ガンダムから改造。足モはジム・クワールを参考に形状を変更してから複製。ヒザ前面はプラ板の縮縮みで、フクラハキ右のブロックはプラ板とポリバテから製作。後方のフィンにはプラ板製です。全体を各種プラ材でディテールアップしてから複製。スネの装甲はガンダムのものを形状変更後に複製したものです。

足首はガンダムのものを形に形状変更して複製。アングラーボウユニットは白い部分分をプラ板の縮縮みで製作。前装甲はガンダムから改造。足首フレームとの接続はボールジョイントで行っています。

■腕部

Mk-IIから製作。キットの腕にプラ板とポリバテで作ったアーマーを複製して固定。前腕は可動に支持がない場合にプラ板で形状変更しました。

■バックパック

ブースター・ボットおよびバックパックは基本的にはプラ板の縮縮みとポリバテで製作。ボットの接続アームは各種MGのパーツを組み合わせたものです。

■足部

Mk-IIのヒム・ライフルの先端をカットし、市販パーツで開口を製作して再現。



ブースター・ボットの上面にはモールド・ブースターをマウントするラッチが設けられている。シールド・ブースターを駆動したままボット本体を駆動することで、さらに機動力を上げられるようになっている。さらに両肩のシールド・ブースターの進行方向を合わせれば、モビルアーマー独自の機動が可能。



状況に応じて各種機動方式を使用するほか、時には人間以上の機動によって様々な作業をこなすマニピュレーター先端にはデータ収集のためのセンサーも内蔵されている。

両肩に装着されているブロックには、機動移動の際にシールドと接続された腕を安定させるためのグリップが収納されている。展開したグリップを握ることで腕を固定するのである。



下3部が試験的に使用しているEバック対応型ヒム・ライフルのためのEバックホルダー。1号機のものでしょうか、3号機のものとはカラーリングが異なる。

後にガンダムMk-IIが使用するヒム・ライフルと同型のショート・バレルタイプ。下3部機が試験的に使用しているEバック対応型。マフティーは両手にそれぞれ1門ずつ装着して戦うことが多いようだ。

■PROFILE

いまい・やすひろ……? 代目ガンブラ。過剰なまでのディテール表現を特徴とする。近況/今回は漆黒の塗装工程をめぐって更新。でも表裏モデルと聞いてその後もふっふふふ……。現在、過去の私の作品をワーク・スペースに展示していただいているので、お近くの方はぜひ見に行ってください。[リック・トム]

年間の塗装ブロックはPGガンダムMk-IIのものを活用。胴体への接続は足を合わせるためにプラ板に変更。

上半身からヒザ関節にかけてはPGガンダムMk-IIのままだ。前腕はデザイン図に形状をあわせて先端の形状を変更。それに合わせて足首フレームも加工した。

リアアーマーはキットをベースに加工しており、キット同様に可動。特徴的なリアアーマーだけはプラ板でスクラッチした。

足関節ブロックはフレームと装甲を写真のように分割したものを複製して左右をそろえた。

足関節は中マフティーの形状を指定通りに作り直し、それを複製して左右をそろえた。

ヒム・ライフルサポートユニットは右側のブロックをスクラッチ。左側部分はガンダムのパーツをベースに複製したディテールを追加した。

胴体への接続はボールジョイントを使用。







GUNDAM TR-1 HAZEL

THE FLAG OF TITANS
ADVANCE OF Z
GUNDAM TR-1 HAZEL
DESIGNED BY KENJI KAWAMOTO
DESIGNED BY KENJI KAWAMOTO



T3部隊のマーフィー小隊の隊長機として使用されているガンダムTRF-1「ヘイズル」は、RGM-79Qジム・クウエルに各種増加オプションを装備した機体である。作例ではその設定にあわせて「マスターグレード」ジム・クウエルから改造。追加パーツはほぼ新造となることもあり、製作期間を短縮しつつ各パーツの精度を上げるため、実際の製作作業を3パートに分け、頭部、バックパック、ブースターバックを含む上半身を岩田トシオ、強化スラスターメインの脚部を齊光彰、シールドと翼を桜井浩之が担当。仕上げの塗装は岩田トシオが行った。



高集積回路の流行方向である積層回路の視界を確保するための
実機的な面として、センサーブロック上面にもカメラユニ
ットが装備されている。



メインカメラ等が内蔵された頭部の「トサカ」状のセンサーブロックは、他のガンダム・タイプのものと同じ実物に大型で特徴的なフ
ォームをもっている。これはセンサーブロックが換装可能な独立ユニットとして設計されているため、テスト機として製作されたRX
-121ならではのユニークなキミツである。



RX-121の機体の大部分はベース機となったRGM-79Qのパー
ツを流用もしくは、改造したものもあるが、バック・ハックは
まるまる試作型の強化バック・ハックに換装されている。



脚部
基本構造はRGM-79Qと同様だが、ミニビュレーターは指の付
け處にマルチランチャーを内蔵した試験機も使用されたりし



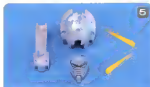
上腿にスラストノズルを新装したもの。ベース機となっている
RGM-79Qのものかそのままだと使用された。



なお、股関節周辺を保護する目的で新装されている肩アーマーは、要所的にはRGM-79Qと同様のものが使用されている。ただしリア
アーマーに関しては駆逐力向上の目的でRX-121NT-1 肩のアーマーを改造したものも装備されている。

頭部に新装されたのはミサイルやガトリングといったオプション
武装ではなく、強敵時に機体とシールドを固定させるための
アームバーが内蔵されている。

①-⑧ “マスターグレード”ガン
ダムGPのヘルメットとおなじく、MGゴットガンダムのフェ
イスをベースに頭部を製作。新
装のバウスやディテールにつ
いてはこの案に適用された。
各要素の便を考慮してトサカ、ヘル
メット、フェイス、ブレード
アンテナに分割可能とされている。
右側のアームバーホルダーユ
ニットはマスターグレードガン
ダムNT-1をベースに後方に延
長して使用。





宇宙空間での活動の基本とするティターンズの機体の多くはゾール系にハニーアスルトが掛けられていることも多い。これはRGD/M-73Qジム・クワールのベースとなった「ヘイズル」も同様である。

追加のユニットにはRGD/M-73Qジム・クワールのものと同型だが、関節部を防護するアングルサポートユニットにはより大型化したものが装備されており、関節部の利上がり角は鋭い。

↑① こうして素体とジム・クワールのベースになっているのがよくわかる。関節は右側が固定、左側にはその機軸が使用されている。

↑② 写真は外装に機軸パーツを使用した機軸。大宅も機軸に回転軸が添着されるなど、手の加えられていない箇所はひとつもない。



RX-121 ガンダムTR-1「ヘイズル」

バンダイ1/100スケールプラスチックキット
“マスターグレード” RGM-78Q シム・クゥエル改造
監修・文 神矢彰

今回はOVA「Z」第21号の制作以来久々の若田、板井、宮山氏との共作。僕の担当はガンダム、シム改造のEバックとガンダムの下半身。

さてこのガンダム。設定的にはシム・クゥエルにガンダム頭を載せた改造機なので、当然ヘイズルキットはMGのシム・クゥエルを使用しています。かたがた設定画を窺ってわかるように、MGのシム・クゥエルがガンダムNT-1からの流れを汲んだリファインでMGシリーズ独自の世界観を演出しているのに対し、このAOZ「ガンダム」もデザイナー・黒瀬雅也独自のMS観でリファインされたシム・クゥエルがベースになっているため、キットと設定画両方に共通点はほとんどなく、結果上から下はほぼスクラッチ。フット板とバテで型製を作り複製、再加工を繰り返しながら両腕のパーツを揃えました。

若田さんか漆喰を彫ることで前面のマスキングの手間を省いておいたほうが良いだろうと、色々ブロックごとにパーツを分割した「やさしさバリエーション」のほうか、私が付けた両腕でパーツ数が多めを好む。かえって若田さんの仕事を省くすまにー。

EバックはガンダムMk-IIのパーツから改造。ホールドはプラ板で複製を作って複製、再加工したものを受山氏と若田氏に依頼、複製の工程をP3氏からの「すくすくスクラッチ」で紹介していますので、そちらもご確認。

ということで板井監製型ハキウム板井氏にバトタッチ。

■シート製作・文、板井氏へ

当初、この大型シートを保持したまま本体を自立させるため、できるだけ軽量化すべくハキウムフォームでの製作を依頼されたのですが、ハキウムフォームを彫削したと型製を製作するにあまりに時間的余裕がないので、いつものようにエポキシバテで原型を製作して、本体を2パーツで構成し、形状を出した時点で内部をモーターで回転させて薄く削り中盤で製作。さらにレジンに反し軽量化しています。この方法でもエポキシバテ型に比べ半分近くまでは軽量化する事は可能です。実際量は型製の3/5とあったところまで下ろすことが、また、1字型のジョイントはレジンパーツでは強度に不安があるので、2ミリのクンチュウ線と糸を強固にバテで製作。

■PROFILE

例えさ・みつあき・近況/最近なぜか通用系の作例が続いています。このままだと、連判系モテラへの原稿が付きそうです。爪の生えた茶色いドラえもんが作りたいなあ。【フルアーマー・ガンダム】さくらい・のゆみか・近況/先日会社の子会社員から電話があり「実家の倉庫を整理していたらイデオタツという軽合金が出てきたんですけど、どうしたらいいですか?」そこで僕は「イデオバスタとノハもあるはずだから戻すように」と指示。こんな課長と部下、どう思いますか? (笑)【フルアーマーガンダムらしい?】



1 後にRX-110が使用するビーム・ライフルと両腕のショートバレルタイプ、MGの運用としては短く、両手にそれぞれ1門ずつ搭載するのがウェスのスタイルらしい。



2 3 両腕が試験的に使用しているEバック対空型ビーム・ライフルのためのEバックホルダー。1号機のものとは、3号機のものとのカラーリングが異なっている。



通常のものにくらべ、格闘にちなみがあるこのシートの内部には、プロペラントタンクとスラスターユニットが内蔵されている。低可動性のプロペラント（推進剤）を使用しているので、駆動時も流漏の心配は少ない。

マーキング



小標マークであるウツキをアレンジしたウェスのバトナールマーク。実行版を載っているのはヘイズルのアーマーを模したためらしい。



A 73部隊を示す部隊名「Titania Test Team」を示すもので、上にある●は1号機（隊長機）を示している。

①～⑤ 強化型Eバックパックとブースターユニット。できるだけ軽量化を経済するためにプラ板の彫削を基準にポリバテによる形状複製を繰り返して完成させたもの。
④ブースター・ボルトの可動部にはHQヘビメタルシリーズのエルガイムのヒザ関節を使用した。
⑥Eバックは複製を分割して、ガンダム1/100のものと同じく、両腕のバテに装着されているシム改口（製作・宮山海司）両のものも合わせて複製したものを使用。
各関節部によって製作されたシールド・ブースター。動力を出すため大型化と両腕に装着するための軽量化を両立させる必要があり、最終的にはバテの複製で2重製作した。





THE GUNDAM TR-1 HAZE

© 2002 Sunrise Inc. All Rights Reserved.





OHM2002年9月号に掲載された第1話に登場したヘイズルは、
実は群衆状態であり今回のアーモア装束型が基本兵装となっている。
ただし、今回の物語からもわかるようにマーフィーにとっては
機動力を損なうデッドウェイトだと感じられたようだ。
このヘイズルの追加アーモアパーツを岩田トシオが製作。
設定上、RX-78NT-1アレックスと同様のシステムということになっているため、
マスタークレード「ガンダムNT-1」の
チョコバムアーモアをベースに製作を行っている。

RX-121
GUNDAM Fz-1
HAZELL



音楽ファンダムタイプといえばヒーム・サーベル？本誌が伝
説であるが、ヘイズルはシム・クウエルをベース種として創
造されているため、バックバック部のヒーム・サーベル用エ
ネルギー供給デバイスが1基しか存在せず、1本のみの装
備となっている。装置位置が「右手側」にあるのもシム・ク
ウエルをベースにしているからである。

カラーリングデータ

①青(藍)・ガンダムカラー・ブルー(23)＋ガンダムカラー・ホワイト(1)
 ②赤・ガンダムカラー・グレー(11)＋ブルー(23)＋ホワイト(1)
 ③青(藍)・55・FL星形グレーパイオレット＋4・ジェームスグレー
 ④赤・「タンバインカラー・オーラレッド1」＋ガンダムカラー・ホワイト(1)
 ⑤青(藍)・55・青白色＋ガンダムカラー・ホワイト(1)
 ⑥白・01・ホワイト＋35・黒灰白色・少量
 すべてG3クレオス「M」カラー」と「ガンダムカ

ヘイズル用シールド・ブースターを
「ハイエンド版」で作る。



Final form 1/100 scale plastic kit (MASTER GRADE)
3M-790 GM QUEL
modeled by Toshio Inoue's Mitsuo and Mitsuo Hoshizaki/Sekuretsu

31ページで遂に最終形態を披露したガンダムTR-1「ヘイズル」。
両腕とブースターポッドにシールド・ブースターを装着。
その推力を一定方向に伝えることでMA並みの加速力が得られるようになっている。
この最終形態を再現するため、機体群像によって新たに描き直された
「ハイエンド版」シールド・ブースターを輝光彫が製作。
軽量化を図るためすべてプラ板によってスクラッチされている。
なお、製作の詳細はP.62からの「すくすくスクラッチ」を参照してほしい。

RX-121 ガンダム TR-1 「ハイズル」用シールド・ブースター 1/100スケールスクラッチビルド

製作・文 神光彰

今回はシールド・ブースターの「ハイエンド版」を製作しました。以前、桜井総統が製作したものは準備機を基にしていたのですが、先月号で発表されたハイエンド版や各イラストを見ると準備機とはフォルム、ディテールとも大きく変化しているため、今回「すくスク」で新たに作ることにしたわけですね。

従来からの「すくスク」でも紹介していますが、基本的にはプラ板と瞬間接着剤だけで製作してあります。

量産機内では(実)かなり簡陋に負担のかかるポリウムなので「できるだけ軽く」を目標にした結果、完成品の重量は31グラムまで抑えられました。

全体のフォルムは2002年8月号18ページのイラストをイメージ。ポリウム機はやや脚気味にして洗練形にまとめてみました。どうでしょうか？

各部の丸ディテールはウェーブの新製品「口ポルト」を使用。側面の楕円モールドは立きながら20時間かけて彫っています。

■PROFILE

みさき・みつあき「すくすくスクラッチ」調語。
近況/1月に発売される所期の再構成のため部々化を年末までとす予定です。従って前ページの「すくスク」で総じている組立加工は以前日野氏に覚えていただいたモノ。この巻を借りて感謝。
[フルアーマーガンダム]

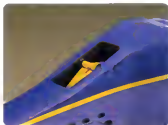
防衛時の機体形状としてのシールドに補助推進機としてプロペラントタンクとスラスターを内蔵した装備。①C 0000年代後半には、ミサイル射出用プラットフォームとしての機能をはじめ、それぞれの機体特性に合わせた多機能シールドが普及していった。その発展にはビーム兵器が対空の兵器として標準化し、シールド前部はあくまでも防御的な手段であるとの考え方が主流となったことが挙げられる。そのため、グリプス機時代のM5はデッドウェイト化するシールドを持たない機体とシールドそのものを多機能化する機体というふたつの方向に分かれていくことになる。



「ブースター」スリ

通常は機体のジョイントに接続されるが、断として単独で使用する際にはグリップを断じて手で保持する。スライド式なので必要に応じて自由にグリップ位置の変更が可能。

開口部が大きいため、同時期の機体で大きな損傷が与えられる。ノズル内側のフィンが上下に可動させることができ、それにより推進力にある程度の調節性を果たさせることができる。



「口ポルト」ジョイント

他機種ジョイント。オプションパーツやハートポイントとして汎用機を模倣することができる。また、機体の結構プラグをつなげば機体の機能を行うこともできる。

カラーリングデータ

- ① 機(機)…「ガンダムカラー・ブルー(20)」+「ガンダムカラー・ホワイト(1)」
- ② 機(機)…「ガンダムカラー・グレー(11)」+「ガンダムカラー・ブルー(20)」+「ガンダムカラー・ホワイト(1)」
- ③ グレー…「RILITEグレーバイオレット+却機・ジャーマングレー」
- ④ 赤…「ダンバインカラー・オーラレッド1」+「ガンダムカラー・ホワイト(1)」
- ⑤ 機(機)・機(機)…「ガンダムカラー・ホワイト(1)」



すべて白① クロ色②「Mr カラー」「ガンダムカラー」「ダンバインカラー」を使用。

PRESENTS

SUKU-SUKU
SCRATCH

スクラッチビルドとは
プラ板やバネ、木材などの様々な素材を使い、金庫から
ブロンパーツまで、キットにはないものを作る。キッ
トのパーツを一基に基盤したセミスクリッチと、キット
パーツを使わないフルスクラッチに分けられる場合もあるが、
当連載ではそれらをまとめてスクラッチと呼ぶことにする。

「1月」プラ板によるスクラッチビルドの1 すすすくスクラッチ

講師：岬光彰

今回は、ガンダムヘイズルのシールド（決定稿
バージョン）を「なるべく軽く、簡単に作る」
をテーマにお贈りします。もちろん他のキャラ

クターの製作にも応用できる工作なので、是非、
最後までお付き合いください。

制作の目的は、みなさん・あつちの会・一般教習所と本教習所が協賛の多岐を誇るイベント
セブスター。最初/最初のお題で「ガンダムたっこ」をする予定でしたが、50年前に成
果が上がったのを機に開催で、「ガンキャノンでっか」をテーマに改題しました。



1 接着して完成

切り出したパーツを裏面にセンターラインの線が通るようには、
左右対称のパーツの完成です。片側を先に切り出してゲージと
することで、左右の角のずれや歪みを正確に切り出すことができます。

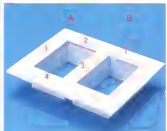
プラ板工作での厚みの表現

プラ板工作でパーツを表現する場合のL字組みの
加工方法を説明します。



1 図解 プラ板の厚み

プラ板の厚みに厚みをもたせる場合、図のようにL字状に組
み合わせる方法と、図Bのように厚みを厚くする方法。図Aは厚みを厚くする方法。
図Bは、L字を縦向きとする方法です。



2 例

写真のように図AのL字に厚みを出す場合、厚み出した部分に組
み合わせると厚みが出ない。Aの厚みは4mm、Bの厚み
は1mmです。また、Aの場合は穴の内側に加工するので、
穴の形状が変形してしまう可能性があります。



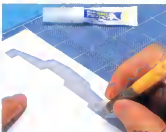
4 センターラインからの長さを移す

ディバイダーかコンパスを使用して、センターラインから、
両端の角のボイントまでの寸法を正確にプラ板に写し取
ります。



5 切り出し

両端の角のボイントを揃えるように、定規を添えて片側の寸法を切
り出します。



6 反対側のパーツの切り出し

切り出した片側のパーツ（写真では、わかりやすいようにグ
レーで塗られています）をプラ板に調整用ゲージで点付けし
て固定し、ゲージにして反対側を切り出します。

左右対称パーツの切り出し

プラ板などを左右対称に正確に切り出すのは、簡
単なようでなかなか難しい作業です。ここでは、
センターラインを基準にした簡単なプラ板の切り
出し方を紹介します。



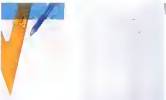
1 図面の作成

今回切り出すのは、ガンダムヘイズルのシールド・プラスター
の部品です。やや複雑な形状をしているので、方眼紙に図
面を製作してみました。センターラインとそれぞれの角の位
置を正確に作図して作業しましょう。



2 センターラインに切り込みを入れる

プラ板のフチに定規を添えて、これに三角定規を組み合わせ、
センターラインにカッターで切り込みを入れます。ここでは
絶対に切り崩さないでください。同じ方法で他のフチを直角
に切り出していきます。



3 隅線を書き込む

図面を基にして、パーツの各角の角の位置にセンターライ
ンと直線に交わるように隅線を書き込みます。



5 完成

右が加工前で左のふにつが加工後のパーツです。全体に厚みが均一に仕上がっているのがわかるでしょうか？



6 応用例

サークルカッターで切り出したプラ板を同じように加工して三次曲面を作ってみました。熱加工のように形を造ったり複雑な道具を必要としないので手軽に加工することができます。

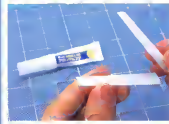
0.3mmプラ板を使った 曲面加工 (重ね貼り法)

薄いプラ板の柔軟性を活かして重ね加工を行い、曲面を製作します。



7 プラ板を背に接着つけて、クセをつける

0.3mmプラ板を必要な形状に切り出し、棒などに巻きつけて、必要なクセをつけます。

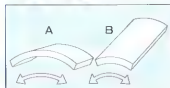


8 接着

同じ形にクセをつけたものを2枚以上重ねて、ゼリー状の瞬間接着剤ですり合わせながら貼ります。位置合わせが可能な時間は3〜4秒くらいなので、手軽に、慎重に作業しましょう。

プラ板の曲面加工 (折り曲げ法)

プラ板の曲面加工といえば、熱加工や積層して削り出す方法が一般的ですが、ここではプラ板の柔らかさを活かした加工方法をふたつ紹介しましょう。



1 図解：曲げ加工の概念

プラ板（スチロール樹脂）は、曲げ柔軟性が有り、図Aのように曲げる方向に鳴かるときは、簡単に曲げることが出来ます。しかし0.5mm以上の厚みの場合、図Bのように鳴が強いと曲げ加工をするのが難しくなります。



2 ペンで曲げる

ちょっと強引な方法ですが、曲げる方向に音が少ない場合はペンを使ってプラ板を挟み、小刻みに折り曲げていく方法が通っています。プラ板の表面がデコボコになりますが、この段階では別にOKです。



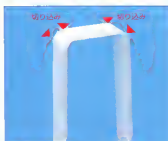
3 失敗例

一度に大きな角度で曲げようとすると、プラ板が割れてしまう恐れがあります。プラ板に加える力の範囲には注意しましょう。



4 ヤスリで仕上げる

曲げ加工でデコボコになっているプラ板の表面を、ヤスリで仕上げてキレイにならしましょう。



3 逆エッジ加工の応用

今回は図解Bの方法に反対紹介した「逆エッジ加工」を組み合わせて、厚みの表裏の簡単な作り方を紹介しよう。必要な厚みに切り出した0.5mm厚のプラ板に直角に4層分の切り込みを入れ、割れないように表面に折り曲げます。



4 接着+角度の固定

先に切り出したパーツに接着して、切り込み部分を「アルテックSSP-HG瞬間接着剤」でゼリー状の瞬間接着剤で固定します。



5 ヤスリで仕上げる

接着剤が硬化したら、ヤスリで接着剤を仕上げます。平面なので、写真のようにみえても「等厚板（スチロールフォーム）のブロック」を使用するとキレイに処理することができます。

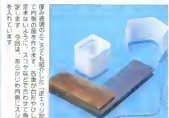


6 完成

他の部分も同じように加工して、厚みの表裏ができました。今回の作業で、曲面の処理をしたのは、上面と矢張り提示した部分のみです。どうしても作業量が多くなってしまうスクラップビルドでは、このような作業の頻率も重要なポイントのひとつです。

角バーニアの製作

シールド・ブースターの後ろ側に付く、角バーニアを。簡単な方法で作成してみようと思います。



1 内側を作る



2 側面を貼り付ける



3 C面を接着パテで作る [1]
ポリプロピレン板（通気ケースなどを切り出したもの）に
スプレープライマー（硬化促進剤）をスプレーしておきます



4 C面を接着パテで作る [2]
先に貼り付けた外側の面と面の間に、接着パテを少し多めに塗り付け、促進剤を塗ったポリプロピレン板を押しつけます



4 スレの修整

前道工序によって生じたブラ痕のスレも、「アルテコSPP-HD瞬間接着パテ」を多めに塗り付け、接合しながら修整します



5 C面をつなぐ

C面部分は、多めに瞬間パテを塗り付け、面と面をつなぐです。「アルテコSPP-HD瞬間接着パテ」は、多量に使用すると発熱しやすいので、硬化スプレーを併用して面めがら塗り付けるといいでしょう。



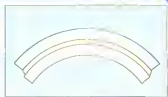
6 ヤスリで面出し・仕上げ

角面が滑らかなラインでつながるように、丁寧に磨って仕上げていきます



7 完成

ブラ痕と磨傷パテの併用で、見た目よりかなり軽いバーニアを作製することができました



3 図解 接着したパーツの断面図

薄いプラ板の柔軟性を利用して、逃げダゲをつけたパーツを強く柔軟性の低い接着剤で固定することで、パーツの形状がクセをつけた状態で安定するのです



4 完成

右が加工前、左が加工後のパーツです。微妙な曲面が再現できました。前回は0.7ミリくらいですが、瞬間接着剤で接合することで、強度がかなりあります

パーツの接着

いよいよ、切り出しや曲げ加工の済んだパーツを接着して組み合わせましょう。



1 切り出したパーツ

切り出したシールド・ブースター本体部分の各部パーツです



2 形状試作

作業が初めですが、全体的なフォルムの確認と角面の構成を確認するために、「スタイロフォーム」で試作を作ってみました。似た形状のパーツが多いので、各面に番号をつけて区別しやすいようにしています



3 接着

甲面と前部加工をしたプラ板を組み合わせる場合、どうしてもスキマがでやすいため、今回は接着に「アルテコSPP-HD瞬間接着パテ」を使用してスキマ埋めも同時にしています

ジム・クワエル用ヘイズルヘッドを
改造してみる。



今月号の付録「MGジム・クワエル用ガンダムヘイズルヘッドパーツ」。

このパーツを使えばヘイズルの予備機として小説に登場した
ジム・クワエルを誰もが簡単に作れるようになっている。

この頭部パーツを岩田トシオが

9月号で自作したヘッドパーツをイメージして改修を行った。

※電撃ホビーマガジン2003年1月号付録

「MGジム・クワエル用ガンダムヘッドパーツ」は現在入手不能です。

もう一つの A.O.Z U.C.0088 ハート



コンラッド・モリス

連邦軍法務局所属の法務官で、軍人でありながら弁護士を務めている。表面は冷静だが、熱い心を秘めている正義漢。左足が悪いため、いつも杖をついて歩いている。グリプス戦役後に行われたティターンズの結託を受け持つことになった。40歳（U.C.0088年時）

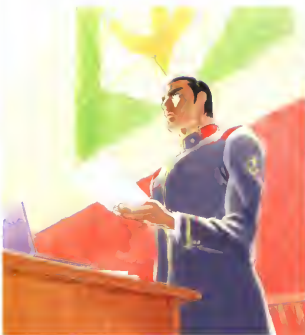
「アドバンス・オブ・Z」には、本ムックに掲載された0084～0088までのエリアルドたちティターンズ・テスト・チームの活躍を描いたストーリーのほかにも、もう一つのドラマがある。電撃ホビーマガジン誌上で、隔月刊誌化されているこのエピソードでは、0088年、グリプス戦役後に行われたティターンズ結託について語られている。

U.C.0088年、グリプス戦役集結後、残存したティターンズに所属していた人々は戦争犯罪人として厳しい扱いを受けていた。MS実験小隊に所属していたエリアルド・ハンター中尉もいくつかの罪状によって軍法会議にかけられることになった。ティターンズが行っていた悪行の事実を知った絶望に沈んでいたエリアルドだったが、彼の弁護を引き受けたという法務官のコンラッド・モリス

少佐に助言され、その栄光と挫折の日々を語り始める。第二の罪状、それはU.C.0085年に行われた、サイド130（インテロイド）の住人300万人を捕獲のG3カスによって殺害し、した事件への関与だった。エリアルドはG3カスを種族ごとの輸送艦を、そうとは知らずに運用していたのだ。コンラッドはエリアルドの無

実を証明するため、まずは現在に行方不明となつていくウェズ・マリー大尉やカール・マツハラ中尉といった、彼の所属していた部隊の仲友を探し始めた。だがエリアルドを有罪にしようとする連邦上層部の動きにより、彼らの行方はまったくつかめなかった。やつとこのことでかつての部下から手がかりを懐いたコンラッドは丹へと向かい、もとアスランのメカニックだったヘントリック・ネースと出会う。

【電撃ホビーマガジン6月号までのあらすじ】



RGM-79CR GM TYPE-CR

BANDAI 1/100 scale plastic kit
"MASTER GRADE"
RGM-79C GM TYPE-C
modeled by Ryuji Soryama



連邦軍の次世代主力MSである「RGM-79RジムⅠ」に対するディターンズ用の評価試験機。
この機体を空山唯司が製作。

RGM-79Cジム改がベースになっているという設定に合わせて「マスターグレード ジム改」にRGM-79RジムⅠ仕様の各種センサーやスラスターなどを追加して。

主人公、エリאלドの乗る近機動型を再現。
さらに頭部をはじめとする各パーツを差し替えてカールの乗るジム・スナイパーⅡにも換装可能とした。



RGM-79SR
GM SNIPER III

BANDAI 1/100 scale plastic kit
"MASTER GRADE"
RGM-79C GM TYPE-C
modeled by Ryuji Sanyama

RGM-79SR
GM SNIPER III



頭部はベース機となったジムⅡのものからそのまま流用されているが、カラーリングの違いからまったく別の機体のような印象を受ける。



高出力サイネーターを装備したことに対応し、右肩には彼専用ダクトを接続。左側には強化されたセンサーが追加されている。



ジョイント部分分解されているため、Eパック・ホルダーはウェポン・ラッチであればどこでも搭載が可能である。



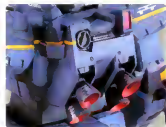
スネの上部分には胴体内部を保護するための格納部として、装甲厚の増強ともなる大型化が行われている。



関節には増強用のハイ・ニアスラスターを接続。それにともない関節に追加されたサイネーターも強化されている。これにより宇宙での機動力が飛躍的に向上している。



狙撃型にはズーム・スナイパーIIで採用されていたハイザー・センサーの強化版が装備され、最大倍率 100倍、射撃精度などが向上している。狙撃時にはハイザーを下ろして使用。



バックハックに内蔵されたジェネレーターにはベースとなったジム連射用の強化型を採用。遠方撃能力を強化するため、右腕には高容量センサーが搭載されている。



Eハノク方式の伸縮ビーム・ライフル。運用実態のために砲撃時や狙撃時とさまざまなバリエーションが存在する。



1 左右腕の増設腕銃ダクトはキットの胸部装甲をくりぬいて、横から押し付けたポリバネを加工して接続。



RGM-79CR ジム改高機動型

RGM-79SR ジム改スナイパーⅢ

バンダイ1/100スケールプラスチックキット
"マスターグレード"RGM-79C ジム改改造
制作・文 窪山竜司

ついに連載開始となった「A.O.Z.」ティターンズカラーのMk.IIをベースにしたジム改は、従来のジム改とは異なる印象を受けます。でも、自分か担当したのがエアリアル・ハンター中尉とカラー・マツハラ中尉の搭乘する「ジム改」とその「スナイパー仕様」。

使用したキットはMk.IIのジム改ですが、竜田氏のイラストに受ける印象はスリムかつスバルタンな感じ。一部キットヘースでというところだったのでスラッシュパーツは極力削け、顔面とマークキングの異なるパーツのみの差し替えでそれぞれに対応しました。

■頭部

エアリアル機は先月号のジム改を参考に後ハメ加工をしました。耳インテークの台座はモールドと彫削。スナイパー仕様は大幅に形状を変更。まずインテークまわりのすべて削り落とし、後頭部は後頭部から突き出た部分のみオリジナルで処理しました。パイパーはブラ板の補給で、耳のパーツはコトブキヤのハニニパーツを使いました。

■肩甲

ジム改との違いは肩のダクトと追加センサー。ダクトは前パーツに穴を開け裏側からポリバテで作ったパーツを組み込みました。センサーはシム・クウエルからの流用です。

肩まわりは削り込んで中のフレームが見えるように改造。けっこう印象が変わるオスメエです。肩の取り付け位置は後方にずらし、肩の出し切りを強化しました。

バックパックにはブラ板で作ったセンサーを追加。肩はブラ板で補強しました。

■腕部

腕パーツのみを改造。ダクトの出し切りを強化しバックキョウストに似た形状に加工しました。腕を滑らかにするために、関節部をなめらかにすらしめてあります。

■胴部

イラストのイメージを参考に大幅に改造。スネで切断してブラ板で5ミリ延長。胸に肌に見えるように若干角度をつけました。フクラハバの赤いバーニアはコトブキヤのパーツを使い、ヒザの出し切りはポリバテで成形。足首は先月号の「Ver. Ka」を参考にツマ先を延長しました。

■足部

ヒーム、ライフルはクウエルのものを流用改造で1ミリ縮短し、センサー部分を大型化しました。エネルギーバックはガンダムMk-IIから。スナイパー仕様はガンダムMk-IIのライフルバレルをブラ板で延長し、ストックもブラ板増量からの削り出しです。腕と腕に付いているバック・ホルダーは「ヘイズル」と御さんが作ったものの複製品です。

■塗装

この作例で一番の難所となったところ。まずオレンシを塗装しラインを1ミリのテープでマスキング。腕と腕とのつながりを調整するのに苦労しました。しかしパーツ単位で色を付けないカラーリングは新鮮でいい勉強になりました。

■PROFILE

それゆえ、ウラジミ・近藤(よくやく「PSB」)を模し、しかしながら出せない日々が続いています。「ランレン」や「一」といえないからポリバテを削る毎日です。[プラウ・プロ]

カラーリングデータ



1 頭部・足・フルー 40%+83% フラシオニ
ンフルー・45%+83%-モンザレッド:10
%

2 フルー・肘・ミティアフルー 90%+モンザ
レッド:10%

3 肩甲・肘・オレンジイエロー:50%+83%
・黄光オレンジ:50%

4 背・モンザレッド:50%+83%・ホワイト:10%
・黒・83%・グレー・パイレット:50%+83%
・ブラック:50%・83%・レッド・バレルで
コート

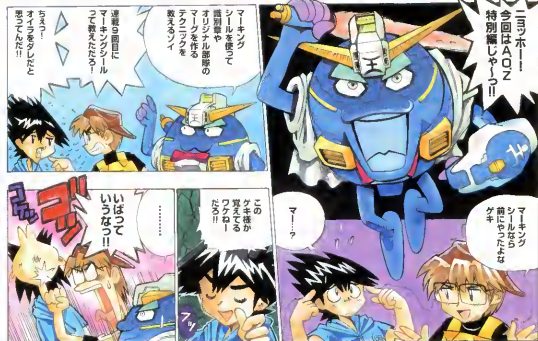
5 センサー・83%・黄光レッド

●オリジナルのマーキングに挑戦!

今回のガンプラ兄弟は、A.O.Z.を読んで“自分もカッコイイMS部隊を作りたい”と思ったキミに贈る特別編だ!! キミだけのオリジナルマーキングの作り方を教えちゃおう! ちょっとコツがあるけど、丁寧に作業すればOKだよ。

ガンプラ兄弟

～A.O.Z.特別編～



マーキングシールの端を使う ③



デン! それぞれ! 運搬9回目にボクサグキに載せてやっただけをそれだろ! マーキングシールの端を使うんだよね。どうにゲキ、思い出したか?

余ったマーキングシール ②



ガンタマ王! じゃあからマーキングシールを使うに、買ってあるじゃあ、オライの機体に貼るんだ。買ったマーキングシールが、こんなにあるんじゃ、だいたいオライに貼るんなら、プロモーター機体の塗装ができるわけじゃあ、今更には遅くないで、マーキングシールを使った機体のラインの作り方を覚えてやろうか。

A.O.Z.の作例 ①



ゲキ! いーてな、もう! それぞれとして、このGMでできてきた、見たことないマークが、いいあるんだ。オリジナルのラインとかもあるし、なあガンタマ王、作例は確認してみたいけど、またエアブラシ塗装とかするの?

シールを切る ⑥



ガンタマ王! ガンダムマーカークが切れたら、デザインタイプでシールを切り取るんじゃ、ちゃんと位置を定めて、長さや太さを計ってから切るんじゃあ、切り出したシールをハーンに貼ればいいんじゃあ、ゲキ、コレを右側に貼っていいー

ガンダムマーカークでシールを塗る ⑤



ガンタマ王! ニッホー、マスキングも同じじゃないと、さすかゲキ! じゃあ、そういう失敗をしても簡単に直せるようにマーキングシールを使うんじゃあ、まあ、とにかくガンダムマーカークでシールの端に色を塗って、乾燥させるんじゃあ。

いきなり塗って失敗! ④



ゲキ! いや、さっばり、だいたい写ってマーキングシールを使うんだ、こんなのガンダムマーカークとかで、さっと塗っちゃは失敗だろ! スイマセン、失敗してしまっば!



ゲキ あー、なんで水性なんだよ？ べつに油性の「スーパークリアスプレー」でもらっちゃん、それ、ブシューっとな、ギャー!?
 なんかマーカーが染みこんできたー!!



ガンダム王 そんなに塗る前に気をつかんかい! ガンダムマーカーの塗料は、マーキングシールに完全に塗るのじゃ。無茶に削がしたりすると塗料が剥げてしまうことがあるんじゃ。急のため水性の「トップコート」を塗る時はよくとれんじやぞー。



グキ これを貼ればいいのか? こんなのも貼る、プツプツ ズ
ヤー! シールが貼がっちまった! マダ貼り置せば ああッ!
シールの端がボロボロになってる!



ガタマ王 オリジナルの御用車ということは、自分の好きなマークを作ればいいんじゃないや。最近ではマーキングシールと同じ材質のシールも売ってるから、好きなものを使ってもいいんじゃないや〜。おや、こんなところに売ってたシールがあるの〜。ちょうどよいわい。今回はこれを使ってみるが〜。



ガタマ王 フォウ、次はオリジナルのマークの作り方を教えよう
かの～。AロズのGM席に使われていたマークは国庫印とパーソ
ナルマークというもんじゃ。ようするにどこの国庫の蔵か乗っ
てるMSがわかるように、おまじゅうマークンギをしているというわけ
じゃ～。まあ、詳しくは下のコラムを参照しなす。



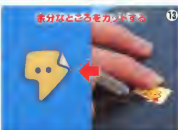
デン 一なんでお前は人が言うことの反対をするんだ？ 凍地のスプレーだと、一貫乾いたマーカーを溶かしちゃうんだよ。まあ、グキらしいっしょ、グキらしいけど。ほら、僕の作ったシーลはちゃんと足の跡わったよ



ガクタン王 シールに塗られている塗料が薄い色とのときは、下地が透けて色が暗くなってしまうことがあるんじゃ〜。下地に色を塗る方法などもあるんじゃが、それは次回以降に教えようかの。案にならんないならそのままでいいんじし、下地の透けないシールを通なんぞいんじかけらうの。



ゲキ ヘー。確かに白いマークのシールだね。んじゅシールドに貼ってみるか。位置はこの辺で。あれ、なんかシールが重い感じがするんだけど。まあいいか。



デジ ふーん、なんか変なシールだね。この電撃マークは、けっこういいかも。ボクらも「デジキ」だしね まわりの赤い部分はいらないから切って使おうかな



A.O.Z COLUMN

通商、MSは既述の如くために既述のシンボルマークやフルパレットの総称を各機種の名前（メインジョブ・グループ・マテリアルのスカート・バーなど）にマークアップしている。ディターンも原則的にこの方法に準じて既述の総称を伴って行っているが、一部の既述では一風変わった既述風配のマークアップを施している。それは、部組ごとにシンボルカラーを決め、それを機体の一部に施すというものである。同じ既述が所属するMSが部組でシンボルカラーが同一でも、一機によってマークアップの部位や装飾パターンが異なり、その違いによって所属を識別することが出来る。例えば、愛蔵機種のデウスと主任機種の「ディターンズ・デウス・チーム」のマフイー小隊では、デウスを意味する「オレンジ」が部組カラーとなっている。マフイー小隊は、そのオレンジを機体各部に鮮やかなストライプのラインによって連続し、部組識別色としている。

このシンボルカラーによる部隊識別は、ティターンズの戦力が拡大し始めたU.C.0084年末から実施された方法で、それ以前に見出したバスク・オム大佐率いる“ティターンズ第1戦隊”などではこの識別法は採用されていない。

Logo Mark Design:Fujioke Kent/PEPPER SHOP

普通のシールも消せる 16



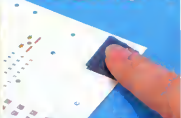
デジ・Aにマシが付いているマーキングシールもMGに付いているマーキングシールと同じ材質だから、大丈夫だよ。ほら、写真のGMのシールのシールだって文字を落とせるよ。

文字が消えた! 17



グキ おお、文字が消えた!? そっかマーキングシールの文字で削り落とせるのか、あれ、このマーキングシール、ホビマシの付属じゃんか。これって切り取り線がないやつだけど、MGに付いているマーキングシールも同じことできるのか?

シールを紙ヤスリで削る 18



ガンタマ王 次はちょっとだけレールを上げるぞい。まずはマーキングシールの文字を紙ヤスリで削って落とすんじゃ。紙ヤスリは800番以上のものでも丁寧に磨くんじゃぞい

マスキングテープを使う方法 21



ガンタマ王 穴開きで、せっかくなのでエアブラシ塗装を真逆にしんじから、ちょっとはやっておくのか。まずはマスキングテープに作りたてのエアブラシを貼るんじゃ。ちゃんと足場を使って高さや太さを計って磨くんじゃぞい

赤白をカットして貼る 20



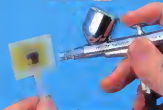
グキ うるどいぞい、いちいち磨われなくてもわかってるよ。よし、磨いたぞい! あれは、赤白をカットして貼ればいんだろ。磨きのエアブラシ貼るかな、こんな感じかな。

筆塗りでもマークを塗る 19



ガンタマ王 マーキングシールの文字を落とすとしたら、筆塗りでもマークの磨き方に挑戦しようか。AとZで書かれているディテールズマークでも塗ってみるか。あれグキ、やってみよう。カットされてしまう大きさかまってるものは、その中にマークを磨き込むようにするんじゃぞい

エアブラシ塗装 24



ガンタマ王 マスキングテープを貼の磨いたら、ブラッシュの吸い口で持ち手を握るんじゃ。シールを固定したら、ハンドピースで吹き付け塗装をするんじゃ。ちなみに塗料をいさなり吹き付けながら、先に軽く磨いておいたほうがいいぞい。塗料が乾燥したらマスキングテープを慎重に剥がすんじゃぞい

シールに貼り直す 23



ガンタマ王 切り取ったマスキングテープは、磨れないように丁寧に削りつけて先に文字を落とすおいたマーキングシールに貼り直すんじゃ。スキマができないように前後などできっちり仕舞って置くんじゃぞい

アタリに合わせてカットする 22



ガンタマ王 アタリを磨いたら、真ん中部分だけをデザインナイフで切り取るんじゃ。マスキングテープを切り過ぎないように注意して切るように。ちょっと前後しながら、きっちり丁寧にやれば大丈夫じゃぞい

トップコートを吹く 27



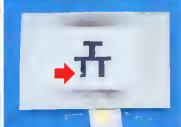
ガンタマ王 ハンドピースで取れたところと、前後でリタッチしたところは、ツヤの出方が違うんじゃ。そのツヤを揃えるのと塗装の保護のために、また「トップコート」を吹き付けておくんじゃぞい

筆でリタッチする 26



ガンタマ王 まあ、そうじゃろうの。種類がグキにできるわけがないから。磨ってみただけじゃ。そういって今度は丁寧に前後でリタッチしてやればいんじやぞい

塗料が剥がれた!? 25



グキ はいはい、わかったってば! マスキングテープを削がすのね。磨でもできるだろうがこんなもの。あれっ? なんか塗料が剥がれちゃったみたいなんだけど? (スイマセン!) 失敬しました!

完成

30



グキ、ヤットオレのGMが飾り物でできたぜ！くー、色を塗るだけでマーキングシールを貼るだけで、けっこうカッコイイな。ダン、はなっってんだよ！お前は失敗ばかりして、ジャマしてはばうだろ！だいたい「オレの」ってなんだ、「オレの」って、クが作って、もう1体はガンダム王が作ったんじゃないのか？

パーツに貼る

28



グキ、ふー、なんとかなった、あとシールの余白部分をカットしてパーツに貼ればいいんだよね。あれをういえばA.O.Z.の作例は、余白部分が見えなかったけど、あれはマーキングシールじゃないのか？

パソコンプリンター
専用デカール

29



ダン、A.O.Z.の作例で使われているのは、パソコンプリンター専用のデカールを使ったものなんだ。まあ、こうした材料は、まさか「プロ」ってことだよな。だいたいバクだね、パソコンを持ってないしね。

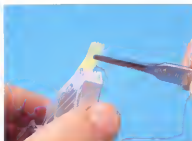


今回の特別版はどうだったかな。余っているマーキングシールを使えば、お宝もかからないし、みんなも気楽に挑戦してね。それにしてもグキ、お前シャア好きだったのか…。だいたい「シャア専用部隊」ってなんだよ？

つづく



※マスクングテープの端はハサミなどで丁寧にカットして使用します。



※マスクングテープは塗る面と貼る部分に指の腹などか付着して粘着力が落ちてしまいますから、ピンセットなどを使ってできるだけ触らないように心掛けてください。



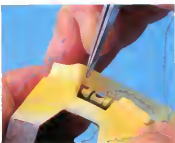
※完成品は、仕上がりアップのため、指の腹などか付着して粘着力が落ちてしまいますから、ピンセットなどを使ってできるだけ触らないように心掛けてください。



※余分な部分を折り込んでおきます。



※このような形状の面はテープで包み込む事でマスクしていきます。貼り付けの際には面がうやゆりがないか充分チェックしましょう。



口先のダクト部分はイエローを隠すので、マスクングテープをディテールに沿って貼っていきます。



※ラインの部分はアイズプロダクション製「マイクロマスクングテープ (1 ミリ)」を使用します。



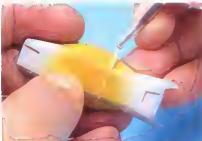
※塗り出した面へのマスクング作業は、土塗り塗料の層がマスクング箇所以外に充分乾き付けれられるようにできるだけ小さく、重ねにならないよう仕上げる事が肝心です。



※最後に上面にテープで覆えます。



※テープにシワができないように、ピッタリと貼っていきます。特に顔面と構成されている面は曲がりやすいので注意してください。



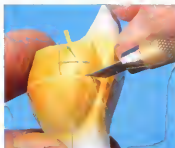
※光のマスクング作業同様、直線面と曲線面に注意して貼っていきます。ラインが崩れて貼りにくい面はチェックしながら作業しましょう。覆れない面は貼るなどで印を付けてながら作業するといでしょう。



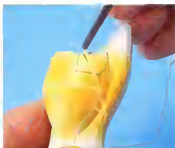
※最終のテープはピンセットで丁寧に貼り出します。



お墨って糸ラインを彫ったり、浮かせたりしないようにピンセットを使って丁寧に余分なテープを切り取ります。



デザインカッターを使って逆後面に傷が付かないように、丁寧に余分な部分をカットしていきます。



糸ラインのマスキング作業は線と線に順に順いておき、次から余分な部分をカットします。



ゼブルーを上塗りし、1時間ほど乾燥させます。



おラインマスクの上からパープル部分をマスキングテープでマスキします。



おパープルを上塗りして、1時間ほど乾燥させます。



⑨カメラアイシールドや脚部パーツを組み立てて完成。



マスキングテープを剥がすタイミングはマスキング作業をして塗装を開始してから5時間以内に行いましょう。塗料が完全に乾燥してからでは塗膜が硬化してテープがキレイに剥がれない癖があります。



※テープを剥がす際は早らず丁寧に作業しない、上塗り塗料が完全に硬化していないので表面に思わぬ傷を付けてしまいます。

RGM-79C GM

A.O.Z SPECIAL

BANDAI 1/100 scale plastic kit
"Master Grade"
modeled by Nobuyoshi Ochi



A.O.Z COLUMN

■ティターンズカラー

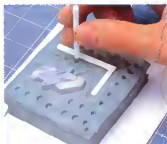
ティターンズのイメージカラーは「黒」。そして、ティターンズMSの塗装色は「ティターンズカラー」と呼ばれている。正確な塗装色は「濃紺」であるが、その色は限りなく黒に近い。黒は相手に恐怖心や屈伏感を与える色であり、地球圏の治安維持を目的とするティターンズにとって、これほど都合の良い色は他になかったといえる。事実、旧世紀から特殊部隊というものは、その歴史に「黒」を好む傾向がある。全身を黒く塗られた、18メートルを超えるティターンズMSの威容は、対峙した敵に強烈な畏怖の念を抱かせ、その衆を目の当たりにしたジオン専務兵の戦意を著しく失わせただろう。

試作機であるRX-178ガンダムMk-IIも、他のティターンズMSの例にもれずティターンズカラーに塗装されている。試作機のカラーリングにまでこだわることの姿勢からも、黒の意と任務への決意のほどがうかがえる。



黒いカラーリングは、ティターンズのイメージカラーである。黒は相手に恐怖心や屈伏感を与える色であり、地球圏の治安維持を目的とするティターンズにとって、これほど都合の良い色は他になかったといえる。事実、旧世紀から特殊部隊というものは、その歴史に「黒」を好む傾向がある。全身を黒く塗られた、18メートルを超えるティターンズMSの威容は、対峙した敵に強烈な畏怖の念を抱かせ、その衆を目の当たりにしたジオン専務兵の戦意を著しく失わせただろう。





レスタンピング

造土の表面に、ダボ穴をスタンピングしていきます。ダボ穴の位置は、原型から決めます。漏過げや空気抜けが必要な場所にかからないように注意して決めます。



⑦ 油土埋めの完了

シリコンの流し込み

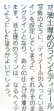


1 鹽梓在湖北

粘土の厚みの2倍に、1センチくらいの糸糸を持たせた裏面に
 竹の板を切り出し、粘土の側面に垂直に組み合わせて、厚みが
 できないように枠を組みます。写真のものは、花器片を取りの
 ときにも使用した、厚めのスチレンボードを両ピンで固定した
 ものです。プラ板や市販の型枠ブロックを使ってもいいでしょ
 う。



②使用したシロローン



4. 4. 4. 4. 4.



13 腔型を埋める角度

原型を埋める向きによって、気泡の抜けやすい型にすることも可能です。図の異なる断面のパーツを例にすると、型の方々にに対して平行に原型をセットした場合、上の角と側面の凸モールドの角に、気泡が入りやすいのですが、原型を斜めにセットすることで気泡の通り道を作り、空気抜けから気泡が抜けやすくなります。原型の形状をよく観察して、その断面に合った位置や角度で、粘土に型を作るのが大切です。



14 夕朮穴を打つ(通鼻)

シリコン製がしっかりととむるように、ガイトとして粘土の表面にタポ穴を打ちます。タポ穴を打つ適量は、プーチやヤスリバーツなどで作るというでしょう。必ず最初にテーブルの角の部分を加工します。4〜5ミリくらいのものを、数回磨き上げておくとう便利です。



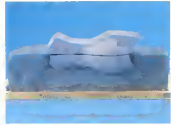
(15) ダム穴の深さ

タボ穴は浅すぎると缶スレ防止の役に立たず、深すぎるとしっかりととはまらずに缶の合わせ目に隙間ができる原因になってしまいます。たいたいう〜も3ミリくらいの深さが適当です。



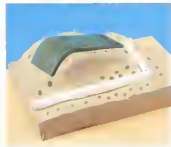
・巨礫型と粘土の接点

固の石膏のように、石膏と粘土の接合に層間があったり、正におめに盛り土がっけたりすると型ズレなどの原因になり、成形品に段差が発生するなどのトラブルが起きやすくなります。石膏と粘土の接合点は、できるだけ左の図のように、重層に合わせようによします。



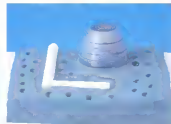
日油土壌めの基本的なライン

黒鉛と粘土の接点のラインは、なるべくパーツの中央にまっすぐ水平に入っているのが理想です。この状態だとシリコン型になったときに、クランプの方が裏に対して裏面に働くので、型ズレなどのトラブルが起きにくくなります。



五パーツの形状によって変化するライン

例として、以前作ったザクズのシートを、薄土埋めしてみました。このように実際の作業では、両型の形状に合わせて薄土埋めのラインも変化します。型ズレには、あとで紹介するボタ穴を入れることで、対策が可能です。



生バーニア状のバーツ

バーニアなどに見られるお模様のパーツは、パーツの中央にパーティングラインを設定すると、抜きが難しくなってしまうので、パーツのエッジ部分にラインを設定するとよいでしょう。

PRESENTS



④反対側のシリコンの流し込み

再び物を結んで、シリコーンを流します。先の流し込みと同じように、車で再型とシリコーンの表面に離型剤を塗ってから流し込み、硬化するまで待ちます。



0.000000

シリコンが完全に硬化したら、棒を取り外し、型を分割します。一見、分割難がわかりにくいかもしれませんが、型の両側を持って、角から離離に左右に引くようにすれば、きれいに分割できます。強引に離そうとすると、型や原型が離れることもあるので、注意が必要です。



④ 顔型とランナーの取り外し

両型とランナーを下車に廻り外します。



④ 河口と空気抜きとの切り出し

レジンを通し込むための「開口」、型の中の空気を逃がすための「空気抜き」を切り出します。この型の組合、写像の赤く残っている部分か、切り取る場所です。レジンと空気の通り道を考えながら、適切な場所を決めます。



6片面の完成



7. 離型剤を塗る(液状タイプ)

もう片方の面にシリコンを塗し、むき面に、シリコン同士がくっついてしまわないように、離型剤を塗っておきます。写真で使っているのは、シリコンゴム接離防止剤(離型剤)の「バリヤーコート」。原型に付かないように塗るしなから、シリコンの表面に塗って丁寧に塗ります。塗り残しがあると、その部分だけくっついて、型がとぎれることがあるのでこの注意を



日離型劑を塗る(スプレータイプ)

写植に使用しているのは、「ハイ・リムーバーⅡ」(2,700円)という、フジ電機のスプレー式離型剤です。塗膜が薄手で、モールドが埋まってしまうことがないので、厚塗の上からスプレーすることが可能な離型剤です。同剤と平膜の光から塗布タイプには、作業時が4、5秒で済むのがオスモメの材料です。



③シリコーンの流し込み

前回の片塗りするときと同様に、硬化剤を混ぜ合わせたシリコンを、種で原型や粘土部分に丁寧に塗ってから、少しずつ液の入れないように塗り込みを行います。



4. 硬化させる

平らな場所に置いて硬化させます。完全硬化する前に触れたり動かしたりすると、型が変形する場合がありますので注意が必要です。表面のへタツ生がなくなったら硬化完了です。



白粘土を除去する

型枠を一度外して戻します。型枠が外れないように気をつけながら、粘土をはがします。今使った「ポピー・あぶらねんど」は、型枠からよりので簡単に取りませんが、鉄柄によっては、型枠やタボ穴の周りにこびりつくことがあります。そのときは、ヘラや銅棒で丁寧に取り除いてください。

A.O.Z COLUMN

Eバック・ホルダー

ティーターズ・テスト・チームのMSに、他の
 の部隊では使用されていないオプション、バ
 ン「Eバック・ホルダー」が装備されている。
 そもそもEバックとは、エネルギーCAP技術
 によってメカが強化される前哨まで反動したミノ
 フスカー・戦士を牽制したビーム・ツヴァールの「暴
 風」(他によい襲撃がないので、仮にこう呼称す
 る)である。一年戦争当時、この前哨はビーム・
 ライフルに内蔵されていた。そのためエネルギー
 1反動されたミノフスカー(戦士のこと)を
 いれたらずと両ツヴァールを3反動までビーム・ラ
 イフルを使用することができなくなった。しかし、
 Eバックを交換すれば両ツヴァールの必要なく敵
 士・チームにはテスト部隊のビーム・ライ
 フルのEバックが必要とするため、Eバック・カ





YRMS-100
Hi-ZACK

1/100 scale model kit
modelled by T.H. by G.H. *Sakura
TEAM TAC

マスターグレード・MS-06F2を基準にして
ハイザックを作る。





24ページのEpisode2, 0のラストに登場し、マフイーが乗ることになったハイザック先行量産型。

全体のバランスやカラーリングはA.O.Z版だが、これまでの「ガンダムTR-1」「ヘイズル」や、「ジム・スナイパーⅡ」のようなA.O.ZオリジナルMSではなく、基本的には「Zガンダム」本編に登場していた機体と同じもの。藤岡建機がリファインしたこの機体を桜井信之が製作。ザク系最新MGである「ザクⅡF2」をベースに改造を行っている。

YRMS-106
Hi-ZACK

YRMS-106ハイザック先行量産型

1/100スケールスクラッチビルド
製作・文・桜井高之(チームTACO)

皆様お久しぶりです。実は前作ハイスルのシールドを新品後に再度削れ、点検ラフを送っていたために2ヵ月ほどお休みをいただいていた次第であります。前回はバネの巻いとで、変更はおろか水も動かぬほどに凝がれを起こしてしまつたので、数種バネの船柄には注意して必ずマスクをして下さい。マジ、悪いですよ！

■製作

さて、このハイザック先行量産型、当初ラフを眺めを眺めとさば、F2ザク1(以下F2)にハイザックの外装を一回り小さく縮小して「真実・真実型」工作で〜と密着していたのが大層面白い。最初ハイザックのキットを加工して使った部分は真実型、スパイクアーマーの下側、前脚、バックパックの4箇所。あとはF2の外装パーツにバネを盛って削って、削って削って〜なんだ、いつものことか〜(笑)。

まず真実型。ここはハイザックともF2とも異なるデザインです。そこで全体の形状は実在に、モノアイ型は真実型に広がるように、ハイザックの特殊なF2に盛り込むように製作。真実型無敵の本体は真実型に作り替えて付けられ、あら不思議？ ちゃんとハイザックに(笑)。

真実型縮小の引き出し機構を削り、プラ板で削を削りました。それに前後の外装パーツ(ハイザックのキットをベースにプラ板とバネで改造したもの)を取り付けます。

真のフレームはそのまま。各アーマーはプラ板とポリバネで製作しました。太ももはF2のキットが前後分断なのに、このハイザックは左右から装着するようなデザインなので、一度パーツを削き、真実型に真実型にノコで切断。その後フレームにプラ板でリブを付け、左右からパーツをはさみ込んだときにそのリブが中央に突出するように製作。MGタンバンの脚のようになり、削と削はわかりただけです。ようす。

スネはキットを真実型で削き、外装パーツは真実型にハイザックとは異なる真実型で削り替えて、真実型に製作。足首はかなり大分削りました。その代わりヒザ関節でも少しは削を削っています。

ヒーム・ライフルはプラ板でスクラッチ。マシタのガレージキットを手に入れようと思つていたので〜(T-T)

バックは真実型が削り替えてくれたパーツを削けてもらいました。お忙しい中、真実型で削けていただきましたアリガトです。

■PROFILE

① 色は青〜近江/私、ホビーマジンギン本誌には削り替から削り替えていたというので、ガンダムシリーズの削り替はまた〜(T-T) 本誌アイテムはメインストリームからは削り替えて仕事をしていたにもかかわらず、よくこの世界で生き残ってこれたな〜と思う今日この頃です(笑)。【フルアーマーガンダム】

■サウ

サウと同様、左腕には前脚用のスパイクアーマーが装着されている。こちらは真実型アーマーを削り替、真実型ではなく「真実」としての真実型も削り替えている。削り替えている。

■削り替

真実型削り替はすべてがスラスターユニットである。真実型に大きなユニットであるが、それはプロペラント、エンジンなど必要なシステムがすべて削り替えているため。

カラーリングデータ

- ① 青(真) → ガンダムカラー・ブルー
② 青(真) → ガンダムカラー・ホワイ
③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿ ㏀ ㏁ ㏂ ㏃ ㏄ ㏅ ㏆ ㏇ ㏈ ㏉ ㏊ ㏋ ㏌ ㏍ ㏎ ㏏ ㏐ ㏑ ㏒ ㏓ ㏔ ㏕ ㏖ ㏗ ㏘ ㏙ ㏚ ㏛ ㏜ ㏝ ㏞ ㏟ ㏠ ㏡ ㏢ ㏣ ㏤ ㏥ ㏦ ㏧ ㏨ ㏩ ㏪ ㏫ ㏬ ㏭ ㏮ ㏯ ㏰ ㏱ ㏲ ㏳ ㏴ ㏵ ㏶ ㏷ ㏸ ㏹ ㏺ ㏻ ㏼ ㏽ ㏾ ㏿ 㐀 㐁 㐂 㐃 㐄 㐅 㐆 㐇 㐈 㐉 㐊 㐋 㐌 㐍 㐎 㐏 㐐 㐑 㐒 㐓 㐔 㐕 㐖 㐗 㐘 㐙 㐚 㐛 㐜 㐝 㐞 㐟 㐠 㐡 㐢 㐣 㐤 㐥 㐦 㐧 㐨 㐩 㐪 㐫 㐬 㐭 㐮 㐯 㐰 㐱 㐲 㐳 㐴 㐵 㐶 㐷 㐸 㐹 㐺 㐻 㐼 㐽 㐾 㐿 㑀 㑁 㑂 㑃 㑄 㑅 㑆 㑇 㑈 㑉 㑊 㑋 㑌 㑍 㑎 㑏 㑐 㑑 㑒 㑓 㑔 㑕 㑖 㑗 㑘 㑙 㑚 㑛 㑜 㑝 㑞 㑟 㑠 㑡 㑢 㑣 㑤 㑥 㑦 㑧 㑨 㑩 㑪 㑫 㑬 㑭 㑮 㑯 㑰 㑱 㑲 㑳 㑴 㑵 㑶 㑷 㑸 㑹 㑺 㑻 㑼 㑽 㑾 㑿 㒀 㒁 㒂 㒃 㒄 㒅 㒆 㒇 㒈 㒉 㒊 㒋 㒌 㒍 㒎 㒏 㒐 㒑 㒒 㒓 㒔 㒕 㒖 㒗 㒘 㒙 㒚 㒛 㒜 㒝 㒞 㒟 㒠 㒡 㒢 㒣 㒤 㒥 㒦 㒧 㒨 㒩 㒪 㒫 㒬 㒭 㒮 㒯 㒰 㒱 㒲 㒳 㒴 㒵 㒶 㒷 㒸 㒹 㒺 㒻 㒼 㒽 㒾 㒿 㓀 㓁 㓂 㓃 㓄 㓅 㓆 㓇 㓈 㓉 㓊 㓋 㓌 㓍 㓎 㓏 㓐 㓑 㓒 㓓 㓔 㓕 㓖 㓗 㓘 㓙 㓚 㓛 㓜 㓝 㓞 㓟 㓠 㓡 㓢 㓣 㓤 㓥 㓦 㓧 㓨 㓩 㓪 㓫 㓬 㓭 㓮 㓯 㓰 㓱 㓲 㓳 㓴 㓵 㓶 㓷 㓸 㓹 㓺 㓻 㓼 㓽 㓾 㓿 㔀 㔁 㔂 㔃 㔄 㔅 㔆 㔇 㔈 㔉 㔊 㔋 㔌 㔍 㔎 㔏 㔐 㔑 㔒 㔓 㔔 㔕 㔖 㔗 㔘 㔙 㔚 㔛 㔜 㔝 㔞 㔟 㔠 㔡 㔢 㔣 㔤 㔥 㔦 㔧 㔨 㔩 㔪 㔫 㔬 㔭 㔮 㔯 㔰 㔱 㔲 㔳 㔴 㔵 㔶 㔷 㔸 㔹 㔺 㔻 㔼 㔽 㔾 㔿 㕀 㕁 㕂 㕃 㕄 㕅 㕆 㕇 㕈 㕉 㕊 㕋 㕌 㕍 㕎 㕏 㕐 㕑 㕒 㕓 㕔 㕕 㕖 㕗 㕘 㕙 㕚 㕛 㕜 㕝 㕞 㕟 㕠 㕡 㕢 㕣 㕤 㕥 㕦 㕧 㕨 㕩 㕪 㕫 㕬 㕭 㕮 㕯 㕰 㕱 㕲 㕳 㕴 㕵 㕶 㕷 㕸 㕹 㕺 㕻 㕼 㕽 㕾 㕿 㖀 㖁 㖂 㖃 㖄 㖅 㖆 㖇 㖈 㖉 㖊 㖋 㖌 㖍 㖎 㖏 㖐 㖑 㖒 㖓 㖔 㖕 㖖 㖗 㖘 㖙 㖚 㖛 㖜 㖝 㖞 㖟 㖠 㖡 㖢 㖣 㖤 㖥 㖦 㖧 㖨 㖩 㖪 㖫 㖬 㖭 㖮 㖯 㖰 㖱 㖲 㖳 㖴 㖵 㖶 㖷 㖸 㖹 㖺 㖻 㖼 㖽 㖾 㖿 㗀 㗁 㗂 㗃 㗄 㗅 㗆 㗇 㗈 㗉 㗊 㗋 㗌 㗍 㗎 㗏 㗐 㗑 㗒 㗓 㗔 㗕 㗖 㗗 㗘 㗙 㗚 㗛 㗜 㗝 㗞 㗟 㗠 㗡 㗢 㗣 㗤 㗥 㗦 㗧 㗨 㗩 㗪 㗫 㗬 㗭 㗮 㗯 㗰 㗱 㗲 㗳 㗴 㗵 㗶 㗷 㗸 㗹 㗺 㗻 㗼 㗽 㗾 㗿 㘀 㘁 㘂 㘃 㘄 㘅 㘆 㘇 㘈 㘉 㘊 㘋 㘌 㘍 㘎 㘏 㘐 㘑 㘒 㘓 㘔 㘕 㘖 㘗 㘘 㘙 㘚 㘛 㘜 㘝 㘞 㘟 㘠 㘡 㘢 㘣 㘤 㘥 㘦 㘧 㘨 㘩 㘪 㘫 㘬 㘭 㘮 㘯 㘰 㘱 㘲 㘳 㘴 㘵 㘶 㘷 㘸 㘹 㘺 㘻 㘼 㘽 㘾 㘿 㙀 㙁 㙂 㙃 㙄 㙅 㙆 㙇 㙈 㙉 㙊 㙋 㙌 㙍 㙎 㙏 㙐 㙑 㙒 㙓 㙔 㙕 㙖 㙗 㙘 㙙 㙚 㙛 㙜 㙝 㙞 㙟 㙠 㙡 㙢 㙣 㙤 㙥 㙦 㙧 㙨 㙩 㙪 㙫 㙬 㙭 㙮 㙯 㙰 㙱 㙲 㙳 㙴 㙵 㙶 㙷 㙸 㙹 㙺 㙻 㙼 㙽 㙾 㙿 㚀 㚁 㚂 㚃 㚄 㚅 㚆 㚇 㚈 㚉 㚊 㚋 㚌 㚍 㚎 㚏 㚐 㚑 㚒 㚓 㚔 㚕 㚖 㚗 㚘 㚙 㚚 㚛 㚜 㚝 㚞 㚟 㚠 㚡 㚢 㚣 㚤 㚥 㚦 㚧 㚨 㚩 㚪 㚫 㚬 㚭 㚮 㚯 㚰 㚱 㚲 㚳 㚴 㚵 㚶 㚷 㚸 㚹 㚺 㚻 㚼 㚽 㚾 㚿 㜀 㜁 㜂 㜃 㜄 㜅 㜆 㜇 㜈 㜉 㜊 㜋 㜌 㜍 㜎 㜏 㜐 㜑 㜒 㜓 㜔 㜕 㜖 㜗 㜘 㜙 㜚 㜛 㜜 㜝 㜞 㜟 㜠 㜡 㜢 㜣 㜤 㜥 㜦 㜧 㜨 㜩 㜪 㜫 㜬 㜭 㜮 㜯 㜰 㜱 㜲 㜳 㜴 㜵 㜶 㜷 㜸 㜹 㜺 㜻 㜼 㜽 㜾 㜿 㝀 㝁 㝂 㝃 㝄 㝅 㝆 㝇 㝈 㝉 㝊 㝋 㝌 㝍 㝎 㝏 㝐 㝑 㝒 㝓 㝔 㝕 㝖 㝗 㝘 㝙 㝚 㝛 㝜 㝝 㝞 㝟 㝠 㝡 㝢 㝣 㝤 㝥 㝦 㝧 㝨 㝩 㝪 㝫 㝬 㝭 㝮 㝯 㝰 㝱 㝲 㝳 㝴 㝵 㝶 㝷 㝸 㝹 㝺 㝻 㝼 㝽 㝾 㝿 㞀 㞁 㞂 㞃 㞄 㞅 㞆 㞇 㞈 㞉 㞊 㞋 㞌 㞍 㞎 㞏 㞐 㞑 㞒 㞓 㞔 㞕 㞖 㞗 㞘 㞙 㞚 㞛 㞜 㞝 㞞 㞟 㞠 㞡 㞢 㞣 㞤 㞥 㞦 㞧 㞨 㞩 㞪 㞫 㞬 㞭 㞮 㞯 㞰 㞱 㞲 㞳 㞴 㞵 㞶 㞷 㞸 㞹 㞺 㞻 㞼 㞽 㞾 㞿 㟀 㟁 㟂 㟃 㟄 㟅 㟆 㟇 㟈 㟉 㟊 㟋 㟌 㟍 㟎 㟏 㟐 㟑 㟒 㟓 㟔 㟕 㟖 㟗 㟘 㟙 㟚 㟛 㟜 㟝 㟞 㟟 㟠 㟡 㟢 㟣 㟤 㟥 㟦 㟧 㟨 㟩 㟪 㟫 㟬 㟭 㟮 㟯 㟰 㟱 㟲 㟳 㟴 㟵 㟶 㟷 㟸 㟹 㟺 㟻 㟼 㟽 㟾 㟿 㠀 㠁 㠂 㠃 㠄 㠅 㠆 㠇 㠈 㠉 㠊 㠋 㠌 㠍 㠎 㠏 㠐 㠑 㠒 㠓 㠔 㠕 㠖 㠗 㠘 㠙 㠚 㠛 㠜 㠝 㠞 㠟 㠠 㠡 㠢 㠣 㠤 㠥 㠦 㠧 㠨 㠩 㠪 㠫 㠬 㠭 㠮 㠯 㠰 㠱 㠲 㠳 㠴 㠵 㠶 㠷 㠸 㠹 㠺 㠻 㠼 㠽 㠾 㠿 㡀 㡁 㡂 㡃 㡄 㡅 㡆 㡇 㡈 㡉 㡊 㡋 㡌 㡍 㡎 㡏 㡐 㡑 㡒 㡓 㡔 㡕 㡖 㡗 㡘 㡙 㡚 㡛 㡜 㡝 㡞 㡟 㡠 㡡 㡢 㡣 㡤 㡥 㡦 㡧 㡨 㡩 㡪 㡫 㡬 㡭 㡮 㡯 㡰 㡱 㡲 㡳 㡴 㡵 㡶 㡷 㡸 㡹 㡺 㡻 㡼 㡽 㡾 㡿 㢀 㢁 㢂 㢃 㢄 㢅 㢆 㢇 㢈 㢉 㢊 㢋 㢌 㢍 㢎 㢏 㢐 㢑 㢒 㢓 㢔 㢕 㢖 㢗 㢘 㢙 㢚 㢛 㢜 㢝 㢞 㢟 㢠 㢡 㢢 㢣 㢤 㢥 㢦 㢧 㢨 㢩 㢪 㢫 㢬 㢭 㢮 㢯 㢰 㢱 㢲 㢳 㢴 㢵 㢶 㢷 㢸 㢹 㢺 㢻 㢼 㢽 㢾 㢿 㣀 㣁 㣂 㣃 㣄 㣅 㣆 㣇 㣈 㣉 㣊 㣋 㣌 㣍 㣎 㣏 㣐 㣑 㣒 㣓 㣔 㣕 㣖 㣗 㣘 㣙 㣚 㣛 㣜 㣝 㣞 㣟 㣠 㣡 㣢 㣣 㣤 㣥 㣦 㣧 㣨 㣩 㣪 㣫 㣬 㣭 㣮 㣯 㣰 㣱 㣲 㣳 㣴 㣵 㣶 㣷 㣸 㣹 㣺 㣻 㣼 㣽 㣾 㣿 㤀 㤁 㤂 㤃 㤄 㤅 㤆 㤇 㤈 㤉 㤊 㤋 㤌 㤍 㤎 㤏 㤐 㤑 㤒 㤓 㤔 㤕 㤖 㤗 㤘 㤙 㤚 㤛 㤜 㤝 㤞 㤟 㤠 㤡 㤢 㤣 㤤 㤥 㤦 㤧 㤨 㤩 㤪 㤫 㤬 㤭 㤮 㤯 㤰 㤱 㤲 㤳 㤴 㤵 㤶 㤷 㤸 㤹 㤺 㤻 㤼 㤽 㤾 㤿 㥀 㥁 㥂 㥃 㥄 㥅 㥆 㥇 㥈 㥉 㥊 㥋 㥌 㥍 㥎 㥏 㥐 㥑 㥒 㥓 㥔 㥕 㥖 㥗 㥘 㥙 㥚 㥛 㥜 㥝 㥞 㥟 㥠 㥡 㥢 㥣 㥤 㥥 㥦 㥧 㥨 㥩 㥪 㥫 㥬 㥭 㥮 㥯 㥰 㥱 㥲 㥳 㥴 㥵 㥶 㥷 㥸 㥹 㥺 㥻 㥼 㥽 㥾 㥿 㦀 㦁 㦂 㦃 㦄 㦅 㦆 㦇 㦈 㦉 㦊 㦋 㦌 㦍 㦎 㦏 㦐 㦑 㦒 㦓 㦔 㦕 㦖 㦗 㦘 㦙 㦚 㦛 㦜 㦝 㦞 㦟 㦠 㦡 㦢 㦣 㦤 㦥 㦦 㦧 㦨 㦩 㦪 㦫 㦬 㦭 㦮 㦯 㦰 㦱 㦲 㦳 㦴 㦵 㦶 㦷 㦸 㦹 㦺 㦻 㦼 㦽 㦾 㦿 㧀 㧁 㧂 㧃 㧄 㧅 㧆 㧇 㧈 㧉 㧊 㧋 㧌 㧍 㧎 㧏 㧐 㧑 㧒 㧓 㧔 㧕 㧖 㧗 㧘 㧙 㧚 㧛 㧜 㧝 㧞 㧟 㧠 㧡 㧢 㧣 㧤 㧥 㧦 㧧 㧨 㧩 㧪 㧫 㧬 㧭 㧮 㧯 㧰 㧱 㧲 㧳 㧴 㧵 㧶 㧷 㧸 㧹 㧺 㧻 㧼 㧽 㧾 㧿 㨀 㨁 㨂 㨃 㨄 㨅 㨆 㨇 㨈 㨉 㨊 㨋 㨌 㨍 㨎 㨏 㨐 㨑 㨒 㨓 㨔 㨕 㨖 㨗 㨘 㨙 㨚 㨛 㨜 㨝 㨞 㨟 㨠 㨡 㨢 㨣 㨤 㨥 㨦 㨧 㨨 㨩 㨪 㨫 㨬 㨭 㨮 㨯 㨰 㨱 㨲 㨳 㨴 㨵 㨶 㨷 㨸 㨹 㨺 㨻 㨼 㨽 㨾 㨿 㩀 㩁 㩂 㩃 㩄 㩅 㩆 㩇 㩈 㩉 㩊 㩋 㩌 㩍 㩎 㩏 㩐 㩑 㩒 㩓 㩔 㩕 㩖 㩗 㩘 㩙 㩚 㩛 㩜 㩝 㩞 㩟 㩠 㩡 㩢 㩣 㩤 㩥 㩦 㩧 㩨 㩩 㩪 㩫 㩬 㩭 㩮 㩯 㩰 㩱 㩲 㩳 㩴 㩵 㩶 㩷 㩸 㩹 㩺 㩻 㩼 㩽 㩾 㩿 㪀 㪁 㪂 㪃 㪄 㪅 㪆 㪇 㪈 㪉 㪊 㪋 㪌 㪍 㪎 㪏 㪐 㪑 㪒 㪓 㪔 㪕 㪖 㪗 㪘 㪙 㪚 㪛 㪜 㪝 㪞 㪟 㪠 㪡 㪢 㪣 㪤 㪥 㪦 㪧 㪨 㪩 㪪 㪫 㪬 㪭 㪮 㪯 㪰 㪱 㪲 㪳 㪴 㪵 㪶 㪷 㪸 㪹 㪺 㪻 㪼 㪽 㪾 㪿 㫀 㫁 㫂 㫃 㫄 㫅 㫆 㫇 㫈 㫉 㫊 㫋 㫌 㫍 㫎 㫏 㫐 㫑 㫒 㫓 㫔 㫕 㫖 㫗 㫘 㫙 㫚 㫛 㫜 㫝 㫞 㫟 㫠 㫡 㫢 㫣 㫤 㫥 㫦 㫧 㫨 㫩 㫪 㫫 㫬 㫭 㫮 㫯 㫰 㫱 㫲 㫳 㫴 㫵 㫶 㫷 㫸 㫹 㫺 㫻 㫼 㫽 㫾 㫿 㬀 㬁 㬂 㬃 㬄 㬅 㬆 㬇 㬈 㬉 㬊 㬋 㬌 㬍 㬎 㬏 㬐 㬑 㬒 㬓 㬔 㬕 㬖 㬗 㬘 㬙 㬚 㬛 㬜 㬝 㬞 㬟 㬠 㬡 㬢 㬣 㬤 㬥 㬦 㬧 㬨 㬩 㬪 㬫 㬬 㬭 㬮 㬯 㬰 㬱 㬲 㬳 㬴 㬵 㬶 㬷 㬸 㬹 㬺 㬻 㬼 㬽 㬾 㬿 㭀 㭁 㭂 㭃 㭄 㭅 㭆 㭇 㭈 㭉 㭊 㭋 㭌 㭍 㭎 㭏 㭐 㭑 㭒 㭓 㭔 㭕 㭖 㭗 㭘 㭙 㭚 㭛 㭜 㭝 㭞 㭟 㭠 㭡 㭢 㭣 㭤 㭥 㭦 㭧 㭨 㭩 㭪 㭫 㭬 㭭 㭮 㭯 㭰 㭱 㭲 㭳 㭴 㭵 㭶 㭷 㭸 㭹 㭺 㭻 㭼 㭽 㭾 㭿 㮀 㮁 㮂 㮃 㮄 㮅 㮆 㮇 㮈 㮉 㮊 㮋 㮌 㮍 㮎 㮏 㮐 㮑 㮒 㮓 㮔 㮕 㮖 㮗 㮘 㮙 㮚 㮛 㮜 㮝 㮞 㮟 㮠 㮡 㮢 㮣 㮤 㮥 㮦 㮧 㮨 㮩 㮪 㮫 㮬 㮭 㮮 㮯 㮰 㮱 㮲 㮳 㮴 㮵 㮶 㮷 㮸 㮹 㮺 㮻 㮼 㮽 㮾 㮿 㯀 㯁 㯂 㯃 㯄 㯅 㯆 㯇 㯈 㯉 㯊 㯋 㯌 㯍 㯎 㯏 㯐 㯑 㯒 㯓 㯔 㯕 㯖 㯗 㯘 㯙 㯚 㯛 㯜 㯝 㯞 㯟 㯠 㯡 㯢 㯣 㯤 㯥 㯦 㯧 㯨 㯩 㯪 㯫 㯬 㯭 㯮 㯯 㯰 㯱 㯲 㯳 㯴 㯵 㯶 㯷 㯸 㯹 㯺 㯻 㯼 㯽 㯾 㯿 㰀 㰁 㰂 㰃 㰄 㰅 㰆 㰇 㰈 㰉 㰊 㰋 㰌 㰍 㰎 㰏 㰐 㰑 㰒 㰓 㰔 㰕 㰖 㰗 㰘 㰙 㰚 㰛 㰜 㰝 㰞 㰟 㰠 㰡 㰢 㰣 㰤 㰥 㰦 㰧 㰨 㰩 㰪 㰫 㰬 㰭 㰮 㰯 㰰 㰱 㰲 㰳 㰴 㰵 㰶 㰷 㰸 㰹 㰺 㰻 㰼 㰽 㰾 㰿 㱀 㱁 㱂 㱃 㱄 㱅 㱆 㱇 㱈 㱉 㱊 㱋 㱌 㱍 㱎 㱏 㱐 㱑 㱒 㱓 㱔 㱕 㱖 㱗 㱘 㱙 㱚 㱛 㱜 㱝 㱞 㱟 㱠 㱡 㱢 㱣 㱤 㱥 㱦 㱧 㱨 㱩 㱪 㱫 㱬 㱭 㱮 㱯 㱰 㱱 㱲 㱳 㱴 㱵 㱶 㱷 㱸 㱹 㱺 㱻 㱼 㱽 㱾 㱿 㲀 㲁 㲂 㲃 㲄 㲅 㲆 㲇 㲈 㲉 㲊 㲋 㲌 㲍 㲎 㲏 㲐 㲑 㲒 㲓 㲔 㲕 㲖 㲗 㲘 㲙 㲚 㲛 㲜 㲝 㲞 㲟 㲠 㲡 㲢 㲣 㲤 㲥 㲦 㲧 㲨 㲩 㲪 㲫 㲬 㲭 㲮 㲯 㲰 㲱 㲲 㲳 㲴 㲵 㲶 㲷 㲸 㲹 㲺 㲻 㲼 㲽 㲾 㲿 㳀 㳁 㳂 㳃 㳄 㳅 㳆 㳇 㳈 㳉 㳊 㳋 㳌 㳍 㳎 㳏 㳐 㳑 㳒 㳓 㳔 㳕 㳖 㳗 㳘 㳙 㳚 㳛 㳜 㳝 㳞 㳟 㳠 㳡 㳢 㳣 㳤 㳥 㳦 㳧 㳨 㳩 㳪 㳫 㳬 㳭 㳮 㳯 㳰 㳱 㳲 㳳 㳴 㳵 㳶 㳷 㳸 㳹 㳺 㳻 㳼 㳽 㳾 㳿 㴀 㴁 㴂 㴃 㴄 㴅 㴆 㴇 㴈 㴉 㴊 㴋 㴌 㴍 㴎 㴏 㴐 㴑 㴒 㴓 㴔 㴕 㴖 㴗 㴘 㴙 㴚 㴛 㴜 㴝 㴞 㴟 㴠 㴡 㴢 㴣 㴤 㴥 㴦 㴧 㴨 㴩 㴪 㴫 㴬 㴭 㴮 㴯 㴰 㴱 㴲 㴳 㴴 㴵 㴶 㴷 㴸 㴹 㴺 㴻 㴼 㴽 㴾 㴿 㵀 㵁 㵂 㵃 㵄 㵅 㵆 㵇 㵈 㵉 㵊 㵋 㵌 㵍 㵎 㵏 㵐 㵑 㵒 㵓 㵔 㵕 㵖 㵗 㵘 㵙 㵚 㵛 㵜 㵝 㵞 㵟 㵠 㵡 㵢 㵣 㵤 㵥 㵦 㵧 㵨 㵩 㵪 㵫 㵬 㵭 㵮 㵯 㵰 㵱 㵲 㵳 㵴 㵵 㵶 㵷 㵸 㵹 㵺 㵻 㵼 㵽 㵾 㵿 㶀 㶁 㶂 㶃 㶄 㶅 㶆 㶇 㶈 㶉 㶊 㶋 㶌 㶍 㶎 㶏 㶐 㶑 㶒 㶓 㶔 㶕 㶖 㶗 㶘 㶙 㶚 㶛 㶜 㶝 㶞 㶟 㶠 㶡 㶢 㶣 㶤 㶥 㶦 㶧 㶨 㶩 㶪 㶫 㶬 㶭 㶮 㶯 㶰 㶱 㶲 㶳 㶴 㶵 㶶 㶷 㶸 㶹 㶺 㶻 㶼 㶽 㶾 㶿 㷀 㷁 㷂 㷃 㷄 㷅 㷆 㷇 㷈 㷉 㷊 㷋 㷌 㷍 㷎 㷏 㷐 㷑 㷒 㷓 㷔 㷕 㷖 㷗 㷘 㷙 㷚 㷛 㷜 㷝 㷞 㷟 㷠 㷡 㷢 㷣 㷤 㷥 㷦 㷧 㷨 㷩 㷪 㷫 㷬 㷭 㷮 㷯 㷰 㷱 㷲 㷳 㷴 㷵 㷶 㷷 㷸 㷹 㷺 㷻 㷼 㷽 㷾 㷿 㸀 㸁 㸂 㸃 㸄 㸅 㸆 㸇 㸈 㸉 㸊 㸋 㸌 㸍 㸎 㸏 㸐 㸑 㸒 㸓 㸔 㸕 㸖 㸗 㸘 㸙 㸚 㸛 㸜 㸝 㸞 㸟 㸠 㸡 㸢 㸣 㸤 㸥 㸦 㸧 㸨 㸩 㸪 㸫 㸬 㸭 㸮 㸯 㸰 㸱 㸲 㸳 㸴 㸵 㸶 㸷 㸸 㸹 㸺 㸻 㸼 㸽 㸾 㸿 㹀 㹁 㹂 㹃 㹄 㹅 㹆 㹇 㹈 㹉 㹊 㹋 㹌 㹍 㹎 㹏 㹐 㹑 㹒 㹓 㹔 㹕 㹖 㹗 㹘



2003年5月号付録
「アドバンス オブZ」
特選CGカレンダー
誌面掲載のイラストと本
誌で採用されたCG特種
か兵衛のスクールカレン
ダー(2003年4月〜
2004年3月)



電撃ホビーマガジン A.O.Z 関連付録コレクション

68ページで紹介している2003年1月号付録「ガンダムTR-1(ハイズル)ヘッドパーツ」以外にも、電撃ホビーマガジンには様々なA.O.Z 付録がついてきた。ここでは2003年5月までに付録となったものを紹介する。

…これらの付録が付いている電撃ホビーマガジンは現在入手困難になっている。



2002年12月号付録 1/144&1/100スケールプラモデル用
アドバンス・オブZ マーキングシール

手帳5のプラモデルに貼るだけで3所掲載のようになるシール。ハイズルヘッドハーン
用のカメラアイシールもついている。



A.O.Z 関連商品 機動戦士ガンダムトレーディングカードゲーム「ガンダムウォー」

2002年11月に発売されたベースブースター&ベーススターター2で「ガンダムTR-1(ハイズル)」「ジム改(機動型)」「エアリアル・ハンター」が、2003年2月に発売された第10弾 初の単巻には「ハイザック(先行生産型)」「シム・スタイナー」「ウェス・マーフォー」「オーブリー・エイプリル」がカード化された。



2003年3月号付録

「ガンダムウォー」
プロモーションカード
ガンダムTR-1
(フルアーマータイプ)

コレクションするだけではなく、ルールと対戦、ひとつのデッキに3枚(それを超えることができれば)まで入れて遊べる。

1/144スケールで
A.O.Z版MSを作る。

YF-100 HI-ZACK

BANDAI 1/144 scale plastic kit
HIGH GRADE UNIVERSAL CENTURY
RMS-106 HI-ZACK

Released by Hiroshi Sato (HVF) (NAME)

EPISODE2.1ではジオン残党の知るF2型ザクⅠと激闘を繰り広げた
マーフィー小隊佐長の先行量産型ハイザック。

86~81ページではMGザクⅠF2の改造例を紹介したが、
今月号ではHGUCハイザックをベースにした作例をご紹介いたどころ。

製作は佐藤弘が担当。HGUCハイザックをわずかな改造だけで
A.O.Z版に近づけるためのポイントも解説しているので参考にしてほしい。



基本的には金に塗りつぶし、ティターンズと新式採用されたものと同じ構造だが、ノズル周辺に黒い線が存在している。



胴体

シモン機はザクが黒色ベースとなったことで、生産コストが大幅に削減され、量産機としては低コストなミニチュア的な特徴や、リアルな質感を再現するなどの画期的な試みがなされている。



頭部

黒くなくザクの顔面を再現するユニット。内蔵されているセンサーはアクティブ・エレクトロニクスが搭載されたもので、大抵は敵の顔のよりも高性能化している。



腕部

腕部前面はプロペラント・エンジンなどが詰め込まれた巨大なスラスターユニットで覆われている。新式採用された機体とは異なり、大規模な動力バンプは搭載されていない。バンプバックと同様、機動性を確保している。あくまでも機動性重視のシステムというところから推して、量産可能な機体としての模範がなされている。



脚部

ザクと同様、左腕には対M4格闘戦用のスパイクアーマーが装備されている。また、スパイクのものを機動可能なオプションとし、多目的ラッチと使用する事も検討されている。



ウェス・マーフィー自身のバージョンマークとしてシールドに描かれている。ヘイズルとは異なるデザインなので、今も量産型がザクインのものか否かは不明だが、今のところ機が描かれているのは不明だが、手先の機動性カールあたりが面白いところか。



RMS-109に新式採用が検討されている。新機されているEバックはR-X-12にも使用している。3番機は共通のもの。下は型番ではなくRMS-109のみならず、機動性に優る軍用データの収録・検討もされており、後にその改良型がRMS-109など多くの機体によって使用されている。

① 中央海中写真。HG UOの「ハイザック」と「シャア専用ザク」がベースになっていることがわかる。もちろんハイザックのめでも再現することは可能。② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿ ㏀ ㏁ ㏂ ㏃ ㏄ ㏅ ㏆ ㏇ ㏈ ㏉ ㏊ ㏋ ㏌ ㏍ ㏎ ㏏ ㏐ ㏑ ㏒ ㏓ ㏔ ㏕ ㏖ ㏗ ㏘ ㏙ ㏚ ㏛ ㏜ ㏝ ㏞ ㏟ ㏠ ㏡ ㏢ ㏣ ㏤ ㏥ ㏦ ㏧ ㏨ ㏩ ㏪ ㏫ ㏬ ㏭ ㏮ ㏯ ㏰ ㏱ ㏲ ㏳ ㏴ ㏵ ㏶ ㏷ ㏸ ㏹ ㏺ ㏻ ㏼ ㏽ ㏾ ㏿ 㐀 㐁 㐂 㐃 㐄 㐅 㐆 㐇 㐈 㐉 㐊 㐋 㐌 㐍 㐎 㐏 㐐 㐑 㐒 㐓 㐔 㐕 㐖 㐗 㐘 㐙 㐚 㐛 㐜 㐝 㐞 㐟 㐠 㐡 㐢 㐣 㐤 㐥 㐦 㐧 㐨 㐩 㐪 㐫 㐬 㐭 㐮 㐯 㐰 㐱 㐲 㐳 㐴 㐵 㐶 㐷 㐸 㐹 㐺 㐻 㐼 㐽 㐾 㐿 㑀 㑁 㑂 㑃 㑄 㑅 㑆 㑇 㑈 㑉 㑊 㑋 㑌 㑍 㑎 㑏 㑐 㑑 㑒 㑓 㑔 㑕 㑖 㑗 㑘 㑙 㑚 㑛 㑜 㑝 㑞 㑟 㑠 㑡 㑢 㑣 㑤 㑥 㑦 㑧 㑨 㑩 㑪 㑫 㑬 㑭 㑮 㑯 㑰 㑱 㑲 㑳 㑴 㑵 㑶 㑷 㑸 㑹 㑺 㑻 㑼 㑽 㑾 㑿 㒀 㒁 㒂 㒃 㒄 㒅 㒆 㒇 㒈 㒉 㒊 㒋 㒌 㒍 㒎 㒏 㒐 㒑 㒒 㒓 㒔 㒕 㒖 㒗 㒘 㒙 㒚 㒛 㒜 㒝 㒞 㒟 㒠 㒡 㒢 㒣 㒤 㒥 㒦 㒧 㒨 㒩 㒪 㒫 㒬 㒭 㒮 㒯 㒰 㒱 㒲 㒳 㒴 㒵 㒶 㒷 㒸 㒹 㒺 㒻 㒼 㒽 㒾 㒿 㓀 㓁 㓂 㓃 㓄 㓅 㓆 㓇 㓈 㓉 㓊 㓋 㓌 㓍 㓎 㓏 㓐 㓑 㓒 㓓 㓔 㓕 㓖 㓗 㓘 㓙 㓚 㓛 㓜 㓝 㓞 㓟 㓠 㓡 㓢 㓣 㓤 㓥 㓦 㓧 㓨 㓩 㓪 㓫 㓬 㓭 㓮 㓯 㓰 㓱 㓲 㓳 㓴 㓵 㓶 㓷 㓸 㓹 㓺 㓻 㓼 㓽 㓾 㓿 㔀 㔁 㔂 㔃 㔄 㔅 㔆 㔇 㔈 㔉 㔊 㔋 㔌 㔍 㔎 㔏 㔐 㔑 㔒 㔓 㔔 㔕 㔖 㔗 㔘 㔙 㔚 㔛 㔜 㔝 㔞 㔟 㔠 㔡 㔢 㔣 㔤 㔥 㔦 㔧 㔨 㔩 㔪 㔫 㔬 㔭 㔮 㔯 㔰 㔱 㔲 㔳 㔴 㔵 㔶 㔷 㔸 㔹 㔺 㔻 㔼 㔽 㔾 㔿 㕀 㕁 㕂 㕃 㕄 㕅 㕆 㕇 㕈 㕉 㕊 㕋 㕌 㕍 㕎 㕏 㕐 㕑 㕒 㕓 㕔 㕕 㕖 㕗 㕘 㕙 㕚 㕛 㕜 㕝 㕞 㕟 㕠 㕡 㕢 㕣 㕤 㕥 㕦 㕧 㕨 㕩 㕪 㕫 㕬 㕭 㕮 㕯 㕰 㕱 㕲 㕳 㕴 㕵 㕶 㕷 㕸 㕹 㕺 㕻 㕼 㕽 㕾 㕿 㖀 㖁 㖂 㖃 㖄 㖅 㖆 㖇 㖈 㖉 㖊 㖋 㖌 㖍 㖎 㖏 㖐 㖑 㖒 㖓 㖔 㖕 㖖 㖗 㖘 㖙 㖚 㖛 㖜 㖝 㖞 㖟 㖠 㖡 㖢 㖣 㖤 㖥 㖦 㖧 㖨 㖩 㖪 㖫 㖬 㖭 㖮 㖯 㖰 㖱 㖲 㖳 㖴 㖵 㖶 㖷 㖸 㖹 㖺 㖻 㖼 㖽 㖾 㖿 㗀 㗁 㗂 㗃 㗄 㗅 㗆 㗇 㗈 㗉 㗊 㗋 㗌 㗍 㗎 㗏 㗐 㗑 㗒 㗓 㗔 㗕 㗖 㗗 㗘 㗙 㗚 㗛 㗜 㗝 㗞 㗟 㗠 㗡 㗢 㗣 㗤 㗥 㗦 㗧 㗨 㗩 㗪 㗫 㗬 㗭 㗮 㗯 㗰 㗱 㗲 㗳 㗴 㗵 㗶 㗷 㗸 㗹 㗺 㗻 㗼 㗽 㗾 㗿 㘀 㘁 㘂 㘃 㘄 㘅 㘆 㘇 㘈 㘉 㘊 㘋 㘌 㘍 㘎 㘏 㘐 㘑 㘒 㘓 㘔 㘕 㘖 㘗 㘘 㘙 㘚 㘛 㘜 㘝 㘞 㘟 㘠 㘡 㘢 㘣 㘤 㘥 㘦 㘧 㘨 㘩 㘪 㘫 㘬 㘭 㘮 㘯 㘰 㘱 㘲 㘳 㘴 㘵 㘶 㘷 㘸 㘹 㘺 㘻 㘼 㘽 㘾 㘿 㙀 㙁 㙂 㙃 㙄 㙅 㙆 㙇 㙈 㙉 㙊 㙋 㙌 㙍 㙎 㙏 㙐 㙑 㙒 㙓 㙔 㙕 㙖 㙗 㙘 㙙 㙚 㙛 㙜 㙝 㙞 㙟 㙠 㙡 㙢 㙣 㙤 㙥 㙦 㙧 㙨 㙩 㙪 㙫 㙬 㙭 㙮 㙯 㙰 㙱 㙲 㙳 㙴 㙵 㙶 㙷 㙸 㙹 㙺 㙻 㙼 㙽 㙾 㙿 㚀 㚁 㚂 㚃 㚄 㚅 㚆 㚇 㚈 㚉 㚊 㚋 㚌 㚍 㚎 㚏 㚐 㚑 㚒 㚓 㚔 㚕 㚖 㚗 㚘 㚙 㚚 㚛 㚜 㚝 㚞 㚟 㚠 㚡 㚢 㚣 㚤 㚥 㚦 㚧 㚨 㚩 㚪 㚫 㚬 㚭 㚮 㚯 㚰 㚱 㚲 㚳 㚴 㚵 㚶 㚷 㚸 㚹 㚺 㚻 㚼 㚽 㚾 㚿 㜀 㜁 㜂 㜃 㜄 㜅 㜆 㜇 㜈 㜉 㜊 㜋 㜌 㜍 㜎 㜏 㜐 㜑 㜒 㜓 㜔 㜕 㜖 㜗 㜘 㜙 㜚 㜛 㜜 㜝 㜞 㜟 㜠 㜡 㜢 㜣 㜤 㜥 㜦 㜧 㜨 㜩 㜪 㜫 㜬 㜭 㜮 㜯 㜰 㜱 㜲 㜳 㜴 㜵 㜶 㜷 㜸 㜹 㜺 㜻 㜼 㜽 㜾 㜿 㝀 㝁 㝂 㝃 㝄 㝅 㝆 㝇 㝈 㝉 㝊 㝋 㝌 㝍 㝎 㝏 㝐 㝑 㝒 㝓 㝔 㝕 㝖 㝗 㝘 㝙 㝚 㝛 㝜 㝝 㝞 㝟 㝠 㝡 㝢 㝣 㝤 㝥 㝦 㝧 㝨 㝩 㝪 㝫 㝬 㝭 㝮 㝯 㝰 㝱 㝲 㝳 㝴 㝵 㝶 㝷 㝸 㝹 㝺 㝻 㝼 㝽 㝾 㝿 㞀 㞁 㞂 㞃 㞄 㞅 㞆 㞇 㞈 㞉 㞊 㞋 㞌 㞍 㞎 㞏 㞐 㞑 㞒 㞓 㞔 㞕 㞖 㞗 㞘 㞙 㞚 㞛 㞜 㞝 㞞 㞟 㞠 㞡 㞢 㞣 㞤 㞥 㞦 㞧 㞨 㞩 㞪 㞫 㞬 㞭 㞮 㞯 㞰 㞱 㞲 㞳 㞴 㞵 㞶 㞷 㞸 㞹 㞺 㞻 㞼 㞽 㞾 㞿 㟀 㟁 㟂 㟃 㟄 㟅 㟆 㟇 㟈 㟉 㟊 㟋 㟌 㟍 㟎 㟏 㟐 㟑 㟒 㟓 㟔 㟕 㟖 㟗 㟘 㟙 㟚 㟛 㟜 㟝 㟞 㟟 㟠 㟡 㟢 㟣 㟤 㟥 㟦 㟧 㟨 㟩 㟪 㟫 㟬 㟭 㟮 㟯 㟰 㟱 㟲 㟳 㟴 㟵 㟶 㟷 㟸 㟹 㟺 㟻 㟼 㟽 㟾 㟿 㠀 㠁 㠂 㠃 㠄 㠅 㠆 㠇 㠈 㠉 㠊 㠋 㠌 㠍 㠎 㠏 㠐 㠑 㠒 㠓 㠔 㠕 㠖 㠗 㠘 㠙 㠚 㠛 㠜 㠝 㠞 㠟 㠠 㠡 㠢 㠣 㠤 㠥 㠦 㠧 㠨 㠩 㠪 㠫 㠬 㠭 㠮 㠯 㠰 㠱 㠲 㠳 㠴 㠵 㠶 㠷 㠸 㠹 㠺 㠻 㠼 㠽 㠾 㠿 㡀 㡁 㡂 㡃 㡄 㡅 㡆 㡇 㡈 㡉 㡊 㡋 㡌 㡍 㡎 㡏 㡐 㡑 㡒 㡓 㡔 㡕 㡖 㡗 㡘 㡙 㡚 㡛 㡜 㡝 㡞 㡟 㡠 㡡 㡢 㡣 㡤 㡥 㡦 㡧 㡨 㡩 㡪 㡫 㡬 㡭 㡮 㡯 㡰 㡱 㡲 㡳 㡴 㡵 㡶 㡷 㡸 㡹 㡺 㡻 㡼 㡽 㡾 㡿 㢀 㢁 㢂 㢃 㢄 㢅 㢆 㢇 㢈 㢉 㢊 㢋 㢌 㢍 㢎 㢏 㢐 㢑 㢒 㢓 㢔 㢕 㢖 㢗 㢘 㢙 㢚 㢛 㢜 㢝 㢞 㢟 㢠 㢡 㢢 㢣 㢤 㢥 㢦 㢧 㢨 㢩 㢪 㢫 㢬 㢭 㢮 㢯 㢰 㢱 㢲 㢳 㢴 㢵 㢶 㢷 㢸 㢹 㢺 㢻 㢼 㢽 㢾 㢿 㣀 㣁 㣂 㣃 㣄 㣅 㣆 㣇 㣈 㣉 㣊 㣋 㣌 㣍 㣎 㣏 㣐 㣑 㣒 㣓 㣔 㣕 㣖 㣗 㣘 㣙 㣚 㣛 㣜 㣝 㣞 㣟 㣠 㣡 㣢 㣣 㣤 㣥 㣦 㣧 㣨 㣩 㣪 㣫 㣬 㣭 㣮 㣯 㣰 㣱 㣲 㣳 㣴 㣵 㣶 㣷 㣸 㣹 㣺 㣻 㣼 㣽 㣾 㣿 㤀 㤁 㤂 㤃 㤄 㤅 㤆 㤇 㤈 㤉 㤊 㤋 㤌 㤍 㤎 㤏 㤐 㤑 㤒 㤓 㤔 㤕 㤖 㤗 㤘 㤙 㤚 㤛 㤜 㤝 㤞 㤟 㤠 㤡 㤢 㤣 㤤 㤥 㤦 㤧 㤨 㤩 㤪 㤫 㤬 㤭 㤮 㤯 㤰 㤱 㤲 㤳 㤴 㤵 㤶 㤷 㤸 㤹 㤺 㤻 㤼 㤽 㤾 㤿 㥀 㥁 㥂 㥃 㥄 㥅 㥆 㥇 㥈 㥉 㥊 㥋 㥌 㥍 㥎 㥏 㥐 㥑 㥒 㥓 㥔 㥕 㥖 㥗 㥘 㥙 㥚 㥛 㥜 㥝 㥞 㥟 㥠 㥡 㥢 㥣 㥤 㥥 㥦 㥧 㥨 㥩 㥪 㥫 㥬 㥭 㥮 㥯 㥰 㥱 㥲 㥳 㥴 㥵 㥶 㥷 㥸 㥹 㥺 㥻 㥼 㥽 㥾 㥿 㦀 㦁 㦂 㦃 㦄 㦅 㦆 㦇 㦈 㦉 㦊 㦋 㦌 㦍 㦎 㦏 㦐 㦑 㦒 㦓 㦔 㦕 㦖 㦗 㦘 㦙 㦚 㦛 㦜 㦝 㦞 㦟 㦠 㦡 㦢 㦣 㦤 㦥 㦦 㦧 㦨 㦩 㦪 㦫 㦬 㦭 㦮 㦯 㦰 㦱 㦲 㦳 㦴 㦵 㦶 㦷 㦸 㦹 㦺 㦻 㦼 㦽 㦾 㦿 㧀 㧁 㧂 㧃 㧄 㧅 㧆 㧇 㧈 㧉 㧊 㧋 㧌 㧍 㧎 㧏 㧐 㧑 㧒 㧓 㧔 㧕 㧖 㧗 㧘 㧙 㧚 㧛 㧜 㧝 㧞 㧟 㧠 㧡 㧢 㧣 㧤 㧥 㧦 㧧 㧨 㧩 㧪 㧫 㧬 㧭 㧮 㧯 㧰 㧱 㧲 㧳 㧴 㧵 㧶 㧷 㧸 㧹 㧺 㧻 㧼 㧽 㧾 㧿 㨀 㨁 㨂 㨃 㨄 㨅 㨆 㨇 㨈 㨉 㨊 㨋 㨌 㨍 㨎 㨏 㨐 㨑 㨒 㨓 㨔 㨕 㨖 㨗 㨘 㨙 㨚 㨛 㨜 㨝 㨞 㨟 㨠 㨡 㨢 㨣 㨤 㨥 㨦 㨧 㨨 㨩 㨪 㨫 㨬 㨭 㨮 㨯 㨰 㨱 㨲 㨳 㨴 㨵 㨶 㨷 㨸 㨹 㨺 㨻 㨼 㨽 㨾 㨿 㩀 㩁 㩂 㩃 㩄 㩅 㩆 㩇 㩈 㩉 㩊 㩋 㩌 㩍 㩎 㩏 㩐 㩑 㩒 㩓 㩔 㩕 㩖 㩗 㩘 㩙 㩚 㩛 㩜 㩝 㩞 㩟 㩠 㩡 㩢 㩣 㩤 㩥 㩦 㩧 㩨 㩩 㩪 㩫 㩬 㩭 㩮 㩯 㩰 㩱 㩲 㩳 㩴 㩵 㩶 㩷 㩸 㩹 㩺 㩻 㩼 㩽 㩾 㩿 㪀 㪁 㪂 㪃 㪄 㪅 㪆 㪇 㪈 㪉 㪊 㪋 㪌 㪍 㪎 㪏 㪐 㪑 㪒 㪓 㪔 㪕 㪖 㪗 㪘 㪙 㪚 㪛 㪜 㪝 㪞 㪟 㪠 㪡 㪢 㪣 㪤 㪥 㪦 㪧 㪨 㪩 㪪 㪫 㪬 㪭 㪮 㪯 㪰 㪱 㪲 㪳 㪴 㪵 㪶 㪷 㪸 㪹 㪺 㪻 㪼 㪽 㪾 㪿 㫀 㫁 㫂 㫃 㫄 㫅 㫆 㫇 㫈 㫉 㫊 㫋 㫌 㫍 㫎 㫏 㫐 㫑 㫒 㫓 㫔 㫕 㫖 㫗 㫘 㫙 㫚 㫛 㫜 㫝 㫞 㫟 㫠 㫡 㫢 㫣 㫤 㫥 㫦 㫧 㫨 㫩 㫪 㫫 㫬 㫭 㫮 㫯 㫰 㫱 㫲 㫳 㫴 㫵 㫶 㫷 㫸 㫹 㫺 㫻 㫼 㫽 㫾 㫿 㬀 㬁 㬂 㬃 㬄 㬅 㬆 㬇 㬈 㬉 㬊 㬋 㬌 㬍 㬎 㬏 㬐 㬑 㬒 㬓 㬔 㬕 㬖 㬗 㬘 㬙 㬚 㬛 㬜 㬝 㬞 㬟 㬠 㬡 㬢 㬣 㬤 㬥 㬦 㬧 㬨 㬩 㬪 㬫 㬬 㬭 㬮 㬯 㬰 㬱 㬲 㬳 㬴 㬵 㬶 㬷 㬸 㬹 㬺 㬻 㬼 㬽 㬾 㬿 㭀 㭁 㭂 㭃 㭄 㭅 㭆 㭇 㭈 㭉 㭊 㭋 㭌 㭍 㭎 㭏 㭐 㭑 㭒 㭓 㭔 㭕 㭖 㭗 㭘 㭙 㭚 㭛 㭜 㭝 㭞 㭟 㭠 㭡 㭢 㭣 㭤 㭥 㭦 㭧 㭨 㭩 㭪 㭫 㭬 㭭 㭮 㭯 㭰 㭱 㭲 㭳 㭴 㭵 㭶 㭷 㭸 㭹 㭺 㭻 㭼 㭽 㭾 㭿 㮀 㮁 㮂 㮃 㮄 㮅 㮆 㮇 㮈 㮉 㮊 㮋 㮌 㮍 㮎 㮏 㮐 㮑 㮒 㮓 㮔 㮕 㮖 㮗 㮘 㮙 㮚 㮛 㮜 㮝 㮞 㮟 㮠 㮡 㮢 㮣 㮤 㮥 㮦 㮧 㮨 㮩 㮪 㮫 㮬 㮭 㮮 㮯 㮰 㮱 㮲 㮳 㮴 㮵 㮶 㮷 㮸 㮹 㮺 㮻 㮼 㮽 㮾 㮿 㯀 㯁 㯂 㯃 㯄 㯅 㯆 㯇 㯈 㯉 㯊 㯋 㯌 㯍 㯎 㯏 㯐 㯑 㯒 㯓 㯔 㯕 㯖 㯗 㯘 㯙 㯚 㯛 㯜 㯝 㯞 㯟 㯠 㯡 㯢 㯣 㯤 㯥 㯦 㯧 㯨 㯩 㯪 㯫 㯬 㯭 㯮 㯯 㯰 㯱 㯲 㯳 㯴 㯵 㯶 㯷 㯸 㯹 㯺 㯻 㯼 㯽 㯾 㯿 㰀 㰁 㰂 㰃 㰄 㰅 㰆 㰇 㰈 㰉 㰊 㰋 㰌 㰍 㰎 㰏 㰐 㰑 㰒 㰓 㰔 㰕 㰖 㰗 㰘 㰙 㰚 㰛 㰜 㰝 㰞 㰟 㰠 㰡 㰢 㰣 㰤 㰥 㰦 㰧 㰨 㰩 㰪 㰫 㰬 㰭 㰮 㰯 㰰 㰱 㰲 㰳 㰴 㰵 㰶 㰷 㰸 㰹 㰺 㰻 㰼 㰽 㰾 㰿 㱀 㱁 㱂 㱃 㱄 㱅 㱆 㱇 㱈 㱉 㱊 㱋 㱌 㱍 㱎 㱏 㱐 㱑 㱒 㱓 㱔 㱕 㱖 㱗 㱘 㱙 㱚 㱛 㱜 㱝 㱞 㱟 㱠 㱡 㱢 㱣 㱤 㱥 㱦 㱧 㱨 㱩 㱪 㱫 㱬 㱭 㱮 㱯 㱰 㱱 㱲 㱳 㱴 㱵 㱶 㱷 㱸 㱹 㱺 㱻 㱼 㱽 㱾 㱿 㲀 㲁 㲂 㲃 㲄 㲅 㲆 㲇 㲈 㲉 㲊 㲋 㲌 㲍 㲎 㲏 㲐 㲑 㲒 㲓 㲔 㲕 㲖 㲗 㲘 㲙 㲚 㲛 㲜 㲝 㲞 㲟 㲠 㲡 㲢 㲣 㲤 㲥 㲦 㲧 㲨 㲩 㲪 㲫 㲬 㲭 㲮 㲯 㲰 㲱 㲲 㲳 㲴 㲵 㲶 㲷 㲸 㲹 㲺 㲻 㲼 㲽 㲾 㲿 㳀 㳁 㳂 㳃 㳄 㳅 㳆 㳇 㳈 㳉 㳊 㳋 㳌 㳍 㳎 㳏 㳐 㳑 㳒 㳓 㳔 㳕 㳖 㳗 㳘 㳙 㳚 㳛 㳜 㳝 㳞 㳟 㳠 㳡 㳢 㳣 㳤 㳥 㳦 㳧 㳨 㳩 㳪 㳫 㳬 㳭 㳮 㳯 㳰 㳱 㳲 㳳 㳴 㳵 㳶 㳷 㳸 㳹 㳺 㳻 㳼 㳽 㳾 㳿 㴀 㴁 㴂 㴃 㴄 㴅 㴆 㴇 㴈 㴉 㴊 㴋 㴌 㴍 㴎 㴏 㴐 㴑 㴒 㴓 㴔 㴕 㴖 㴗 㴘 㴙 㴚 㴛 㴜 㴝 㴞 㴟 㴠 㴡 㴢 㴣 㴤 㴥 㴦 㴧 㴨 㴩 㴪 㴫 㴬 㴭 㴮 㴯 㴰 㴱 㴲 㴳 㴴 㴵 㴶 㴷 㴸 㴹 㴺 㴻 㴼 㴽 㴾 㴿 㵀 㵁 㵂 㵃 㵄 㵅 㵆 㵇 㵈 㵉 㵊 㵋 㵌 㵍 㵎 㵏 㵐 㵑 㵒 㵓 㵔 㵕 㵖 㵗 㵘 㵙 㵚 㵛 㵜 㵝 㵞 㵟 㵠 㵡 㵢 㵣 㵤 㵥 㵦 㵧 㵨 㵩 㵪 㵫 㵬 㵭 㵮 㵯 㵰 㵱 㵲 㵳 㵴 㵵 㵶 㵷 㵸 㵹 㵺 㵻 㵼 㵽 㵾 㵿 㶀 㶁 㶂 㶃 㶄 㶅 㶆 㶇 㶈 㶉 㶊 㶋 㶌 㶍 㶎 㶏 㶐 㶑 㶒 㶓 㶔 㶕 㶖 㶗 㶘 㶙 㶚 㶛 㶜 㶝 㶞 㶟 㶠 㶡 㶢 㶣 㶤 㶥 㶦 㶧 㶨 㶩 㶪 㶫 㶬 㶭 㶮 㶯 㶰 㶱 㶲 㶳 㶴 㶵 㶶 㶷 㶸 㶹 㶺 㶻 㶼 㶽 㶾 㶿 㷀 㷁 㷂 㷃 㷄 㷅 㷆 㷇 㷈 㷉 㷊 㷋 㷌 㷍 㷎 㷏 㷐 㷑 㷒 㷓 㷔 㷕 㷖 㷗 㷘 㷙 㷚 㷛 㷜 㷝 㷞 㷟 㷠 㷡 㷢 㷣 㷤 㷥 㷦 㷧 㷨 㷩 㷪 㷫 㷬 㷭 㷮 㷯 㷰 㷱 㷲 㷳 㷴 㷵 㷶 㷷 㷸 㷹 㷺 㷻 㷼 㷽 㷾 㷿 㸀 㸁 㸂 㸃 㸄 㸅 㸆 㸇 㸈 㸉 㸊 㸋 㸌 㸍 㸎 㸏 㸐 㸑 㸒 㸓 㸔 㸕 㸖 㸗 㸘 㸙 㸚 㸛 㸜 㸝 㸞 㸟 㸠 㸡 㸢 㸣 㸤 㸥 㸦 㸧 㸨 㸩 㸪 㸫 㸬 㸭 㸮 㸯 㸰 㸱 㸲 㸳 㸴 㸵 㸶 㸷 㸸 㸹 㸺 㸻 㸼 㸽 㸾 㸿 㹀 㹁 㹂 㹃 㹄 㹅 㹆 㹇 㹈 㹉 㹊 㹋 㹌 㹍 㹎 㹏 㹐 㹑 㹒 㹓 㹔 㹕 㹖 㹗 㹘 㹙 㹚 㹛 㹜 㹝 㹞 㹟 㹠 㹡 㹢 㹣 㹤 㹥 㹦 㹧 㹨 㹩 㹪 㹫 㹬 㹭 㹮 㹯 㹰 㹱 㹲 㹳 㹴 㹵 㹶 㹷 㹸 㹹 㹺 㹻 㹼 㹽 㹾 㹿

YRMS-106 先行量産型ハイザック

バンダイ1/144スケールプラスチックキット
「ハイグレードユニバーサルセンチュリー」
RMS-106 ハイザック強盗

製作・又 佐藤弘(オールドタード)

今回のお題は「HGUCでもマフーニークを作ってみよう」です。彼の作例はMGが基本だったので、1/144サイズでもチャレンジするのが今回の目的。ハイザックをチョイスして説明していこうと思います。

■説明

「HGUCシャアザク」の頭部パーツを分割部で、5ミリほど削り、少しづつ削り気味にしたあと、ヒザの部分に5ミリのプラ板を貼って、さらにモアイ部を抜く。あとは後部脚のパイプ後脚部をカマコ型にしたり、グロウキハシ(?)脚のモールドをエボパデで加工します(完成品のイメージは一つ目口口がだらんでいる感じ)。

■頭部

大きなところはフロントアーマーとサイドアーマーの構造ですが、削って差し込めばインテイクの黄色いパーツを後付けするモールドに彫り直すだけでもハッチリOKです。作例では、セク・アインのように肩のジョイントが外に出たム・バブル、フレーム風に直して、ダボの位置を上にしてあります。コクピットハッチもエボパデで形状をH型に。あとはセンサーも少し加工を要しました。腕のラッチはそのままなので、キョットのヒート・ホークが付けられます。

■腕部

手首を「ハイディールマニキュレーター」にして関節部のポリカをラバーで削る。上腕部は「HGUCシャアザク」のもの。ヒン関節カバーを少し削れば入れられます(スパイクアーマーもシャアザクのもの)。エボパデでポリウムアップ。パイプは市販のものにコトブキヤの丸ノズルを付けてディテールアップ。

■胴部

削って差し込むだけならスネ削削の赤い編み帯を削り除くだけでそれらしくなっちゃいます。作例でいじったところは足首にある関節フレームのポリウムアップ。スネはキョットを2個削削してスラスタユニットを外した状態も再現できるようにしました。スネは後脚部がちょっとなじみちゃったので、フレームにエボパデを貼ってあります。

■バックパックほか

腕部を削ってその穴を埋めただけ。ヒート・ホークはセ・タリシス製の汎用セットのものにセ・タリシスの大剣型ヒート・キャノンからマズル部を追加。取手は2ミリほど延長しました。Eバックは削削したものを取りキョットして左腕のラッチ用としました。ヒート・ホークはキョットのまんま。

塗装は若田さんのヘイズルといっしょです(フレームはトム・ローベンカラーのブラウン3に白少々です)。では、次の「ハイザック下巻」まで…

■PROFILE

ささう・ひるし・近江の赤い髪はMGBOXに用意されている顔の模写をイラストです。自分の作ったキョットやラバーで、とてもいい感じに出来ておりました。「あー、ライターのやてててててて」って感じで毎日楽しめ、ユタボさん、キョットさんさすいもありがとうございます。[リット・トム]

カラーリングデータ



1 青(海)「ガンダムカラー・ブルー(2)」+「ガンダムカラー・ホワイト(1)」

2 赤(海)「ガンダムカラー・グレイ(1)」+「ガンダムカラー・ブルー(2)」+「ガンダムカラー・ホワイト(1)」

3 青(海)「R.L.M.S.グレイ・バリエーション4」+「シャア・ジャンク」

4 赤(海)「タンバインカラー・オーラレッド(1)」+「ガンダムカラー・ホワイト(1)」

5 赤(海)「機体色」+「ガンダムカラー・ホワイト(1)」

6 赤(海)「機体色」+「ガンダムカラー・ホワイト(1)」

7 赤(海)「機体色」+「ガンダムカラー・ホワイト(1)」

8 赤(海)「機体色」+「ガンダムカラー・ホワイト(1)」

9 赤(海)「機体色」+「ガンダムカラー・ホワイト(1)」

10 赤(海)「機体色」+「ガンダムカラー・ホワイト(1)」



9 スパイクアーマーはより丸みを出すため「シャア専用ザク」のものを形状変更。スパイクは削削したものを取りキョットしてある。

7 胴から上は削削パイプのモールドを削削するも削削だったので「シャア専用ザク」のものを加工して使用した。

5 胴部は基本的にハイザックのものを使用。スラスタユニットを削削する。スネのパーツはキョットと修正して左右の形状を変更している。

3 ヒート・ホークはセ・タリシス製の汎用セットからマズル部を追加したもの。





マーフィー小隊のトライアル2号機を 1/144スケールで作る。



HY-ZACK TP-2 (BROWNS)

© 1995 GUNPLASTIC UNIVERS. All rights reserved. 106 HY-ZACK
Modelled by Hiroshi Sato (H.R. DAFIN)

「ハイザック+試作型高出力ロングレンジ・ビーム・キャノン」通称「ビッグウイング」。
ヘイズルに続き、マーフィー小隊に配備された試作実験機の第2号機となったこの機体は、
後のメガ・ランチャーへとつながる装備である（エアリアルドやカールの乗るジムは製式版用におけた
評価試験機であって、最新技術試験機ではない）。
この超大型機体を佐藤弘が製作。84～85ページに掲載されたハイザックと
組み合わせられるように製作が同時進行で行われていたものである。



砲身部

シールドより後方の機体には発射システムが内蔵されている。高出力のビームは前方の銃身が適したため、高性能の市販システムは不可欠である。



ビーム射口

このビーム・キャノンには連射機能は目的としたものであり、射撃口の口蓋は通常のビーム・ライフルとあまり変わらない。



光学照準器

連射機能には欠かせない熱電センサーである。レーザー測距装置や照準器伊達メカなどにより照準を行う。



側面シールド

このシールドには電撃制御バーニアが内蔵されており、前線以外の機能を持った多用型シールドとなっている。



RX-121 ガンダムTR-1(フルアーマータイプ)封入!

バンダイのトレーディングカードゲーム「ガンダムウォー」の最新セット、「ベースドスターター」「ベースドブースター2」に、「A.O.Z」のキャラクターとモビルスーツが登場しているのはご存知の通り。それに続いて今月号では、電撃ホビーマガジン限定のオリジナルプロモーションカードが封入されているぞ。カードになったのは、ガンダムTR-1の別形態となる「ガンダムTR-1【ヘイズル】(フルアーマータイプ)」。

ひとつのデッキに3枚まで入れられるので、うまく使ってデッキを強化しよう。これまでにカード化された「エアリアルド・ハンター」、「ガンダムTR-1【ヘイズル】」、「ジム改高機動型」などと組み合わせ、黒(ティターンズの属性色)を主体としたティターンズデッキを組むのも夢じゃないぞ。



ノード背面

機体とのジョイント・パーツがわかる。ジョイント・パーツ
裏側の出っ張りは駆動装置バーニア用のプロペラントタンク
である。



胴部一瞥

折りたたみ式の関節を固定
するための保持フレーム
写真はその上面に
取付した状態。



肩関節ジェネレーター

高出力ビームを射出するため、2基のジェネレーターと
してハイザックの胴体前だけを真向している。機体の動
力パイプが繋がられているのかわかる。



インテーク

スラスターユニット前面に取付けられたインテークは「ヘイズ
ル」の機体であるブースターポッド前面に付いていたのと同
し、ピクウィグにはブースターポッドのジェネレーターが
兼用されている。



①-④は全有連中隊。中央の「HIGUDハイザ
ック」を除くとその大半がプラ板を主体とし
た工作であることがわかる。この後、デザイ
ナーである岡田隆雄の指導によるラジエ
ーターと燃料タンクの追加変更を経て完成。
⑤はスラスターの内部のディテールも確認し
あわせて再装。ジャンクパーツと自作の機体パ
ーツが組み合わされているのかわかる。





2 スラスター・ユニット

ここにハイザックは足を屈伸部を固定することができます。



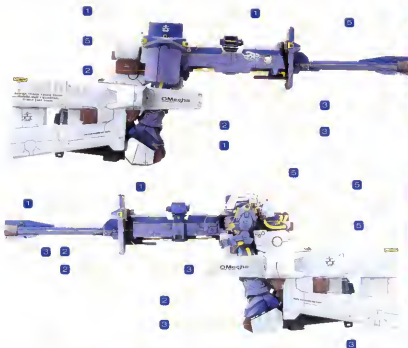
スラスター・ユニット

内装メカや円形の機体部分などがわかる。スラスター・ユニットは容易に取外すことが可能である。



スラスター・ユニット

大脚のTR-2に動力を与えるスラスターとプロペラントタンクを兼ねたユニット。ユニット下部には機体用のランディングギアも内蔵されている。



ハイザックの右側面が完全に動くジョイント・フレームに固定されている。関節のロッキング・アームによって動向は固定されている状態である。



右側面

通常のハイザックには肩アーマーにスパイクが付いているが、ロッキング・アームの邪魔となるため取り外されている。



①スラスター・ユニットを外した状態の背面。足力ケーブルの接続部などがブロックの構成が読み取れる。
②～④ハイザックを外したビーム砲ユニットの裏面。プラ板工作ならではの精度で完成品にはほとんど見えない箇所まで作り込まれているのがわかる。
⑤ビーム砲にエネルギーを供給するためのジェネレーターとして、ハイザックの腹幹部がまるごと変われているという設定なので、作例でも先行製作型にあわせて形状を変更したものが見え込んでいる。



YRMS-106+BL-85X

バイザックTR-2"ビグウィグ"

バグダイ! H4スケールプラスチックキット

"ハイグランドニールスランチュリー"

RMS-106 バイザック改造

製作: 文 佐藤弘(オーバードード)

HGUCで作った先行機型生ハイザックには大抵のウエユニットが存在していて、実はこのシュートベントもユニットが存在していた。実はこのシュートベントは、(?) が本意の作例なのでした。

改造製作開始です。どんでんづき機を切り出してバグダイに組み込んで、イキナリ完成です(大さく作りすぎたタメでした)。気を取り直して合わせをとりつつ作り直します。このときは1/1マシガンズをスクラッチするようなイメージで組み立てていきます。

1/144と書いても全員で完成させるので、形が出しても手ごたえのある作業でした(バランス調整に1ヵ月かかっています)。

シールドはプラ板とエポバテで作ったものをレジン複製して使っています。こうして取り付けるパーツが揃ってくると、しっかりとクリアランスをとったりしなければならぬので、一度各パーツをそれぞれつなぎ合わせてバランスを見たりします。..ほとんどプラ板の白色なので、ちょっと見はペーパークラフトみたいですが。各部分パイプもプラ棒を曲げてモンシガン・ミナルのようにくまを付いたりしてみました(メカ・ビーム砲のバグのみメッシュコースを使っています)。

■ハイザック本体
キットのボディパーツをいじってフレームがむき出しのハイザックを作ります。残りは1月号のハイザックの手足と頭を組み合わせて両腕(スバイクアーマー)のスバイクはあらかじめ組立型にしておきます。プラ板で、このむき出しのフレームを作りながら、同時にフンドシのリブ付ジョイント・パーツを作ります。このハイザックにはノーランバックパックの代わりにこのユニットの大型エネルギーが付くので、バランスを取るためもう1機分のボディパーツを背中合わせにしつつ、コグビットハッチやタクトのフタをエポバテで作りました。

☆巨砲頭に組み込んだコピーマンのビー玉用マガジンです。これだけ大きいものをガッチリ固定するにはこのH4に準ずるジョイントユニットが不可欠でした。一ダマンのパーツはほかにも使えそうなので、後者の皆さんも使ってみてください(加工も楽なのでオススメです)。

■塗装

基本的にはヘイズルカラーと同様ですが、フレームのブラウンのみ「ガンダムカラー・ドムローパー用」のブラウン(3)に白を少し加えたものです。

ちなみにプラ板工作は実中学生以来でした。お小遣いでちょっとずつ改造していた時代を思い出して、ノスタルジックな気持ちになりました。それではまた。

■PROFIE

さとう・ひろし・石川真人(編中モデラー、近所ノこの作例に2ヵ月経ってしまったのでフィギュア無断使用が..)。来月登場はフィギュア3種にするべくスケール調整、果たして実現はいつか? (リック・トム)

◎戦術機、設定上はこれに格納されるということになっているが、作例では適度に不安があったため、ここは設定としてみる。

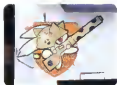
◎"ビグウィグ"のユニットとしてのハイザックの改造。右翼と機体の色が大きく変更されている。

◎右翼のジョイント・フレームから伸びるケーブル突出部で製作を行っている。

◎左翼スバイクアーマーはスバイクの有線を使い機体と両翼で繋がるようにしてある。

◎右翼機体にはないディストリスは、一ダマンのビー玉マガジンを組み合わせたもの。"強度、形状ともに非常に適するパーツ"とは作者の弁。

マーキングバリエーション



TR-2「ビグウィグ」のオリジナルマーク。ヘイズルと同様に、マーフィ小隊のシンボルであるウサギがTR-2の顔面イメージを占める大きな特徴とされている。

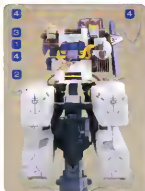


↑ 機体の右舷であるアレキサンディア機体塗装「アラウン」の文字がペイントされている。

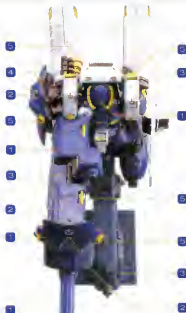


マーフィ小隊の機体の機体に大きく描かれているのは「TITANS TRIAL MOBILE SUIT TEAM」に配備される機体であることを示すTR-2を模倣としたロゴマーク。

カラーリングデータ



- ① 機(頭)→「ガンダムカラー・ブルー(四)」+「ガンダムカラー・ホワイト(1)」
 - ② 機(機)→「ガンダムカラー・グレー(11)」+「ガンダムカラー・ブルー(四)」+「ガンダムカラー・ホワイト(1)」
 - ③ グレー→②機・PLMグレーパイレット+④機・ジャーマングレー
 - ④ 機・ダンバインカラー・オーラレッド1+「ガンダムカラー・ホワイト(1)」
 - ⑤ 機・白機・黄機色+「ガンダムカラー・ホワイト(1)」
- すべてGSIクレイスイズ「Mrカラー」ガンダムカラー、「ダンバインカラー」を使用。





DAMAGED GAPRANT ELIARD HUNTER use

DAMAGED GAPRANT ELIARD HUNTER use

BANDAI 1/144 scale plastic kit
"Mobile Suit Z GUNDAM"
modified by Kouichi Saito

EPISODE1. ③の冒頭でボロボロの
状態で登場した、ギャプラン。主人公で
あるエリアルドの乗機をサエキコウイチ
が限定モデルとして製作。1/144スケールの
キットを「MA時にいかにも壊びそうな形状」に
することを念頭においてプロポーションを改修。
さらにそこから、わずか1カットの特撮ロケの
のためにクラッシュモデル化するという
工程を経て完成したものだ。
それぞれに異なるダメージを考えて加えられた
破壊表現をご覧いただきたい。



MS-14F GELGOGG MARINE

BANDAI 1/144 scale plastic kit "High Grade Universal Century"
modeled by Takayuki Konomi / Painted by Masayuki Okada

EPISODE1.0に登場した
ジオン軍機動
ゲルググ・Mは新人・小松敬幸と
ベテラン・岡田雅之がタッグを組んで製作。
モノアイスリットの加工や各パーツの
フチを削るなどの基本工作を小松が担当。
そこからさらに岡田がダメージ表現や
塗装などの仕上げを担当した。
登場シーンはすべてが破壊されたもの
ばかりなので、ここで全身を
紹介しておこう。



1/144スケールキットの組み合わせで
ジオン残党仕様のF2型ザクⅡを作る。



EPISODE2.1でジオン残党軍として、マーフィー隊長のハイザックと激戦を繰り広げたF2型ザクⅡ。

実はこの作例、HGUCザクⅡをベースにしてどこまでF2型に近づけられるかを

テーマとしたもの。設定的には残党軍が各ブロックを組み合わせながら

使用し続けてきた機体といったところ。

今回はその工作途中写真もあわせてご紹介いただく。

①② 全身体中写真。HGUCの「ガルマ専用ザクⅡ」にHGUC「グフ」と同小形の「グフカスタム」のパーツを等価していることがわかる。

③ 機体はブレードアンテナやバルカン砲の穴を等価したが、推進部のパーツは若干深く削り込んでいる。黒パーツはピンを切り落とすとして後ハメできるようにしたほか、関節カバーを削り取った。

④ グフカスタムの胴体をベースに海軍版の「T」字部をバネで固定して両脇。両腕部はやや削り取らるよう作り替えている。



MS-06F-2 ザクII

バンダイ/144スケールプラスチックキット
"ハイグランドユニバースシリーズ"
MS-06F2 ザクII改造

製作・文 岡田雄之

この「A.O.Z.」に登場するジオン製モビルスーツのトータルコンセプトは、「まともな機体をほとんど持たないジオン残党兵が、ありあわせのパーツで造ったミキシングモビルスーツ」といったところです。このコンセプトを事にゲルググ、ドムに続いてFとタイプのザクIIを製作しました。前編やランドセルはグフカスタムのパーツを使用している設定とし、岡キットのパーツを若干形状変更して使用しています。その他はHGUCザクIIをベースにFと型らしく細部を改造。またFと型の最大の特徴である上半身は、グフカスタムから拝借しています。塗装はガンダムカラーの重塗装型ザクIIを使用。また他のジオン製モビルスーツと同じくバルバロージなどをキツめにを行い、使い古されたイメージを表現しています。ノーマルザクとFと型との中間的な胡散臭さを出したかったのがこのような作例になりました。普通のFと型が欲しいならMGを使えばよい訳ですから、これを見て「こんなのFじゃない!」とか驚いこと言わないでくださいな。

■PROFILE

おかだ・まさゆき一得意技は重装甲。近況/最近ガンダムに目覚めた我が家の長男(3歳)。せっかく買ったガンブラをすべて換取りされる。小遣い少ないんだから激しかったらママに買ってもらう!! [シャア専用ズゴック]



シール貼

視覚書であることを表示するために大きく書かれた「SIEK ZAKU II」(ジオンに敵対)をノリで文字、背景、Tロゴと貼っている視覚書の機体には必ずこれが書かれています。



座

スクートアーマーはF型から使用されているものだが、センタアーマーにスラスターノズルが設置されていることから内部構造はF2型のものでと推測できる。



上半身

F2型に見られる特徴的な肩関節平に刻し、関節はF型のものも使用されている。形状に異なる構造から、異く異い扱いにきた機体であることが見て取れる。



脚部

最末的なブロックにはF2型のものではなくF型のものが使用されていることがその関節構造などから見て取れる。



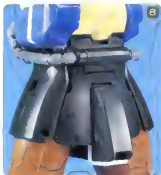
頭部

一見するとF型がベースになっているようだが、ヒザアーマーの構造や形状に若干の違いが見られる。



ランドセル

明らかにF型とは異なるものが使用されているが、バーニアノズルの形状などはF2型のものではない。



8



9



5

- ① 肩は肩ち手前えられた部分。比較例F2ザクに近い形状のグフをベースに肩の甲が前面になるよう、裏面に削り込みを入れた。手前には目立つ「ハイグランドユニバース」レーダーマーク。
- ② 左腕はバイクアーマーはグフカスタムのものを改造。中央のスライダはバーニアノズルとプーを加工して再現。
- ③ ランドセルもグフカスタムから再現。上記に市販パーツを使ったバーニアを改造してある。
- ④ スクートアーマーはF2型専用のティールを削ったほか、センタアーマー下部に市販の角状ノズルを接合した。



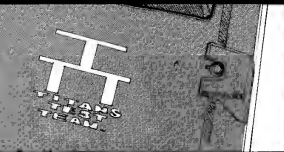
MS-09R RICK-DOM

BANDAI 1/144 scale plastic kit
High Grade Universal Century
modeled by Maseyuki Okada

ドム・トローペンを
ベースに、ゲルググ・マリーネの
マシンガン、スパイク・シールド、
バックパック、スカート内バーニアを
使って作られたリック・ドム。

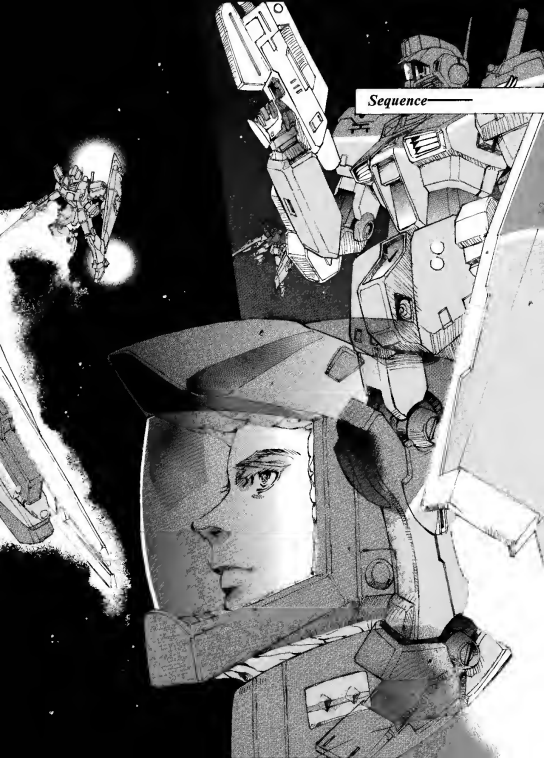
Ignition—

● ● ●



T
T
T

Sequence





ADVANCE OF Ζ

ティターンズの旗のもとに

原作／富野由悠季・矢立肇

オリジナルストーリー／今野敏

オリジナルデザイン／齋藤卓也・藤岡謙機

作画／みずきたつ

U.C.0084

ウェンツエル中隊
演習終了
これより帰投する

地球周回軌道上——

エアリアルド・
ハンター中尉

ゼルキン少佐の
ところへ
出頭して下さい

少佐のところへ？



栄転だ

君は
ティターンズ入隊を
許可された



ティターンズ
に？

僕が…

ただの幸運だと思ふなよ
お前の他に一体
何人の士官が
志願書を
書いたと思う？

なんて顔をしている

選ばれた者には
それらしい威風も
必要だぞ

堂々としろ
エリアルド・ハンター
中尉





連邦軍エリートの
仲間入りか

同期でも
まだ何人も
いてないん
じゃないかな

正直
実感が
ない

制服が
変われば
嫌でも感
じる
様になるさ

「デラース紛争」時
ほどじゃないにしても
今でも
暗黒宙域なんか
反乱分子共が
ウヨウヨしてる
そうじゃないか

模擬戦
なんかじゃない
実戦で腕を
磨けるんだぜ

時代遅れの
悪タレたちに
正義の鉄槌を！

俺は
落第だ

残念
ながら

オルト

そうか





アスワンの
MS小隊だ!



ジム
クウエル
か?

いや
ちよつと
違うな

とうとう来た

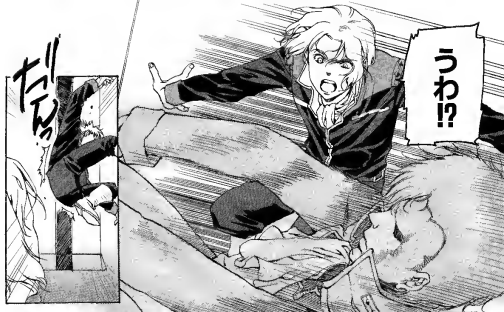


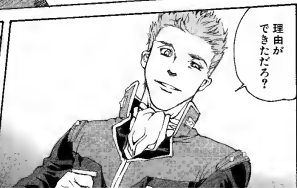


アレキサンドリア級宇宙巡洋艦「アスワン」

MAINBRIDGE







上等カマッ!



また
始まったぞ!

どっちも
新しく来た
パイロット
らしいぜ

ありやあ
3日は
独房入り
決定だな



いいかげんに
しなさい!



二人とも
やめて

やめて
下さい!

あなたたち
ここに
ケンカを
しにきたの!?

もう
初めから
これじゃ…

ブラックオター小隊
オードリー・
エイプリル中尉です

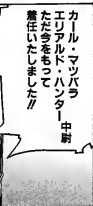
エアアルド・ハンター
カール・マツバラ
両中尉をお迎えに
まいりました…

—は?

両中尉?

…アジ?

最悪だ…



ブラックオター小隊隊長
ウェス・マーフィー大尉だ

まったく
勇ましい登場の
仕方だな

さて
どうするか…

本来ならこれからの
タイターズを担う
若者たちに

先輩として
隊長として

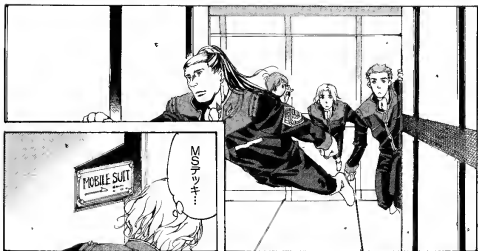
士気高揚の
ための
一言二言でもと
考えて
いたんだが…

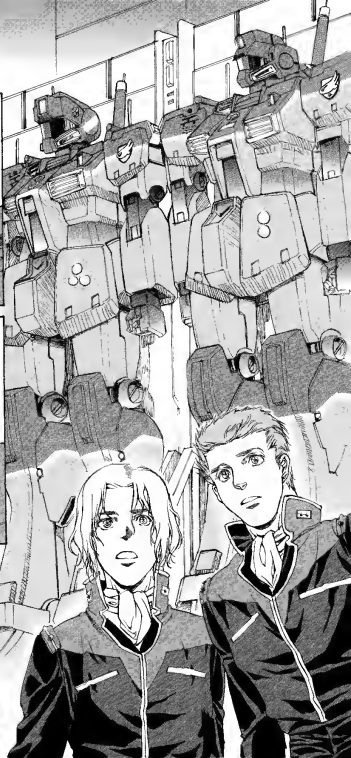
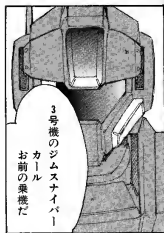
お前たちには
そんな必要も
なさそうだな

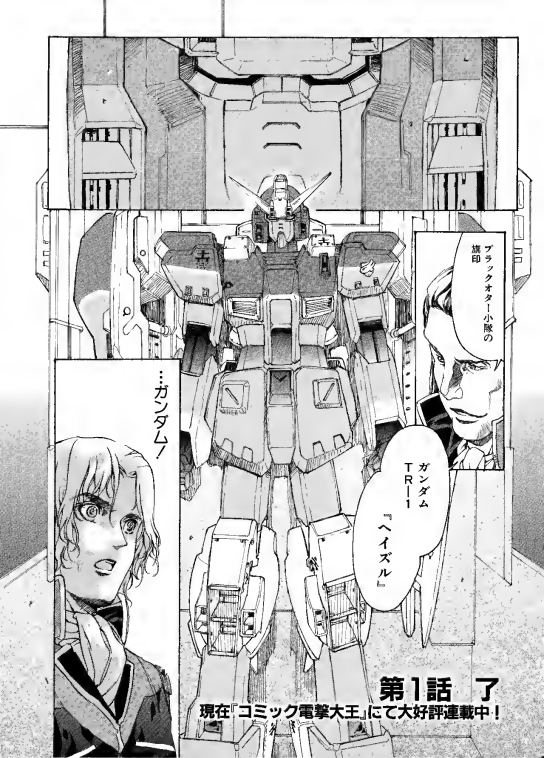
よし…

その面に
お似合いの
口上を
思いついたぞ

ついてこい







ブラックオター小队の
旗印

…ガンダム！

ガンダム
TR-1

『ヘイズル』

第1話 了

現在『コミック電撃大王』にて大好評連載中！



「日本の海外展開はビジネス機会の確保を目的としているのが現状であり、企業主導型で進んでいる。最近では、政府主導型に変わった例にも見られるが、エリア別には1輪を倒れ、ターゲティングの進捗も遅れている。新しい国に展開し、新しい市場を開拓していくことが大切だ」

要注目! コミックならではの「見どころ」はココだ!

コミック版「A.O.Z」は、ホビーマガジンの連載で描かれていないエピソードが満載。モビルスーツ同士の戦いはこちらなのですが、なによりもエリアルドたちの人物描写に注目ですね。彼らの知られざる一面が垣間見られるので、より深くストーリーを楽しむためには要チェックです!



おしめらエリアルドにお誘いものの方、私の行くオードリーと彼を足するデューパー。それでも戦地がよく判ると希望が通るべくぞん。パイロットなら誰でも持っているであろう「デングラム」への思いが伝わりますよ。



『アドバンス・オブ・ゼータ』
大好評連載中!

コミック電撃大王 毎月21日発売!

発売:メディアワークス 価格:本体820円+税



人は思わぬほどよらないとは思いますが、マーフィー隊長のウツクサや、オードリーの愛憎関係という、とっても魅力的な面が見られるこのシーン、オードリーの感情表現に、小隊内の雰囲気も表現されます。

電撃ホビーマガジンスペシャル
ADVANCE OF Z
アドバンス・オブ・Z
ティターンズの曲のもとに
Vol.1

STAFF

編集:長谷川真、佐々木健、加久津明、電撃ホビーマガジン編集部
編集協力:栗田敬文、守屋史郎、高橋隆史、渡辺直樹
アートディレクター:CREATIVE STATION BEE-PEE(荒玉賢吾)
表紙・デザインDTP:CREATIVE STATION BEE-PEE(永田敏之、SOKURA)

撮影:LCRAFT
協力:株式会社サンライズ・ライン営業部ガンダム課
株式会社バンダイ・ホビー事業部

発行日:2003年6月10日 初版発行

発行人:佐藤清彦
編集人:佐藤忠博
発行所:株式会社メディアワークス
〒101-8305 東京都千代田区神田坂町1-8 東京YWCA会館
電話 03-5281-5238(編集)

発売元:株式会社角川書店
〒102-8177 東京都千代田区新土境2-13-3
電話 03-3238-8805(営業)

印刷・製本:凸版印刷株式会社

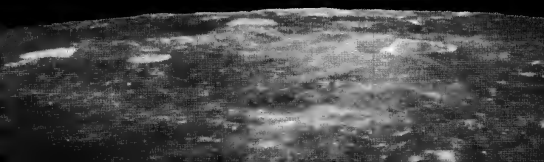


※本書の全部または一部を厚紙で複写(コピー)することは、著作権上の例外を除き、禁じられています。本書からの記事を転載される場合、日本複製権センター(03-3401-2382)にご連絡ください。

Printed in Japan

落丁・乱丁本はお返しします。

ISBN4-8402-2399-8 C9476
雑誌64883-02



レーダーが高速で接近する物体を捉えた
味方の識別信号を出している。エリアルドは思わずつぶやいていた
「何だ？ モビルアーマーか…」



機動戦士

ガンダム SEED のプラモ 完全網羅!!

公式外伝「ASTRAY B」も
まとめて掲載!!

最速・最強! 136ページまるまる「SEED」!!

GUNDAM SEED & ASTRAY MODELING MANUAL Vol.1

ガンダムSEED&アストレイ モデリングマニュアル Vol.1

好評発売中

「電撃ホビーマガジン」で人気の「機動戦士ガンダム SEED」関連の記事をまとめた総集編。
最新アイテム「フリーダムガンダム」を含め、プラモデル化されているすべてのMSを完全攻略!
さらに、ホビーマガジンで連載中の公式外伝「GUNDAM SEED ASTRAY B」もまとめて掲載!

定価: 本体 **1200** 円 + 税

公式外伝「ガンダムSEED ASTRAY」とは? 「SEED」の本編で活躍する5体のガンダムのデータを盗用し、別ルートで開発された「アストレイ」という名のガンダム。その活躍を「電撃ホビーマガジン」(メディアワークス刊)、「少年エース」(ガンダムエース)、「ザ・ニューカー」(角川書店刊)の4誌合同企画として展開中、電撃ホビーマガジンでは、そのうちの1機「ガンダムアストレイ ブルーフレーム(ASTRAY B)」の活躍をお届けしています。

GUNDAM



岬光影の「すくすくスクラッチ」単行本化!

GUNDAM SCRATCH BUILD MANUAL

ガンダム スクラッチビルド マニュアル

定価: 本体 **2500** 円 + 税

絶賛発売中

業界初! 「ガンダム」限定のスクラッチビルドのノウハウ本。既存のパーツをよりカッコ良くする工作方法や、パーツから作り上げる高等技術まで、豊富な写真で分かりやすく解説! 「自分だけのガンダムが作りたい!」。そんなガンダムファンの思いをこの本が叶えます!

売れ行き好調!
ファン必携の
**ガンプラ
製作辞典**

発行 ■メディアワークス 発売 ■角川書店

<http://www.mediaworks.co.jp/>

商品はあちくの書店・コンビニエンスストアでお買い求めください。

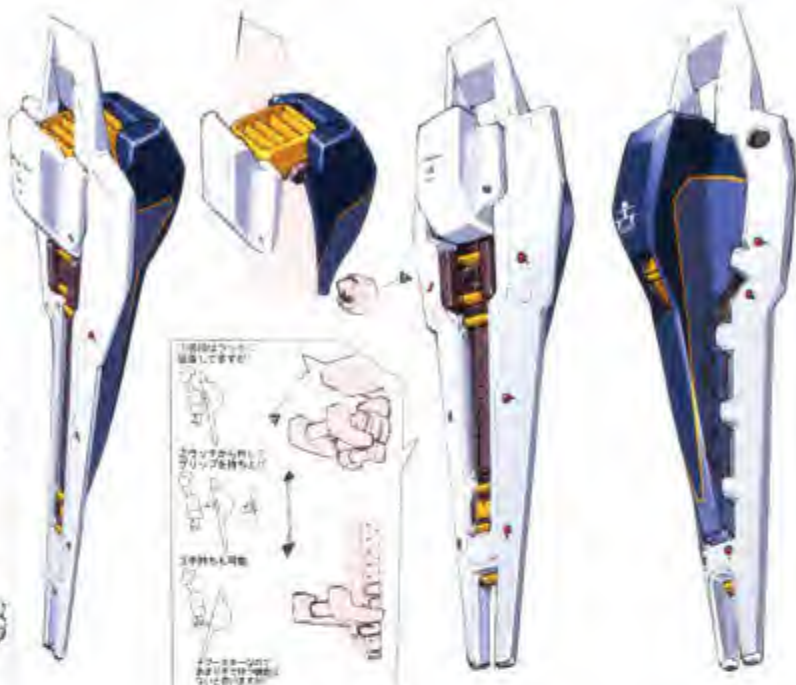
その依頼入方式・書店に不便の際は「直接販売」(TEL:03-5280-7558) または、メディアワークスのホームページをご覧ください。

シールド・ブースター

ガンダムT-F1の客観的用途も特徴的な装備がこの「シールド・ブースター」である。シールド・ブースターは、防衛装備としての機能しか持っていないが、このシールドに、補給機基盤としてプロポーションタンクとスラスタを内蔵した装備である。

プロセッサ・ランタンは、透過型（プロセッサ）を人眼と外鏡との隙間（面ファング）のことで、主にMSが作れるように作られた。この両面鏡の原理に依る。プロセッサ・ランタンを使用すれば、MS内部の電流を消費するのをなくし、ランタンで稼働することになる。戦闘継続時間の延長が可能となる。そして、このプロセッサ・ランタンを発見後、推進器を取り付けた装置がシムルム・ブースター（この装置は推進器である）。戦闘の際、これらの装置が瞬時に作動するのを待ってランタンを消費する。これらの装置に設置するのをセリヤとされている。

シート・ブースターはこれら各々に開発され、使用後のシヤトルム・ブースターを廃棄せずシートとして再利用するといふ発想のものにもなれた。当然製造コストは高くなるが、廃棄後の処理が難しいシヤトルム・ブースターに比べ、破壊しなければ何處でも使用が可能というメリットがある。また、回収性の廃棄物を使用すれば廃棄時の速速なといふ危険性を避けることもできる。被爆者運搬車としても防衛物資としても申し分ない装置となった。



ガンダムTR-1[ヘイズル] 最終形態

この断熱効果は「夏はクール、冬はウォーム」によってカサタム1坪1000円以上も省け、建物の大断熱はクール・ウォームによってカバーされる。結果、新築費に對してもこの断熱効果が経費の削減ということができる。



建築別図では両側に装飾されるシート・トラスターを背面のトラスター、ボットに表裏した形態がカンダムT1の「階層形」である。變形形態として呼び名は増加装飾システムとシート・トラスターをフル・オプションで装着していることから名付けられた階層であり、3枚のシート・トラスターの推力を一定の方向に揃えることで大加速を前られるようにした「垂直加速形」、でも形質が予測可能な一方向の加速。カンダムT1の両口にこの「階層形」特有の

グリップが収納されており、それを握る
瞬間を固定し安定した巡航を可能にしている。
このカンダムTFR-1「銀鯨形態」における推力
方向の統一というコンセプトは、後のラ
イターズによる可変MSの開発に
少なからず影響を与えている。



連邦軍モビルスーツ シールドの変遷

1985年以降、大火力のビーム兵器が一般化するにつれシールドはビーム兵器を防ぎきれなくなり、シールドでの防衛はあくまでも最終的な手段とする考え方が主流となる。そのためシールドを消耗品とする見方は薄れ、MSのシステムの一部として防衛以外の機能を持たせた多機能シールドが広く普及してゆく。ここではシールドの歴史を追っていく。



ガリウムとリンの異位に収納された固定型グリップバー。これを使うことで無条件で固定し、被触されたシート、プースターは押付方向を指定させる。このホールディング・グリップで動きを固定しないと、シート、プースターによる長時間の強力摩擦に腐敗部が形成されない可能性がある。

MOBILE SUIT
Illustrated 2003

Mobile Suit GUNDAM
Mobile Suit Z GUNDAM
Mobile Suit GUNDAM ZZ
Mobile Suit GUNDAM CHAR's Counter Attack
Mobile Suit GUNDAM 0083 War in the Pocket
Mobile Suit GUNDAM F91
Mobile Suit GUNDAM 0083 Stardust Memory
Mobile Suit GUNDAM 0083 Last Blitz of Zeon

Mobile Suit V GUNDAM
Mobile Fighter G GUNDAM
New Mobile Report GUNDAM W
After War GUNDAM X
Mobile Suit GUNDAM The 08th MS Team
New Mobile Report GUNDAM W Endless Waltz
V GUNDAM
Mobile Suit GUNDAM SEED

MSV/Mobile Suit Variation
MS X/Mobile Suit X
Z MSV-Z Mobile Suit Variation
ZZ CCA MSV-ZZ CHAR's Counter Attack Mobile Suit Variation

GUNDAM SENTINEL
Mobile Suit GUNDAM DOUBLE-FAKE
M-MSV Kurio Okawara Collection
Mobile Suit GUNDAM F90
Mobile Suit GUNDAM Shinobu's Formula 91 IN M.C. 90
GUNDAM WING DUAL STORY G-UNIT
Mobile Suit GUNDAM Cross Dimension 0079
Mobile Suit GUNDAM SIDE STORY THE BLUE DESTINY
Mobile Suit GUNDAM MOBILITY FLEET 0079
Mobile Suit GUNDAM THE ORIGIN

and the other



カバーイラスト/カトキハジメ

収録モビルスーツ580体 今、歴史が語られる…

機動戦士ガンダム MS大全集2003

MOBILE SUIT Illustrated 2003

ファーストガンダムから最新ガンダムSEEDまでの映像作品はもちろん、ホビー、トイ、ゲーム、コミックス、小説、そして食玩まで、24年の歴史に書かれた延べ580体に及ぶMS設定を網羅。「宇宙世紀テクノロジーガイド」などの追加データも多数収録した「MS大全集98」の増補改訂新装版!

定価:本体1,900円+税

好評発売中

発行 ■メディアワークス 発売 ■角川書店

<http://www.mediaworks.co.jp/>

商品はお近くの書店でも買えます。

その他購入方法 ■書店に不便の際は1本の注文/券 03-5280-7558 または メディアワークスのホームページをご利用ください

『機動戦士Zガンダム』の世界よりオリジナルストーリー総集編

電撃ホビーマガジンスペシャル

THE FLAG OF TITANS VOL.1 DENGKI HOBBY MAGAZINE SPECIAL

ADVANCE OF Z

アドバンス・オブ・Z

～ティターンズの旗のもとに～

ADVANCE OF
ティターンズの旗のもとに

Vol.1





9784840223997



1929476007902

©新通エージェンシー・サンライズ

発行●メディアワークス

ISBN4-8402-2399-8

C9476 ¥790E

定価： 本体790円 ※消費税が別に加算されます。

雑誌64883-02



ADVANCE OF Z
THE FLAG OF TITANS Vol.1

DE
GEKI
MUKU
電撃ムック
シリーズ

ADVANCE THE FLAG OF TITANS

Vol.
1



『機動戦士ガンダム
オールの世界』の
オールドファンに
あつた感動を
再び味わおう
『機動戦士ガンダム
オールの世界』の
オールドファンに
あつた感動を
再び味わおう